

病 院 年 報

— 第 2 3 号 —

令和 6 年度



杉田玄白記念公立小浜病院

病院理念と基本方針

病 院 理 念

『 地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院 』

基 本 方 針

- 1) 杉田玄白の進取の精神を受け継ぎ、良質で新しい医療を提案し、安全・安心な医療サービスに努めます。
- 2) 医療連携を推進し、中核病院として地域のニーズに応えます。
- 3) 公共性に配慮しつつ、健全な経営をめざします。
- 4) 教育・研修を充実させ、優れた人材を育成します。

巻頭言



病院長 菅 野 元 喜

令和5年5月新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行、令和6年度は新型コロナウイルス感染症後の患者さん方の病院離れ、物価上昇に伴う経費の増加、人事院勧告等への対応の年となりました。

この中には

令和7年度病院目標

- ① 来院患者さん・入院患者さん/ご家族への迅速対応・サービス向上を柱に頼られる病院・親しまれる病院を目指す
- ② 5%の増収と5%経費削減

に向けての準備、あるいは、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で落ち込んだ検診受検率の回復に向けた準備なども含まれます。

令和6年度の各科・各部署の取り組みの成果は今後の病院運営の展開を考える上での基礎データと考えます。

皆様にもご供覧いただき、また、アドバイス等戴けましたら幸いです。

令和7年7月

— 目 次 —

病院理念・基本方針

巻頭言 病院長

I. 病院概況

施設概況	2
沿革	4
建物配置図・断面図	6
組織図	7
役職員一覧	8
院内会議・委員会一覧	9
職員数	10

II. 活動状況

1. 各科・各部署の活動状況

内 科	12	救命救急センター	
循環器内科	15	救急総合診療科	39
小 児 科	16	病 理	40
精 神 科	18	歯科口腔外科	41
産婦人科	19	健診センター	44
外 科	21	血液浄化センター	45
整形外科	27	消化器センター	46
形成外科	28	画像診断センター	
脳神経外科	29	診療放射線科	47
心臓血管外科	30	薬 剤 部	48
眼 科	31	臨床検査科	50
耳鼻いんこう科	32	リハビリテーション科	51
皮 膚 科	33	食事療法科	58
泌尿器科	34	臨床工学科	59
手術センター・麻酔科	36	臨床心理室	60
放射線科	37	看 護 部	61

2. 院内委員会及び医療チームの活動状況

73

3. 学術活動等

96

Ⅲ. 各種統計

外来患者数、入院患者数	107
平均在院日数、病床利用率、救急車搬送患者数	
時間外診療患者数、へき地巡回診療患者数	111
手術件数、分娩件数、内視鏡検査件数	112
薬剤部統計	113
画像診断センター統計	
リハビリテーション科統計、食事療法科統計	114
臨床検査科統計	115
地域連携・医療福祉相談件数	116

Ⅳ. 決算概要

経営・財務指標	119
事業報告	120
事業収入に関する事項	121
事業費に関する事項	122

I . 病院概況

(令和6年4月現在)



本館・救命救急センター



西館（正面玄関）



東館



外来新棟



杉田玄白像



薬草園（東側玄関）

施設概況

所 在 地	福井県小浜市大手町 2 番 2 号
設 立 形 態	一部事務組合立病院
構 成 市 町	小浜市、若狭町、おおい町、美浜町
代 表 者	組合長（小浜市長）

敷地面積	24,479 m ²
建築面積	9,029 m ²
延床面積	32,027 m ²

(本館は免震構造)



病 床 数 456 床（一般 296、療養 50、結核 8、感染症 2、精神 100）

診療科目 救急総合診療科、内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、
整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、
産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、
病理診断科、歯科口腔外科

入院基本料	一般病棟	急性期一般入院料 2
	療養病棟	療養病棟入院料 2
	結核病棟	10 対 1 入院基本料
	精神病棟	15 対 1 入院基本料（看護補助加算 2）

救命救急センター(12床、うちICU・CCU 7床、無菌室1床)、HCU(15床)、健診センター(6床)、血液浄化センター(42床)、小児療育センター、画像診断センター(PET-CT、MDCT、MRI、IVR、骨塩量測定装置等)、免震構造(本館部分)、放射線治療装置、結石破碎装置等

併 設 施 設 公立若狭高等看護学院、介護老人保健施設アクール若狭、
院内保育所（ふくろう）、小浜市病後児保育所（とまと）

指定医療機関等の状況

健康保険法保険医療機関、国民健康保険療養取扱法機関、労働災害補償保険指定医療機関、結核予防法指定病院、生活保護法指定病院、被爆者一般疾病医療機関、養育医療指定医療機関、厚生医療指定病院、育成医療指定病院、第2種感染症指定医療機関、救急告示病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院、病院群輪番制病院、難病指定医療機関
福井県指定小児慢性特定疾病医療機関、管理型臨床研修指定病院、協力型臨床研修指定病院
(福井大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院)、地域周産期母子医療センター、母体保護法指定施設、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設、救命救急センター(新型)、DMAT指定医療機関、地域包括医療・ケア認定施設
(財)日本医療機能評価機構認定病院(機能種別版評価項目 3rdG:Ver.2.0 認定)
※身体障害者福祉法指定医

専門医、認定医教育病院等、学会の指定状況

日本専門医機構認定【基幹：整形外科、総合診療】【連携：内科、小児科、精神科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理、臨床検査、救急科、リハビリテーション科、総合診療科】

内科学会教育関連病院、内分泌学会認定教育施設、甲状腺学会認定専門医施設、腎臓学会認定教育施設、外科学会認定医修練施設、外科学会専門医制度修練施設、消化器外科学会専門医制度指定修練施設、消化器病学会専門医制度認定関連施設、整形外科学会専門医研修施設、脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設、小児科学会専門医研修関連施設、泌尿器科学会専門医教育施設、救急医学会認定救急科専門医指定施設、麻酔科学会認定病院、精神神経学会精神科専門医制度認定研修施設、脳卒中学会一次脳卒中センター、周産期・新生児医学会認定母体・胎児認定施設、口腔外科学会認定准研修施設



健診センター



血液浄化センター



医師公舎・看護師宿舎



IVR 装置
(令和3年6月導入)



CT 装置
(令和5年12月導入)



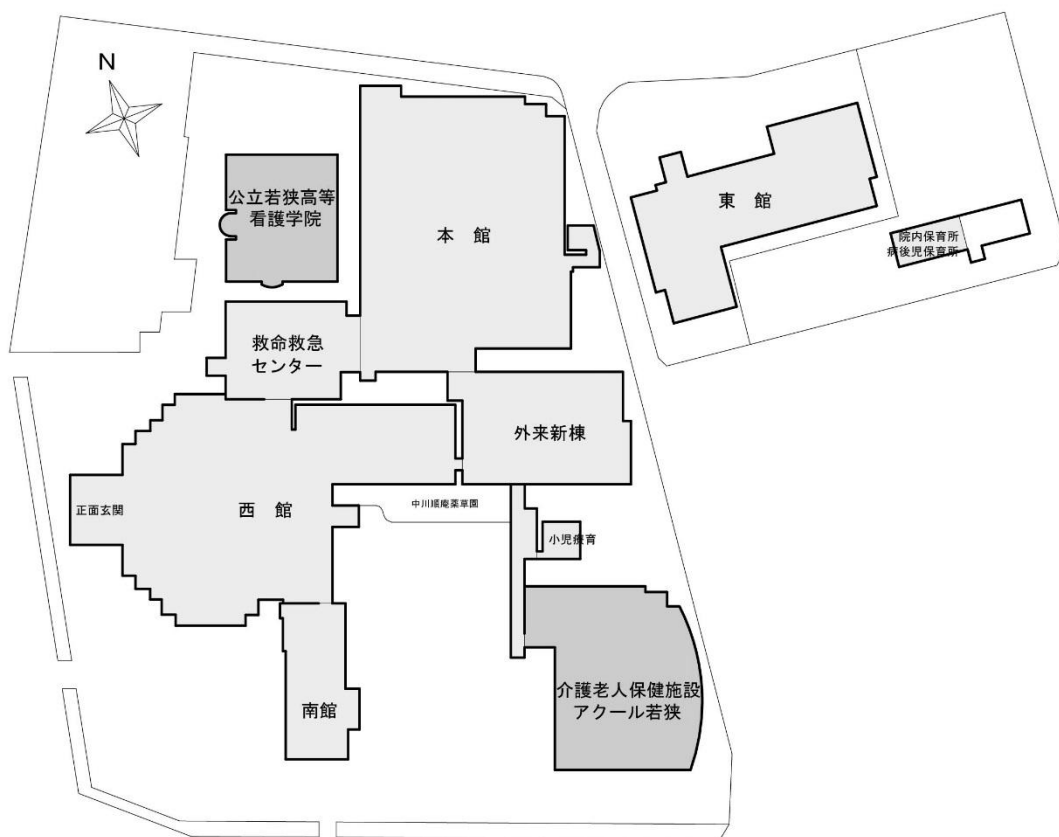
MRI 装置
(令和6年6月導入)

沿革

	年	月	日	事 項
明治	16	1	4	「県立小浜病院」として開設
	26	4	1	郡制実施により「郡立小浜病院」と改称
大正	12	4	1	郡制廃止に伴い小浜病院組合を設け「共立小浜病院」と改称
昭和	26	4	1	町村合併により一市八村の組合立病院となり、「公立小浜病院」と改称
	30	1	1	町村合併により一市一町一村の組合立病院となる(小浜市、上中町、名田庄村)
	32	9	1	総合病院の承認を受ける
	35	6	12	救急告示病院の指定を受ける
	53	12	1	第2次救急病院群輪番制病院の指定を受ける
	55	4	1	へき地中核病院の指定を受ける
	58	11	24	創立100周年記念式典
平成	2	4	1	公立若狭高等看護学院開校
	3	5	15	自治体立優良病院表彰式において自治大臣表彰を受ける
	4	7	2	病院施設整備事業起工式典(西館建設、既存病棟改修など)
	5	8	30	西館完成
	5	9	1	病床数変更 391床 (一般271床、精神100床、隔離20床)
	5	12	18	第2病棟、第3病棟 改修工事完了
	6	5	27	病院施設整備事業竣工式典(西館建設、既存病棟改修など)
	7	6	1	脳ドック開設
	10	1	19	災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定を受ける
	10	4	1	院内保育所開設
	10	8	25	立体駐車場完成
	11	5	25	遠隔医療システム稼働
	11	12	13	リハビリテーション施設整備工事完成
	12	3	29	介護老人保健施設アクール若狭開設
	13	4	1	三方町、美浜町が病院組合へ加入
	15	7	1	レイクヒルズ美方病院開設
	15	8	11	高度医療施設整備事業 第1期工事起工式典 (東館、医師公舎、看護師宿舎、学生寮建設など)
	15	10	30	単独型臨床研修病院の指定を受ける
	16	11	2	病床数変更 410床 (一般308床、精神100床、感染2床)
	16	11	10	高度医療施設整備事業 第1期工事竣工式典 (東館、医師公舎、看護師宿舎、学生寮建設など)
	17	3	30	上中町、三方町が病院組合から脱退(合併による)
	17	3	31	若狭町が病院組合へ加入
	17	6	1	福井県地域療育拠点設置事業受託開始

	17	10	1	指定居宅介護支援事業開始
	17	10	3	第 1 期オーダーリングシステム運用開始、院外処方箋発行開始
	17	10	27	高度医療施設整備事業 第 2 期工事起工式典(本館、救命救急センター建設など)
	17	11	1	小浜市病後児保育事業受託開始、病後児保育所開設
	18	1	18	協力型臨床研修施設(歯科口腔外科)の指定を受ける
	18	3	2	名田庄村が病院組合から脱退(合併による)
	18	3	3	おおい町が病院組合へ加入
	18	3	20	(財)日本医療機能評価機構の審査を受ける(審査体制区分 3 Ver.4.0)
	18	4	1	救急総合診療科開設、精神科デイケア開始
	19	10	1	病院の名称を「杉田玄白記念 公立小浜病院」と改称、救命救急センター開設
	19	10	25	高度医療施設整備事業 第 2 期工事竣工式典(本館、救命救急センター建設など)
	19	10	29	第 2 期オーダーリングシステム運用開始
				病床数変更 456 床 (一般 296 床、療養 50 床、感染 2 床、結核 8 床、精神 100 床)
	19	11	1	療養病床(50 床)運用開始
	20	4	1	単独型臨床研修指定病院として医科臨床研修医を受入れ
	20	11	1	小児科休日当番医制度を開始
	21	3	30	DMAT 指定病院となる
	22	3	15	エネルギー研究開発拠点化事業竣工
	22	4	1	消化器センター開設
	22	7	1	DPC 対象病院となる
	23	2	19	高度医療施設整備事業 第 3 期工事起工式典(外来新棟建設など)
	23	3	20	(財)日本医療機能評価機構認定更新(審査体制区分 3 Ver.6.0)
	23	3	22	東日本大震災に係る救護班派遣(計 5 班)
	23	11	21	外来新棟 診療開始 (脳外科、泌尿器科、眼科、精神科、皮膚科、歯科口腔外科、リニアック、売店、一般食堂)
	24	11	24	高度医療施設整備事業 第 3 期工事竣工式典(外来新棟建設など)
	25	4	1	小児療育センター開設
	25	5	25	中川淳庵薬草園を開園
	25	11	24	開設 130 周年記念若狭健康フォーラムを開催
	26	1	12	電子カルテシステム運用開始
	26	4	1	病床数変更 456 床 (一般 246 床、療養 100 床、感染 2 床、結核 8 床、精神 100 床)
	28	3	20	(財)日本医療機能評価機構認定更新(機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1)
	28	4	27	熊本地震に係る救護班派遣
	28	6	1	地域包括ケア病棟(52 床)運用開始
	30	3	1	病床数変更 456 床 (一般 296 床、療養 50 床、感染 2 床、結核 8 床、精神 100 床)
令和	3	3	20	(財)日本医療機能評価機構認定更新(機能種別版評価項目 3rdG:Ver.2.0)
	5	4	1	臓器移植法に基づく脳死臓器提供施設に認定

建物配置図



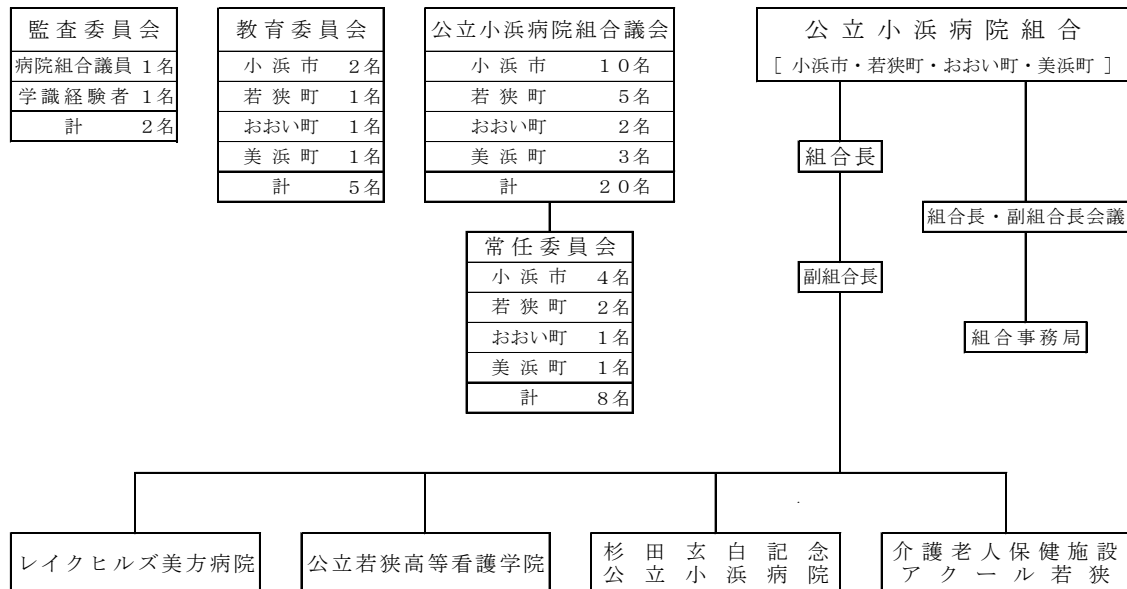
各階案内図

本 館		小児療育センター		南 館	
9階	会議室	1階	小児療育室	4階	福井県健康管理協会
8階	一般病床、感染症病棟、結核病棟	外来新棟		3階	管理部門
7階	一般病棟	2階	外来診療科	2階	管理部門
6階	一般病棟	1階	外来診療科、放射線治療、災害処置室、食堂、売店	1階	管理部門
5階	一般病棟				
西 館		救命救急センター		アクール若狭	
4階	療養病棟			東 館	
3階	一般病棟			療養室	
2階	手術センター、中央材料室、外来診療科、管理部門	ICU、CCU		精神科病棟	
1階	外来診療科、外来検査室、受付、会計、薬剤部、紹介患者窓口	救急診療室 救急専用病床		精神科病棟	
				精神科デイケア	
				療養室	
				リハビリテーション科、通所レクリエーション室	

組織図

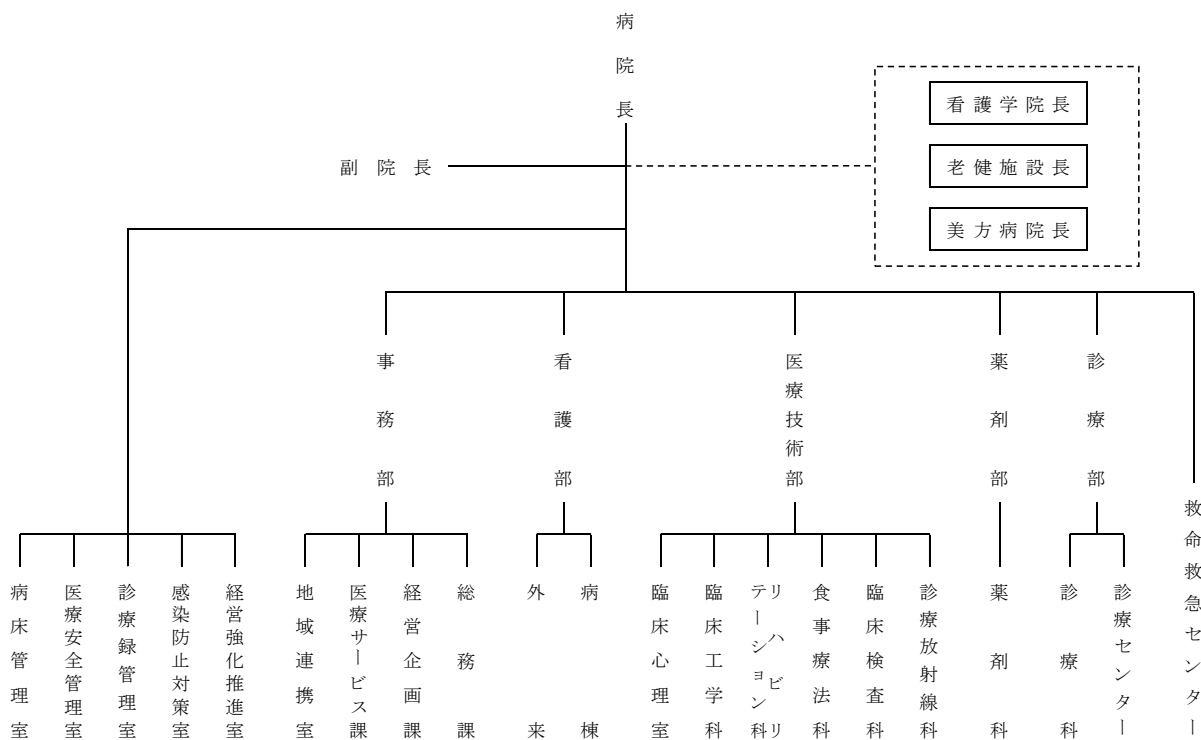
公立小浜病院組合 組織図

平成24年4月1日～



杉田玄白記念 公立小浜病院 組織図

令和5年4月1日～



公立小浜病院組合役職員一覧（令和6年度）

公立小浜病院組合

組 合 長	松 崎 晃 治	(小浜市長) (～R6.8.5)
	杉 本 和 範	(小浜市長) (R6.8.6～)
副 組 合 長	渡 辺 英 朗	(若狭町長)
〃	中 塚 寛	(おおい町長)
〃	戸 嶋 秀 樹	(美浜町長)
〃	谷 口 竜 哉	(小浜市副市長)

杉田玄白記念 公立小浜病院

病 院 長	谷 澤 昭 彦	(小児科) (～R6.10.31)
〃	菅 野 元 喜	(外科・消化器外科) (R6.11.1～)
名 誉 院 長	小 西 淳 二	(内科) (～R6.11.30)
〃	吉 田 治 義	(内科)
副 院 長	廣 瀬 敏 士	(脳神経外科) (～R6.10.31)
〃	鈴 木 裕 志	(泌尿器科)
〃	菅 野 元 喜	(外科・消化器外科) (～R6.10.31)
副院長(兼 統括診療部長)	菅 野 元 喜	(外科・消化器外科) (～R6.4.30)
統 括 診 療 部 長	原 慶 和	(小児科) (R6.5.1～)
診 療 部 長	荘 司 勸	(麻酔科)
〃	原 慶 和	(小児科) (～R6.4.30)
〃	服 部 由 香	(産婦人科)
〃	林 泰 生	(外科・消化器外科)
〃	土井田 誠	(歯科口腔外科)
薬 剤 部 長	白波瀬 正 樹	(薬剤師)
医 療 技 術 部 長	島 田 宏 司	(診療放射線技師)
看 護 部 長	中 村 ひとみ	(看護師)
事 務 局 長	田 邊 靖 雄	(事務職員) (R6.6.1～)
事 務 部 長	田 邊 靖 雄	(事務職員) (～R6.5.31)
〃	荒 木 義 智	(事務職員) (R6.6.1～)

公立若狭高等看護学院

学 院 長	谷 澤 昭 彦	(兼 務) (～R6.10.31)
〃	菅 野 元 喜	(兼 務) (R6.11.1～)
副 学 院 長	山 口 洋 子	
事 務 局 長	荒 木 義 智	(～R6.5.31)
	大 島 博 美	(R6.6.1～)

介護老人保健施設 アクルス若狭

施 設 長	廣 瀬 敏 士
総 看 護 師 長	佐 波 由美子
事 務 長	坂 本 孝 司

レイクヒルズ美方病院

病 院 長	井 上 仁	(内科)
総 看 護 師 長	窪 田 裕 子	
事 務 局 長	木 下 達 男	

院内会議・委員会一覧

【 会 議 】

組合事業運営会議

部長会議

医療安全会議

所属長会議

診療科代表者会議

病院運営会議

病床管理室会議

【 委 員 会 等】

倫理委員会

臨床検査適正化委員会

人事委員会

院内保育所運営委員会

医療安全管理委員会

栄養治療食委員会

臓器移植普及推進検討委員会

図書委員会

防災対策委員会

血液浄化センター運営委員会

医療ガス安全管理委員会

患者サポート委員会

放射線安全委員会

行動制限最小化委員会

院内感染対策委員会

褥瘡対策委員会

安全衛生委員会

医療機器安全管理委員会

情報システム委員会

虐待防止委員会

薬事委員会

ハラスメント防止対策委員会

診療録管理委員会

リハビリテーション運営委員会

DPC(診療内容検討)委員会

医療放射線管理委員会

院内研修管理委員会

職員の負担軽減および処遇の改善委員会

地域医療連携委員会

健診センター運営委員会

接遇委員会

人事評価制度運営委員会

広報委員会

療養病棟運営委員会

緩和医療検討委員会

経営強化プラン運営委員会

救命救急センター運営委員会

薬草園運営委員会

診療材料検討委員会

透析機器安全管理委員会

医療機器選定委員会

院内感染対策チーム(ICT)

輸血療法委員会

精神科リエゾンチーム

化学療法室運営委員会

排尿ケアチーム

クリニカルパス推進委員会

栄養サポートチーム(NST)

手術センター運営委員会

抗菌薬適正使用支援チーム

画像診断運営委員会

術後疼痛管理チーム

職 員 数

職員数の推移（各年度 4 月 1 日時点）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
医 師	52 (5)	48 (6)	52 (9)	55 (8)
臨床研修医（医科）	(8)	(7)	(6)	(5)
臨床研修医（歯科）				
薬剤師	10 (2)	12 (1)	13 (1)	12
診療放射線技師	12	12	12	12
臨床検査技師	13 (2)	15 (3)	16 (1)	16 (1)
歯科衛生士	1 (4)	1 (4)	1 (3)	1 (4)
管理栄養士	4	5	6	6
栄養士	3	3	3	3
理学療法士	18	17	17	19 (1)
作業療法士	14	15	16	16
言語聴覚士	3 (2)	4	4 (2)	5 (2)
臨床工学技士	7	7	8	7
視能訓練士	2	2	2	2
臨床心理士	2	3	3	3
助産師	14 (6)	13 (7)	11 (8)	13 (7)
看護師	243 (31)	248 (34)	256 (34)	254 (32)
准看護師	5 (12)	5 (10)	5 (10)	5 (8)
看護補助員	31 (17)	32 (14)	30 (13)	28 (15)
事務職員	45 (6)	48 (5)	48 (6)	45 (7)
その他職員	19 (34)	18 (34)	17 (36)	17 (33)
合 計	498 (129)	508 (125)	520 (129)	519 (123)

（ ）内は非常勤職員数を示した別掲数

医師の非常勤職員数には、他病院等からの嘱託医師数は含まず。

Ⅱ. 活動状況

1. 各部署の活動状況

内 科

[常勤医師] 永谷 菜穂 井上 元気 翠 洋平 多崎 俊樹
酒井 雅人 藤井 裕也 宮原 孝輔 藤田 朝陽
前田 良太 齋藤 大雅 堀内 裕介 吉田 治義※
吉田 美智子※ 荒木 克夫※ 小西 淳二※(～R6. 11. 30)
坂下 紗弓 馬場 大輔(～R6. 9. 30) 竹部 万由(～R6. 9. 30)
安田 沙羅(R6. 10. 1～) 稲田 ゆり(R6. 10. 1～) <※は嘱託医師>

[非常勤医師] (内分泌) 岡本 健太郎 (神 経) 山村 修 (腎 臓) 西川 翔
(消化器) 高橋 和人 (肝臓) 野ッ俣 和夫(～R6. 9. 30)
(糖尿病) 松原 靖 栗原 崇 (血 液) 山内 英暉
(リウマチ・膠原病) 秋月 修治 上月 友寛 稲葉 竜太
(呼吸器) 伊藤 功朗 島 佑介 前谷 知毅 西岡 憲亮

【診療状況等】

当院の内科は循環器、消化器、呼吸器、腎臓、神経、糖尿病、内分泌、膠原病、血液の各専門外来があります。近隣の開業医の先生方からの紹介はもちろん、一般内科として受診された患者さんや、救急外来を受診された患者さんも適切な診療科の診療にスムーズになげられる体制があります。また、より高次医療機関での治療が必要な場合は大学病院や他の医療機関と連携し、速やかに適切な医療を提供できる体制を整えています。

嶺南地域は全国同様に高齢化が進んでおり、急性期の疾病はもちろんのこと慢性疾患の増悪や合併症の増加、身体機能の衰えにより自宅での日常生活が遠のいてしまうことに対して、早期からのリハビリの介入、医療社会福祉士(MSW)を含めた多職種での退院調整に取り組んでいます。

予防医学の面では、一般市民の方を対象とした健康講座で脂肪肝による肝障害をテーマに取りあげたり、内視鏡検査の重要性をわかりやすく説明する機会を設けました。また市内広報誌を利用しさまざまな疾患の初期症状をわかりやすく提示する事で医療機関受診のきっかけとなるようアプローチを行っています。そして自覚症状がないがゆえに受診が遅れがちとなる糖尿病に関しては、専門医の尽力のもと糖尿病教育入院のパスも導入しました。

当院の内科は福井大学、京都大学、自治医科大学からの若手医師の派遣で成り立っています。専門分野以外の症例も広く学ぶため週1回のカンファレンスで症例についてのディスカッションを積極的に行い、幅広い知見をもちコミュニケーション能力の高い人材育成に努めてまいります。

<糖尿病>

当専門外来では、京都大学の糖尿病・内分泌・栄養内科との連携により、毎週金曜日の外来診療を行っています。他科と連携した合併症の治療と同時に、糖尿病学会認定療養指導士資格を有する管理栄養士による治療前後の栄養評価と、それに基づく食事指導を実践しており、患者さん個人の生活習慣や嗜好などを加味した個別指導を目指しています。また疾患の性格上、高い再診率が特徴ですが、近年の病診連携の充実により、紹介・逆紹介数も増えています。

<リウマチ・免疫膠原病>

毎週月曜日に京都大学の免疫・膠原病内科医が外来を行っています。

診療内容は、免疫異常の発症を基盤とする膠原病、自己免疫疾患、リウマチ疾患、アレルギー疾患などが中心となり、これら疾患の多くは、多臓器の障害を引き起こす全身性疾患であり、全身の臓器に対する幅広い見識が必要であることから、関連診療科との連携を密にとりながら、身体全体を見据えた総合的治療を行っています。

<呼吸器>

呼吸器内科は、主に京都大学呼吸器内科と連携して診療を行っています。放射線画像診断や気管支鏡検査を実施し、呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、肺がんなどの診断および治療を行っています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対応においても、他の内科医師と連携し診療にあたりました。

<消化器>

当科は地域の中核病院として消化器疾患を幅広く診断・治療できるよう尽力しています。通年施行している上下部内視鏡検査のほかに、止血術や内視鏡的粘膜切除術、また最近では内視鏡的粘膜下層剥離術も食道、胃、大腸と幅広く安全に施行しております。また胆膵領域では（胆膵のスペシャリストである）京都大学の非常勤医師と協力し、超音波内視鏡や内視鏡的逆行性胆管膵管造影など質の高い診療を行っています。また炎症性腸疾患や慢性肝炎、進行癌に対する化学療法のように、定期的な通院治療が必要な疾患も増えておりますので、常に新しい情報をご提供し、不安なく治療を続けて頂けるよう多職種のスタッフと協力し日々の診療に従事してまいります。

<内分泌>

毎週月・木曜日に甲状腺疾患を中心とする専門外来を開設しており、多くの患者さんが定期的に治療を受けておられます。特色のある治療としては、バセドウ病に対するアイソトープ治療を実施しています。これまでの実績を踏まえて、甲状腺学会認定専門医施設となっています。

<神経>

毎週月曜日に福井大学の神経内科専門医が外来を担当しています。当専門外来では、頭痛、めまい、しびれ、麻痺、ふらつき、物忘れ、意識障害、振戦など、様々な症状の診察、治療を行っています。パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症などの脳神経内科の疾患に対しては、診断や薬物治療だけでなく、リハビリテーションや行政機関と連携し、ご家族も含めた支援を行いました。また、認知症、脳血管障害に関しても関

係各科と協力して、より充実した診療の提供をさせて頂きました。

<腎臓>

糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの原発性腎臓疾患および高血圧、膠原病や糖尿病による二次性腎障害などを対象に、検尿異常や電解質異常から腎不全まで幅広く診断治療を行っています。確定診断のための腎生検は 5 例実施しました。院内外で発生した末期の慢性腎臓病（CKD）および急性腎障害（AKI）の透析治療や血漿交換などには救命救急センター等各診療科と連携して血液浄化センターで受付しています。血液透析に代わる、在宅医療に適した持続腹膜透析（CAPD）治療の管理も継続して行っています。

循環器内科

[常勤医師] 宮原 孝輔 藤田 朝陽 馬場 大輔 (～R6. 9. 30)

安田 沙羅 (R6. 10. 1～)

[非常勤医師] 木下 秀之 土井 孝浩 塩見 紘樹 牧山 武 (～R6. 11. 30)

臼井 公人 石田 健太郎 渡邊 真 (R6. 12. 1～)

【診療状況等】

《検査治療実績》

心臓カテーテル検査および末梢血管造影など	73 件 (99 件) (前年度数値)
冠動脈ステント留置術・形成術(PCI)	38 件 (63 件)
下肢動脈ステント留置術・形成術 (EVT)	5 件 (5 件)
ペースメーカー植え込み術 (新規)	24 件 (16 件)
ペースメーカー電池交換	7 件 (4 件)
急性心筋梗塞 (DOA 等で病名としての診断を含む)	5 件 (14 件)
経皮的な肺補助装置 (PCPS/V-A ECMO)	2 件 (2 件)
植込み型心電計 (ICM)	2 件 (3 件)

循環器内科では冠動脈疾患、弁膜症、心筋疾患、心不全、不整脈、動静脈疾患に対する診断および治療を行っております。冠動脈疾患や下肢閉塞性動脈硬化性疾患は積極的に診断と加療を進めていますが、高齢者も多くより低侵襲での精査加療を心がけております。段階を踏んで冠動脈 CT や心筋血流シンチグラフィで虚血や病変をスクリーニングし、大きなイベントを起こす前に治療介入をします。カテーテル検査や治療もできるだけ侵襲が少なくなるように多くは橈骨動脈から行っています。予定検査の場合は 2 泊 3 日、予定治療は 3 泊 4 日で行います。高齢者が多い若狭地区では大動脈弁狭窄症を中心に弁膜症も多く、無症候性の方も多くいます。高齢者で基礎疾患があって手術が困難でも、フレイルなどの問題がなければスクリーニングして治療希望があれば、TAVI (カテーテルによる弁置換) を福井大学循環器内科・京都大学循環器内科にて行ってもらっています。不整脈については、頻脈性不整脈のアブレーションは当院では難しい場合があるため、患者さん本人や家族の方々との相談の上、福井大学病院を中心とした専門施設を紹介を行っております。一方、徐脈性不整脈については、当院でペースメーカーの埋め込みを行っております。緊急のケースも適切に対応いたしますが、通常は 8～10 日ほどの入院後、かかりつけ医に戻りながら、ペースメーカーの管理を当院で継続しております。

私たちのチームは、京都大学・福井大学などと連携して最先端の医療知識と温かい心で、患者さん一人ひとりに寄り添いながら治療にあたっています。常に患者さんの立場に立ち、安心して治療を受けられるよう全力を尽くしております。これからもより良い医療サービスを提供し、地域社会に貢献してまいります。

小 児 科

〔常勤医師〕 谷澤 昭彦（～R6. 10. 31） 原 慶和 佐野 正太郎

齋藤 志織（～R6. 9. 30） 亀川 昌平（R6. 10. 1～）

〔非常勤医師〕（神経）小坂 拓也 （心臓）岡崎 新太郎

〔常勤公認心理師〕 林 晃平 蒲原 健人 高島 晋介 ※小児科・精神科兼任

〔非常勤臨床心理士〕 塩本 毅明 ※小児科・精神科兼任

【診療状況等】

若狭地区小児医療において当科の役割としては、地域の中の病院としての機能と専門性をもって対応する機能の2つを有していると考えます。小児期に起こるあらゆる問題に対して診断・治療をおこない、当院だけで対応できない疾患についてはその疾患の特異性を考慮した専門病院への紹介を行っております。紹介後も継続した定期フォローアップを要するものではできるだけ紹介先病院と連携して地元での役割を果たすことに力を注いでいます。

平成20年11月より小児科休日診療を開始しております。これは小浜医師会の行っている休日当番医制度と連携して、小児科標榜医以外の開業医院が当番の日には病院で小児科診療を行うというものです。これにより若狭・小浜管内では休日日中は必ずどこかで小児科医による診察が受けられるというメリットが生まれております。

小児療育センターを配し、嶺南地域で「地域で通える療育」を大切にしています。重度心身障害児、超低出生早産児の発達フォローや、神経発達症（注意欠如多動症、限局性学習症、自閉スペクトラム症など）の就学前支援、就学後の学校との連携などを行っています。小浜市では平成20年8月から小浜市内の5歳児を対象に「5歳児健康相談」を継続しており、療育の多方面からのアプローチが行われています。

周産期医療では重症合併のない低出生体重児、病的新生児に対しての受け入れを行っています。重症児や超早産児など当科で対応が難しい症例についてはあらかじめ産婦人科より母体搬送を依頼していただき、専門機関での治療をお願いしております。母体搬送ができない症例については応急的な処置後に新生児搬送をするという流れになっております。また通常の出産後のケアにおいては母乳育児を推進し、できるだけ母子カプセルとその家族にやさしい病院でありたいと思っております。

専門外来ではアレルギー外来、腎臓外来、内分泌外来、夜尿症外来、神経発達外来、心臓外来、カウンセリング外来を実施しており、当院医師と非常勤医師、臨床心理士、小児リハビリスタッフで担当しております。不登校や摂食障害、チック症などの児童精神科領域のお子さんや思春期のこどもたちのカウンセリング治療も当院精神科と共同して取り組んでいます。

《専門外来》

アレルギー外来（週1回）、腎臓外来（月1回）、内分泌外来（月1回）

夜尿症外来（予約制）、神経・発達外来（月1回）、カウンセリング（予約制）

心臓外来（月 1 回）

《地域保健事業・教育関連事業》

* 予防接種（外来）：毎週火曜日 午後（予約制）

* 学校医・嘱託医等：小浜第二中学校学校医、嶺南東特別支援学校医

小浜市児童発達支援センター『母と子の家-CoKoUta』嘱託医

* 乳児健診（当院外来）：毎週水曜日 午後（予約制）

* おおい町乳幼児健診（なごみ保健センター、あっとほーむいきいき館）

1 歳 6 ヶ月児健診、3 歳児健診、その他乳児健診

* 高浜町乳幼児健診（高浜町保健センターkurumu）

1 歳 6 ヶ月児健診、3 歳児健診

* 若狭町乳幼児健診（パレア若狭）

3 歳児健診

* 小浜市乳幼児健診（健康管理センター）

6-7 ヶ月児健診、1 歳 6 ヶ月児健診、3 歳児健診、5 歳児健康相談

* 小浜市就学支援委員会 委員

①5/9 ②6/27 ③8/22 ④11/14 ⑤11/21

* 小浜市発達障害者支援専門委員会 委員

* 障害児通所支援事業所連絡会における連絡会

①放課後等デイサービス 9/24 場所：働く婦人の家

②児童発達支援 11/20 場所：働く婦人の家

③保育所等訪問支援 2/4 場所：働く婦人の家

* 嶺南地区 SC（スクールカウンセラー）の会

年 2 回 ①6/30 ②12/1 両回とも小浜病院 9F 中会議室

* こどもとそだちの相談会 相談員（主催：福井県教育委員会・嶺南教育事務所）

①2024 年 10 月 19 日 嶺南教育事務所

②2025 年 3 月 1 日 嶺南教育事務所

《福井県小児救急講習会》

①2024 年 10 月 8 日 講師：原慶和 若狭町役場上中庁舎

②2024 年 11 月 15 日 講師：亀川昌平 おおい町こども家族館すくすくフォレスト

③2024 年 11 月 22 日 講師：亀川昌平 小浜市役所

④2025 年 2 月 21 日 講師：亀川昌平 高浜町保健福祉センター

精 神 科

[常勤医師] 鵜戸 逸友 山村 茂樹※(～R6. 9. 30)
宮本 紘子(～R6. 5. 20) 小林 慎平(～R6. 5. 22) <※は嘱託医師>
[非常勤医師] 坂井 秀至 村上 慎吾 六田 泰央 諏訪 太郎
山村 茂樹(R6. 10. 1～)

【診療状況等】

我が国全体の問題であります。特に当院の医療圏内においては、高齢化が急速に進んでおり、外来、入院における、認知症の割合は増すばかりです。老々介護など認知症を在宅で診ていく上で、状況が逼迫することはままあり、3ヶ月程度の期間を定めて認知症患者に入院して頂くことが増えています。今後、国の病床削減の方針に対応すべく、長期入院、社会的入院の割合を減らしていきたいのですが、認知症患者の入院数増加は当科の平均在院日数を押し上げる主因となっています。

一方で急性期医療や、他科と連携した身体合併症管理やリエゾン精神医療といった総合病院の中の精神科の本来の役割も担っています。今後は近隣の医療機関などとも連携して、機能分化を進める必要があります。

0.8%～1%の有病率と言われている統合失調症に対し、難治性統合失調症治療薬のクロザピンを使用できる施設として登録されています。

発達障害圏の診療も増えてきています。薬物療法やカウンセリングの必要性は日増しに増えており、我々がより専門性を獲得していく必要があります。

【統計資料】

- ・入院 1日平均 59.7人 (77.8人)
- ・新規入院者数 33人 (99人)
- ・外来 1日平均 46.8人 (52.5人)
- ・初診 270人 (427人)

<治療場面別>

- ・救 急 : 22例 (18例)
- ・行動制限 : 28例 (39例)

<治療形態別>

- ・任 意 入 院 : 56例 (63例)
- ・医療保護入院 : 26例 (54例)
- ・措 置 入 院 : 0例 (2例)

※ () 内は前年度実績

産婦人科

〔常勤医師〕 服部 由香 加藤 優里 中森 あかり

〔非常勤医師〕 品川 明子 大沼 利通 藤田 将行 折坂 誠 宮崎 有美子
津吉 秀昭 玉村 千代

【診療状況等】

当年度の外来患者数（妊婦健診を除く）は1日平均 35.7 人、入院患者数は1日平均 7.4 人でした。

外来では、妊婦健診が延べ 2,375 件、エコー検査（妊婦健診を除く）が 2,871 件、がん検診（健診センター業務外）が 1,404 件、人間ドック等の検診業務が 355 件でした。

また、助産師による母乳外来では延べ 454 件の患者さんが施術を受けられました。

分娩数（22 週以降）は 209 例で、内、帝王切開は 62 例（29.6%）で、うち、半分は緊急帝王切開でした。母体合併症や早産のための母体搬送は 6 件あり、また、産褥出血関連の搬送は 2 件でした。全例、福井大学医学部附属病院総合周産期母子医療センターで受け入れして頂きました。

手術センター管理の手術件数（帝王切開術を除く）は 50 例でした。

【手術症例数】

帝王切開	62 例
子宮外妊娠	1 例
子宮摘出（筋腫・腺筋症）	腹腔鏡下 6 例 ・ 開腹 1 例
子宮頸がん（含 前癌）	円錐切除術 5 例
子宮体がん（含 前癌）	開腹 0 例
卵巣腫瘍（良性）	腹腔鏡下 6 例 ・ 開腹 1 例
卵巣がん	0 例

分娩の約 10%（21 例）は不妊治療により妊娠された方です。そのため、高齢妊娠、合併症妊娠等ハイリスクの方が多いため傾向があります。このような傾向は当院のみではなく、全国的にも同様にいわれています。当院では、患者さんや胎児の安全を期すため、合併症によっては、妊娠中から福井大学医学部附属病院周産期センター等の高次医療機関を並行受診して頂き、妊娠管理を行っています。

また、最近の分娩の傾向として、予定日超過や微弱陣痛による分娩遷延～分娩停止の方が多く、16%（35 例）で陣痛促進剤を用いました。そのうち 22%（8 例）は緊急帝王切開術となっています。医師、病棟スタッフ、手術室スタッフと互いに情報を共有し、万全の状態で陣痛誘発・促進を行い、患者さんに安心・安全な医療を受けていただけるよう配慮しています。

これまで希望者もしくは必要と思われる患者さんのみ受けて頂いていたマタニティ相談（助産師面談）が、いっそう充実したものとなり、多くの患者さんにご利用頂いています。2024年には145件（69%）の方が利用されました。病棟助産師と妊娠初期よりコミュニケーションを取ることができ、心配なことや気に掛かることをゆつくりと、また、継続的に相談できることで、信頼感、安心感に繋がっていると感じます。

外 科 ／ 消化器外科

〔常勤医師〕 菅野 元喜 林 泰生 前田 敏樹
 岸 和樹 平山 楓 山岸 和樹
 渡辺 倫夫 (R7. 1. 1～)

【各領域別手術件数】

過去3年間の消化器外科手術件数	2022年		2023年		2024年	
1 全手術数 (外来手術含む)	374		447		439	
2 鏡視下手術 (補助下手術含む、EMR・ESD除く)	280		336		284	
3 全麻手術数	330		372		343	
4 緊急手術数	74		84		86	
5 術式別手術件数	全	鏡視下	全	鏡視下	全	鏡視下
-1 食道癌切除術	1	1	0	0	0	0
-2 幽門側胃切除術 (幽門保存切除術含む)	8	7	9	9	7	7
-3 胃全摘術 (噴門側胃切除術含む)	2	1	6	4	3	2
-4 結腸切除術	34	30	55	49	37	28
-5 直腸前方切除術	9	9	12	12	8	8
-6 直腸切断術	1	1	3	3	3	3
-7 肝切除術 (葉切除以上)	0	0	0	0	0	0
-8 肝切除術 (区域・亜区域切除術)	2	1	2	2	0	0
-9 肝切除術 (上記以外)	6	4	7	4	3	0
-10 膵頭十二指腸切除術	0	0	0	0	0	0
-11 膵体尾部切除術 (胃癌手術に伴うものは除く)	0	0	0	0	1	0
-12 膵切除術 (その他)	0	0	0	0	0	0
-13 胆嚢摘出術	66	63	73	70	83	81
-14 脾摘術	0	0	1	1	1	0
-15 虫垂切除術	33	33	26	26	32	32
-16 ヘルニア手術 (小児除く)	61	53	78	67	69	64
-17 良性肛門疾患に関する手術	17	0	15	0	17	0
-18 小児外科手術 (ヘルニア含む)	8	8	10	10	6	6
-19 乳腺外科手術	15	0	12	0	15	0
-20 呼吸器外科手術	6	6	12	12	7	6

【診療状況等】

I 呼吸器外科

〔呼吸器外科最近の話題〕

呼吸器手術での周術期管理の工夫：人工気胸下両側肺換気胸腔鏡手術の開発

特徴： 1.気胸手術では責任病変の確認が容易で、隠れたブラ・ブレブの検出・処理にも有利。

2.肺胞蛋白症のように末梢型の局在性びまん性肺病変では病変の確認は容易。

3.呼吸機能不良症例で1側肺換気は不能であったが安全に手術が完遂可能。

〔呼吸器外科 肺癌・縦隔腫瘍 治療方針〕

肺癌手術適応：非小細胞肺癌 cStage I～IIIA, 限局型小細胞肺癌 cStage I

I	胸腔鏡を先行し、胸膜播種・切除不能が想定される脈管・気道・胸壁浸潤・肺内転移の有無を確認（試験胸腔鏡）
II	上記がなく、胸腔鏡下手術が可能な場合には胸腔鏡下手術
III	上記がなく、胸腔鏡下手術の難易度が高い場合には、開胸下により手術施行
IV	上記が確認されても、コントロール不能の気道閉塞による感染・出血等を伴う場合には、胸腔鏡下あるいは開胸下により手術施行（サルベージ手術）

II 食道外科

〔食道外科 食道癌 治療方針〕

0	食道癌胸腔鏡下手術適応：cT4を除く cStage I～IV a 症例（食道癌取り扱い規約第10版）
I	胸腔鏡・腹腔鏡を先行し、胸膜播種・腹膜播種・肺転移・肝転移・切除不能が想定される脈管・気道浸潤の有無を確認（試験胸腔・腹腔鏡）
II	上記がなく、鏡視下手術が可能な場合には胸腔・腹腔鏡下手術
III	上記がなく、cT4 あるいは bulky cT3 症例等鏡視下手術の難易度が高い場合には開胸・開腹下に手術施行
IV	上記が確認されても、通過障害・出血等を伴う場合には、胸腔・腹腔鏡下あるいは開胸・開腹下に切除ないしバイパス手術施行（サルベージ手術）

III 乳腺外科

〔乳腺外科最近の話題〕

2022年3月 トモシンセシスマンモグラフィー装置及び臥位マンモトーム検査台を導入。より精緻なマンモグラフィー検診が可能となりました。また、ステレオガイドマンモトーム検査でも臥位で検査を施行でき患者さんの負担を軽減可能となりました。

遺伝性乳癌・卵巣がん症候群検査開始

乳腺外科・段階的乳癌精密検査

1) 触診・マンモグラフィー (MMG) 検査・超音波 (US) 検査

トモシンセシスマンモグラフィー装置導入 (2022 年 3 月)

2) 乳腺カンファレンス：読影認定医を中心に外科スタッフ全員で判定を行います。

3) MR 検査：良悪の判定が難しい場合には、MR 検査で病変への造影剤の流入速度を測定し判定

4) 超音波(US)ガイド CNB(Core-Needle Biopsy)/ステレオ(MMG)ガイドマンモトーム生検：癌が疑わしい場合には、局所麻酔下に小さな標本を摘出し病理組織診断（顕微鏡検査）で診断を確定します。

臥位マンモトーム検査台導入 (2022 年 3 月)

5) PET 検査：乳癌の診断が確定した場合には PET 検査で全身の転移、他臓器癌合併の有無を確認し、最善の治療を御提示し、治療方針を相談します。

[手術方針]

I	高度進行癌に関しては NAC (Neo-Adjuvant Chemotherapy ; 術前補助化学療法) を先行し腫瘍の縮小を図り根治を目指す
II	乳房切除・温存療法 (部分切除)・再建に関しては患者さんの希望で選択
III	リンパ切転移の可能性が高い場合にはリンパ節郭清を付加
IV	リンパ切転移の可能性が低い場合にはセンチネルリンパ節生検で診断を確定、転移を認めた場合のみにリンパ節郭清を付加

IV 胃外科

[胃外科最近の話題]

抗がん剤、特に分子標的治療薬の胃癌術後の生存期間延長効果が明らかとなり、また、腹腔鏡下緩和・サルベージ手術に CD-IIIa 以上の合併症が認められず、今後も全身状態の悪化を伴うような高度進行胃癌に対し低侵襲腹腔鏡下緩和・サルベージ手術を継続してゆく方針としました。

[治療方針]

1) 穿孔性胃・十二指腸潰瘍等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく、低侵襲な腹腔鏡下手術の適応としています。

2) 胃癌等悪性疾患に対しては進行度に応じて、内視鏡治療 (EMR/ESD)、腹腔鏡下手術、開腹手術、化学療法等を選択しますが、術前補助化学療法でダウンステージを計り根治を目指し、また、出血・狭窄のコントロールが難しい場合には手術を先行することもあります。

いずれにしても患者さんの負担を最小限にとどめ侵襲の少ない治療に努めています。

〔胃癌 手術方針〕

I	腹腔鏡下手術適応：内視鏡外科診療ガイドライン 2014 年版推奨の深達度が固有筋層に止まり(M～MP)/リンパ節転移も領域リンパ節に 1～2 個に止まる(N0・1) ような c-Stage IA/IB 症例(胃癌取り扱い規約 14 版)(LTG/LPG/LDG：腹腔鏡下胃全摘/噴門側/幽門側胃切除術)
II	肝転移・腹膜播種等を伴うような c-StageIV 症例でもコントロール不能の狭窄・出血等を伴う場合には腹腔鏡下手術適応可能(緩和・減量・サルベージ手術)
III	その他は開腹下に手術

V 大腸・肛門外科

〔大腸外科最近の話題〕

最近の虫垂炎治療の趨勢は待機的虫垂切除術(Interval appendectomy)が優勢となってきましたが、これを採用する際の当院における手術症例の病理学的検討から、75 歳以上の高齢者に虫垂癌の合併が有意に多いことが明らかとなりました。

〔治療方針〕

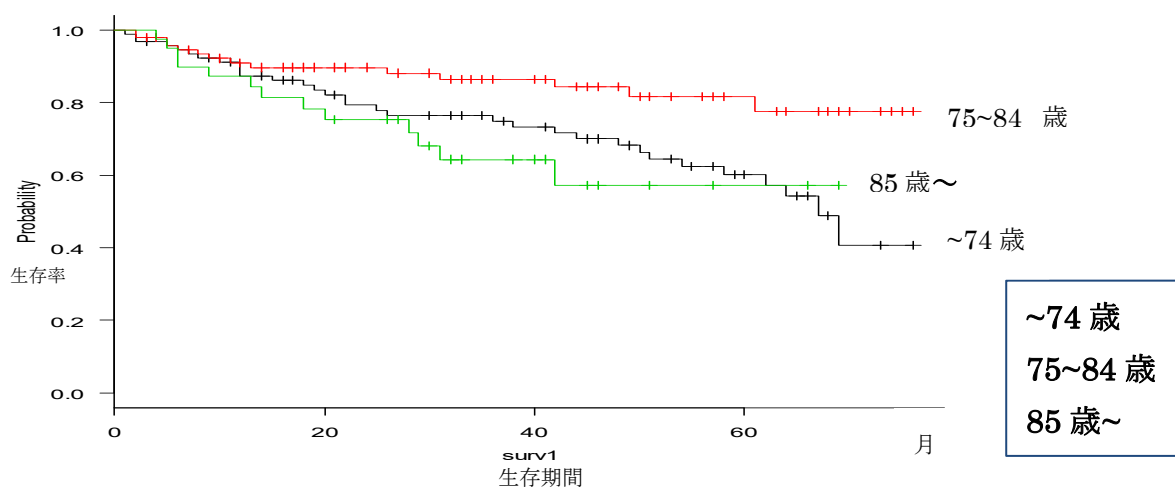
- 1) 虫垂炎・鼠径ヘルニア・腸閉塞(イレウス)等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく、低侵襲な腹腔鏡下手術の適応とし早期離床・早期退院に努めています。
- 2) 複雑型虫垂炎に関しては保存的加療により切除範囲を縮小可能な Interval appendectomy を積極的に導入しています。
- 3) 大腸・直腸癌等悪性疾患に対しては進行度に応じて、内視鏡治療(EMR/ESD)、手術、化学療法を選択します。手術に関しては、部位に関わらず他臓器合併切除を要するような巨大腫瘍以外は腹腔鏡下手術を原則としますが、切除不能例や高度進行症例では術前化学放射線療法でダウンステージを計り根治を目指し、また、出血・狭窄のコントロールが難しい場合には、手術を先行することもあります。また、未治療糖尿病例・長期ステロイド投与例や直腸超低位前方切除術症例等縫合不全が心配される場合には一時的に人工肛門を造設することもあります。

いずれにしても低侵襲治療を旨とし、永久人工肛門は可能な限り回避するよう心掛けています。

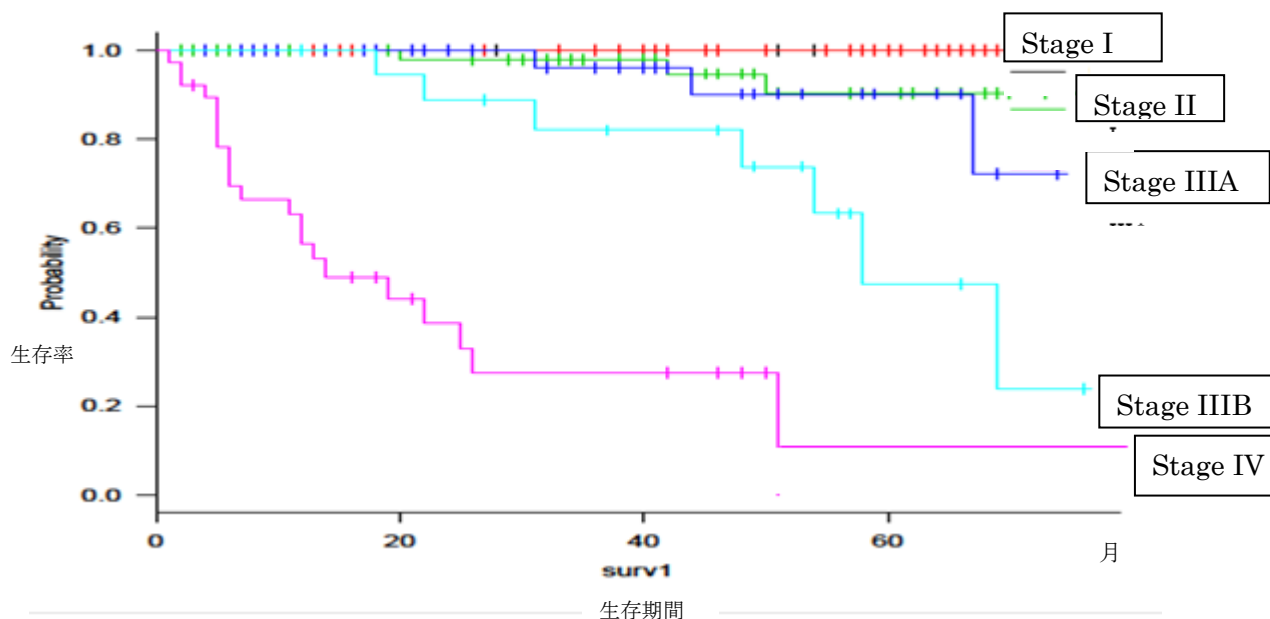
〔大腸・直腸癌手術・治療方針〕

I	c-Stage ・部位に関わらず、腹腔鏡下手術が可能で合併切除を要したり、標本摘出に大開腹を要するような巨大腫瘍以外は腹腔鏡下手術適応
II	上記以外は開腹手術適応
III	切除不能例や高度進行症例では術前化学放射線療法でダウンステージを計り根治を目指す
IV	出血・狭窄のコントロールが難しい場合には手術を先行する
V	下部吻合例では一時的人工肛門造設や経肛門減圧チューブ留置を行うこともある

当院年齢階級別生存曲線
(~74 歳:75~84 歳:85 歳~)



大腸癌・直腸癌ステージ別生存率



VI 肝臓外科

〔治療方針〕

- 1) 巨大肝嚢胞・肝膿瘍等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく低侵襲な腹腔鏡下手術の適応とし早期離床・早期退院に努めています。
- 2) 肝癌に対しては腫瘍サイズ・部位・進行度・肝予備能に応じて、肝切除術、RFA（ラジオ波焼灼療法）、TACE（肝動脈化学塞栓療法）、全身化学療法を選択します。
- 3) 手術（肝切除）に関しては術前肝機能で *Child-Pugh* 分類 A を適応とし、葉切除以上では残肝ボリュームメトリーによる残肝機能の評価を前提とし、50%以下の場合

は術後肝不全を回避するため経皮経肝門脈塞栓術(PTPE)で残肝機能の改善を図り安全に切除ができるよう心掛けています。アプローチは開腹が原則で、外側区域切除・肝表面の部分切除のみを腹腔鏡下に施行しています。

- 4) また、根治切除を目指し切離断端から 2mm 以内に腫瘍が存在した場合には露出がなくても病理組織診断では断端陽性としています。

〔肝癌手術・治療方針〕

0	術前肝機能 <i>Child-Pugh</i> 分類 A
I	術前診断で確実に切除可能と判断される悪性腫瘍に関しては最初から開腹下に肝切除術を施行
II	上記 I 以外は、腹腔鏡観察下（試験腹腔鏡）に多発肝転移・腹膜播種がなく切除可能と判断された場合には、開腹下に肝切除術を施行
III	上記 II のうち、切除範囲が外側区域切除・肝表面の部分切除にとどまる場合は腹腔鏡下切除も可とする
IV	病理組織診断：2mm 以内断端陽性

VII 膵・胆道外科

〔治療方針〕

- 1) 胆石症、膵・胆道良性腫瘍等良性疾患に対しては可能な限り痛みが少なく低侵襲な腹腔鏡下手術の適応とし早期離床・早期退院に努めています。
- 2) 急性胆のう炎に対しては、ガイドラインに準じて早期手術を原則としています。
- 3) 膵・胆道癌等悪性疾患に関しては進行度に応じて手術、化学療法を選択しますが、非常に悪性度が高く早期より肝転移・腹膜播種を伴うことも多いため手術に際しては大きな開腹創が無駄とならないよう先行試験腹腔鏡を原則としています。切除が不能であっても出血・狭窄を伴い摂食不能・黄疸等を認める場合にはバイパス手術を施行したり、ステント留置後に化学療法を開始することもあります。

〔膵・胆道癌手術治療方針〕

I	術前診断で確実に切除可能と判断される悪性腫瘍：最初から開腹下に膵頭十二指腸切除術 PD、膵体尾部切除 DP、膵全摘、胆管切除術
II	上記以外：腹腔鏡観察下（試験腹腔鏡）に肝転移・腹膜播種がなく、さらに大網等の膵臓周囲の剥離により肝動脈・上腸間膜動脈・門脈等への腫瘍の明らかな浸潤がなく切除可能と判断された場合には、開腹後に膵頭十二指腸切除術 PD、膵体尾部切除術 DP、膵全摘術、胆管切除術（膵・胆道悪性腫瘍手術）
III	腹腔鏡観察で切除不能と判断された場合には、試験腹腔鏡のみとするか、通過障害・出血を伴う場合には、腹腔鏡下あるいは開腹下にバイパス手術を施行
IV	膵体尾部の良性疾患（膵ラ氏島腫瘍・IPMA 等）：腹腔鏡下膵体尾部（・脾合併）切除術適応可

整形外科

[常勤医師] 竹野 建一 坂下 輔 渡邊 裕美子 入江 善二※

<※は嘱託医師>

[非常勤医師] 小久保 安朗 長谷 健司

【診療状況等】

常勤医師 4 名と非常勤医師による体制を継続しており、初期治療につきましても、当院でしっかりと診療させていただきます。

外来は初診、再診に分かれ、あらゆる整形外科領域の症例を治療しております。

高齢化社会の昨今、転倒による骨折、骨粗鬆症、変形性疾患、廃用症候群の増加がみられており、少ない医師で対応しなければならないことに歯がゆさを感じておりますが、福井大学医学部附属病院や地域の診療所の先生方と連携し、患者さんに良質な医療を提供できるように努めてまいります。

手術は外傷を中心とし、変形性関節症に対する人工関節術、関節鏡手術、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する椎弓切除術、ヘルニア摘出術も適応に応じて行なっています。

症例によっては福井大学医学部附属病院整形外科より非常勤医師に来て頂き、手術を行なっています。今後も他科の先生方と協力して充実した診療を行ってまいります。

手術件数 ※手術センター施行のみ計上

術式	令和 5 年度	令和 6 年度
観血的骨接合術(骨折)	136	130
腱鞘切開術	31	24
人工骨頭置換術（股関節）	32	42
人工膝関節置換術	15	15
人工股関節置換術	9	14
経皮的鋼線刺入術（骨折）	7	11
腰椎椎間板摘出術	0	0
その他	57	53
計	287	289

形成外科

〔非常勤医師〕 秋田 梨恵

【診療状況等】

毎週火曜日に京都大学形成外科所属の医師が、皮膚科をはじめ院内各科と連携し診療を行っています。小浜病院では外来診療に引き続いて、午後に手術も行っています。

形成外科の診療内容は、頭から足先まで多岐に渡りますが、当院では主に次の項目について治療を行っています。

手術は手術センターでの局所麻酔手術を基本にしています。

手術の内容、必要とする医療機器によっては、他施設を紹介させて頂くことがあります。

1. 皮膚の外科として皮膚のがんや、皮膚腫瘍・皮下腫瘍の摘出・切除の手術
2. あざ（単純性血管腫;毛細血管奇形、いちご状血管腫;乳児血管腫、太田母斑）などの治療
3. きず（創傷）の外科として、皮膚潰瘍や手術後の創部の治療
4. 顔面の骨折（頬骨、鼻骨など）の治療
5. 顔面・手足の先天奇形の治療
6. 陥入爪（まきづめ）のワイヤー治療（3TO ; VHO 法）

【手術件数】 115 件（前年度 91 件）

脳神経外科

[常勤医師] 廣瀬 敏士 四方 志昂 萩原 峻太

[非常勤医師] 松田 謙 荒井 大志 木戸口 正宗

小寺 俊昭

【診療状況等】

脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症などを含め、脳神経外科疾患全般に対し、ガイドラインに準拠しながら、良質で新しい医療を提供できるように心がけています。

2021年度より新しい血管撮影装置を導入し、患者さんの負担を軽減し、より一層安全で確実な血管内治療、脳血管撮影検査を提供していきます。

また臨床での知識・技術の見識を広げるため、当院で経験した症例に対する学会発表や論文作成なども積極的に行っています。

今後も嶺南地域の一次脳卒中センターおよび脳神経外科施設として脳神経外科一同で力を合わせ、手術治療、外来診療により力を発揮していきたいと思いをします。

【手術統計】

2024年4月1日～2025年3月31日

○直達手術 35例

脳血管障害	破裂脳動脈瘤開頭クリッピング術	2例
	開頭血腫除去術	3例
	脳動静脈奇形摘出術	1例
脳腫瘍	開頭腫瘍摘出術	4例
外傷	慢性硬膜下血腫穿頭術	19例
水頭症	VP シヤント術	1例
	SP シヤント術	1例
その他	脳室ドレナージ術	1例
	気管切開術	1例
	脳膿瘍排膿術	1例
	頭部皮下腫瘍摘出術	1例

○血管内手術 8例

脳血管障害	破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	1例
	未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	2例
	機械的脳血栓回収術	3例
	頸動脈ステント留置術	2例

心臓血管外科

〔非常勤医師〕 福井 伸哉 田邊 佐和香

【診療状況等】

心臓血管外科は、福井大学の応援協力を得て、毎月第 2 および第 4 金曜日に外来診療を行っています。

当科の主な診療疾患は、心臓疾患（虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患、虚血性・拡張性心筋症）、大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）、末梢動脈性疾患（腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、バージャー病）、静脈性疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤）となっており、これらの疾患への外科的治療の必要性についてのご相談や、手術後の外来通院加療を行っています。

また心臓・大血管の治療に対しては術前に詳細な検査が必要となりますので、循環器内科と連携を取りながら行います。

当科では患者さんの心臓・血管に関する相談にも十分に対応し、ご希望に応じて適切な検査や治療等についてアドバイスさせて頂いています。

眼 科

[常勤医師] 小森 涼平

[非常勤医師] 稲谷 大 柿本 宙志(～R7.2) 眞田 侑季 鈴木 陽平(R7.3～)

【診療状況等】

常勤医師 1 名、福井大学眼科学教室からの応援医師 3 名、看護師 1～2 名、視能訓練士 2 名、補助員 1 名、受付 1 名で診療を行っております。

外来患者数は 1 日平均 51.3 名、入院患者数は 1 日平均 1.9 名でした。

眼科診療は、午前中は一般外来、午後からは手術、視野検査、コンタクト外来などを行っており、外来での診療検査機器は、ハンフリー視野計、蛍光眼底造影カメラ、網膜光干渉断層計、角膜内皮細胞数測定計、前房フレアー値測定装置、角膜形状測定装置などがあり、様々な疾患の診断や治療効果の評価に対応することができます。

(第 1・3 月曜日 午後、水曜日 午後)

コンタクトレンズ外来を行っており、ハード、ソフト及びディスポーザブル等、各種類の処方を行っています。また第 2・4 水曜日には、メーカーの技術員が来院しており、コンタクトレンズの微調整や特殊なオーダーメイドなどもできます。

(火・木曜日 午後)

手術日となっており、主に白内障の手術を行っています。

(第 2・4・5 月曜日 午後、金曜日 午後)

主に白内障手術説明会、視野検査などを行っています。白内障手術説明会は予約制としており、白内障についての説明、手術方法及び合併症などの説明に十分な時間をかけて、患者さんと家族の方々によくご理解して頂くように努めています。

【手術件数】

水晶体再建術	314 件
緑内障手術（流出路再建術）・水晶体再建術	19 件
緑内障手術（眼内ドレーン挿入術）・水晶体再建術	26 件
結膜嚢形成術（部分形成）	1 件
硝子体内注射	153 件
翼状片手術（弁移植）	5 件
計	518 件

耳鼻いんこう科

[常勤医師] 富田 かおり 佐々木 千愛

[非常勤医師] 高林 哲司 岡本 昌之 菅野 真史 木村 幸弘

【診療状況等】

令和 6 年 4 月から宮崎に代わり佐々木が常勤医として赴任しました。近隣の総合病院耳鼻咽喉科や耳鼻咽喉科クリニックの非常勤化により外来患者が増えているため、簡易的に 2 診を整備して待ち時間の短縮に努めています。

若狭地域には耳鼻咽喉科医が少ないため、身近な耳鼻咽喉科として地域の方々のお役に立てるよう努力を続けてまいります。

【統計資料】

手術件数（外来手術や病棟処置は含まない。左右のある手術については片側を 1 として計上）

【耳】		【口腔咽頭喉頭】	
鼓室形成手術	3	口蓋扁桃手術（摘出）	6
顔面神経減荷術	1	喉頭微細手術	4
鼓膜チューブ挿入術	15	軟口蓋形成手術	4
耳その他	2	気管切開術	3
		扁桃周囲膿瘍切開術	8
		深頸部膿瘍切開術	2
【鼻】		【頭頸部】	
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型	18	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 4 型	4	耳下腺腫瘍摘出術	2
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2	甲状腺部分切除術	2
経鼻腔の翼突管神経切除術	9	リンパ節摘出術	4
内視鏡下鼻中隔手術 1 型	33		
内視鏡下鼻腔手術 1 型	15		
眼窩骨折観血的手術	1		
経上顎洞的顎動脈結紮術	1		
鼻その他	6		
		総 計 146	

入院患者数（病名別）

めまい症	18	気道熱傷	1	上顎骨骨折	1
突発性難聴	7	深頸部膿瘍	1	悪性腫瘍	9
顔面神経麻痺	18	咽後膿瘍	1	COVID-19	3
睡眠時無呼吸症候群	45	急性唾液腺炎	2	誤嚥性肺炎	4
急性扁桃炎	9	急性副鼻腔炎	1	その他	2
急性喉頭炎	3	鼻出血症	2		
扁桃周囲膿瘍	10	頸部蜂巣炎	2		
		総 計 139			

皮 膚 科

〔非常勤医師〕 澤井 孝宏 三宅 俊哉 浦田 陽一郎
 竹上 智也 勝尾 公祐 千田 晃嘉

【診療状況等】

さわい皮ふ科クリニック（美浜町）の澤井医師、京都大学皮膚科からの応援医師により、外来診療を行っています。

また外来以外でも、京都大学皮膚科医師 による週 1 回の褥瘡回診と月 1 回の褥瘡ケース・カンファレンスを実施しています。

【統計資料】

延べ外来患者数 8,292 人（前年度 7,267 人）

1 日平均外来患者数 34.3 人（前年度 30.0 人）

泌尿器科

[常勤医師] 鈴木 裕志 高原 典子 小森 真衣子
勝木 舞結 (～R6.9.30)

[非常勤医師] 多賀 峰克 関 雅也 福島 正人

【診療状況等】

1) 診療全般

令和 6 年度は 9 月まで医師が 1 名増員となり、4 名体制で診療しましたが、以後は再び 3 名体制となっています。

2) 外来診療

令和 6 年度の外来診療目標は、前年度と比較して、外来患者数 10%増、検査件数 5%増でした。1 日平均外来患者数は 38.3 人から 41.3 人と 7.8%増加しました。検査件数では膀胱鏡検査は 210 件から 294 件(40%増)、超音波検査は 1,254 件から 1,182 件(6%減)、尿流測定は 86 件から 78 件(9%減)となり、一部は達成できませんでした。結果として、診療単価は 1,017 円減となり、保険分累計では 1,247 千円の減収となりました。

診療以外では、医師を含めた泌尿器科外来スタッフで当病院が取り組んでいる 5S 活動コンテストに参加し、銀賞を受賞しました。これにより外来の環境整備がさらに整い、疾患についてのパンフレットを用いて外来患者に速やかに説明できるようになりました。

3) 入院診療

令和 5 年度と比較して、入院患者数累計では 673 人の増加となり、1 日平均入院患者数は 10.3 人から 12.2 人に増加しました。保険分累計では 30,824 千円と増加しました。

4) 手術件数 (1 月～12 月) 表

手術総件数は令和 5 年と比較すると 169 件から 179 件に増加しました。ロボット支援下手術が主流となってきている前立腺全摘除術や膀胱全摘除術は昨年度同様に実施する症例はありませんでした。内視鏡手術が主ですが、上部尿路結石に対する手術が最多となりました。一方、その影響で体外衝撃波結石破碎術は減少しました。膀胱癌に対する内視鏡手術件数は大きな変化はありませんでした。合併症を有する高齢者や抗凝固薬を服用している患者に対する前立腺肥大症手術は尿道ステント留置術が減少し、新しい手術法として経尿道的前立腺吊り上げ術と経尿道的水蒸気治療を経験しました。今後も適応のある症例には実施していく予定です。手術室で実施する手術以外の短期滞在手術である前立腺針生検は令和 5 年が 42 件に対して令和 6 年では 44 件と大きな変化はありませんでした。

5) 令和 6 年度の目標

- (1) 外来診療
 - ・外来患者数の増加 (前年度 5%増)
 - ・外来検査件数の増加 (前年度 5%増)
 - ・指導管理料等の増加
- (2) 入院診療
 - ・内視鏡手術件数の増加 (前年度 5%増)
 - ・クリニカルパスの見直し

【手術統計】

手術名	2020	2021	2022	2023	2024
経尿道的膀胱腫瘍切除術	40	30	32	32	33
体外衝撃波碎石術（ESWL）	18	25	25	26	18
ブラッドアクセス造設術	22	17	13	13	15
経尿道的尿管碎石術（TUL）	27	16	21	21	35
尿道ステント前立腺部尿道拡張術	5	14	7	6	3
経尿道的前立腺つり上げ術	0	0	0	1	1
経尿道的水蒸気治療（前立腺）	0	0	0	0	1
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	6	12	5	17	14
経尿道的膀胱結石摘出術	5	7	6	4	5
経尿道的尿管腫瘍切除術	0	0	4	2	1
経尿道的尿管ステント留置術	2	5	9	14	18
包茎手術（環状切開術）	5	5	1	3	3
停留精巣固定術	1	4	0	0	0
経皮的腎・尿管碎石術（PNL）	0	3	0	0	3
精巣固定術（精巣捻転に対する）	1	3	2	0	2
尿道異物摘除術	0	2	1	0	3
経尿道的電気凝固術	1	2	3	10	3
根治的腎摘除術（鏡視下）	0	2	1	0	0
尿管鏡検査	0	2	7	0	4
開放性腎生検	0	0	0	0	1
経皮的腎生検	0	1	1	1	0
陰嚢水腫手術	2	1	0	4	1
外尿道腫瘍切除術	1	1	0	2	1
経尿道的尿管ステント抜去術	1	1	0	0	0
経尿道的尿管狭窄手術	3	1	2	3	2
経皮的腎瘻造設術	1	1	1	2	0
高位精巣摘出	2	1	2	2	0
腎尿管全摘膀胱部分切除術（鏡視下）	4	1	2	4	3
尿管皮膚瘻造設術（膀胱全摘除術を伴うもの）	2	1	0	0	0
膀胱全摘除術（開腹）	2	1	0	0	0
膀胱部分切除術	0	0	0	0	1
膀胱瘻設置術	1	1	1	0	0
VUR 防止手術（デフラックス）	0	0	0	0	1
腹腔鏡下仙骨膣固定術	0	0	0	0	1
両側精巣摘出術（去勢術）	0	0	0	0	1
膀胱水圧拡張術	0	0	0	0	1
その他の手術	5	0	5	2	4
計	157	160	151	169	179

手術センター・麻酔科

[常勤医師] 荘司 勲※ 内野 絢子 宗石 啓和 <※は嘱託医師>

[非常勤医師] 松田 富雄 田邊 毅 小柳 覚 福岡 直
白塚 秀之 田中 弓子 山岸 一也 松木 悠佳
佐上 祐介

[臨床工学士] 2名 [看護職員] 17名 [看護補助員] 1名

【診療状況等】

当年度の手術件数は1,877件であり、その内、麻酔科管理症例は795件となっており、麻酔科管理件数は増加しております。

手術センターでは、看護師による術前・術中・術後訪問を実施することにより患者さんと家族の方々の不安・心配の軽減に努め、また、薬剤師による手術センターの医薬品管理、臨床工学技士による医療機器の管理など、より安全に周術期管理ができる様に努めています。

また、令和5年より医師・看護師・薬剤師による術後疼痛管理チームを作り、術後の痛みの軽減に努めています。

【麻酔種別手術センター手術件数】（前年度件数）

全身麻酔	755件（726件）
脊椎麻酔	175件（188件）
局所麻酔	917件（845件）
硬膜外麻酔	2件（3件）
伝達麻酔	23件（41件）
その他	5件（0件）
計	1,877件（1,803件）

放射線科

[常勤医師] (画像診断) 川上 悟司

(放射線治療) 丸山 市郎

[非常勤医師] 岡沢 秀彦

【診療状況等】

放射線科は、令和 6 年度は常勤 2 名、非常勤 1 名の体制で診療を行いました。

放射線診断部門では、常勤医師 1 名による CT・MRI の読影、血管造影、IVR と非常勤医師 1 名による核医学診断を行いました。核医学診断、単純 X 線写真、上部消化管検査、注腸検査、時間外および診断医の多忙時の読影は遠隔診断システム（京都プロメド）にて対応しました。

放射線科の装置では、MRI 装置の更新がありました。検査時間の短縮とそれに伴う検査件数の増加、検査時の体動等による画質劣化の低減、作成画像の鮮明化が図られました。

従来同様に、256 列 MDCT、1.5T の全身用 MRI、PET-CT、SPECT-CT、心臓・脳血管用フラットパネル血管造影装置、フラットパネル X 線 TV システム、CR 一般撮影装置により撮像された画像に対して診断を行いました。モニター診断による画像読影と電子レポートの配信を行いました。

放射線治療部門では、常勤医師 1 名による放射線治療を行いました。内訳は、表に示す通りです。今後も、がんに対する集学的治療の選択枝の一つとして放射線治療を提供することで、地域の医療に貢献したいと考えています。

【統計資料】

検査件数

	CT	MRI	PET-CT
令和 4 年度	11,356	3,628	322
令和 5 年度	11,962	3,603	405
令和 6 年度	11,799	3,390	360

新規に放射線治療（体外照射）を開始した患者数

(人)

	診療科別
内科	21
外科	8
院外	5
泌尿器科	2
耳鼻科	1
計	37

(人)

	疾患別
骨転移	10
肺がん	9
乳がん	6
脳転移	4
食道がん	2
中咽頭がん	1
悪性リンパ腫	1
膀胱がん	1
前立腺がん	1
骨盤内腫瘍	1
直腸がん	1
計	37

救命救急センター・救急総合診療科

[センター長] 大森 啓子

[常勤医師] 四本 仁寛 和田 亨 桑村 紀子 階戸 尊

[非常勤医師] 狩野 謙一 (R6. 8. 1～)

[看護職員] 28名 [その他] 2名

【診療状況等】

救命救急センターでは救急看護師・救急総合診療科医師が中心となってトリアージ・初期対応を行い、必要に応じて各専門科へ診療を引き継ぐ北米型 ER 方式をとっています。当院で対応できない症例については初期対応後に紹介搬送としています。救急病棟では令和 5 年度から毎朝多職種カンファレンスが行っており、スタッフ間で治療目標が共有されています。また救急スタッフ向けに看護師が中心となりシミュレーション研修を開催してスキルアップに努めています。研修医にも参加してもらい有意義な研修となっています。その他院内職員を対象とした ICLS、人工呼吸器セミナーを開催し幸い好評いただいています。

【統計資料】

月別	令和 5 年度		令和 6 年度	
	患者数	うち救急搬送	患者数	うち救急搬送
4 月	927	149	936	118
5 月	1,130	135	1,014	130
6 月	1,005	134	981	143
7 月	1,447	159	1,195	164
8 月	1,494	195	1,209	157
9 月	1,348	178	1,062	151
10 月	1,174	149	922	142
11 月	1,046	129	913	147
12 月	1,330	163	1,286	175
1 月	1,561	181	1,490	145
2 月	1,275	114	863	131
3 月	1,056	138	980	156
合計	14,793	1,824	12,851	1,759

病 理

[常勤医師] 山口 愛奈

[非常勤医師] 内木 宏延

【診療内容等】

令和 6 年度より常勤医師が赴任し、常勤医師 1 名、非常勤医師 1 名の体制となりました。病理組織受付件数は、昨年度 1814 件と比べ、今年度 2037 件と増加しました。提出科別には、内科・循環器科(45%)、外科(19%)、婦人科 (11%)、泌尿器科 (6%)、口腔外科 (5%)、その他の科となっています。検査材料別には、生検・ポリペクトミー等（消化器・呼吸器・泌尿・生殖器・乳腺・口腔・皮膚他）が 62%を占め、手術検体・腫瘍等の摘出検体が 36%の比率となっています。

術中迅速病理診断は 41 件実施され、全体の 2%を占めました。昨年度の 17 件から大幅な増加となっており、内容の内訳は、乳腺腫瘍・センチネルリンパ節が 15 件、消化器腫瘍 15 件、肺腫瘍 3 件、脳腫瘍 3 件、その他 5 件でした。術中迅速病理診断は、ごく限られた検体範囲から特殊な手法により即座に標本を作製し診断を行うものであり、診断には一定の制約が伴いますが、当院では診断精度の維持・向上に努めています。

また、病理診断の一環である細胞診検査においては、当院の細胞検査士（スクリーナー）に対して日常的に指導やディスカッションを行っています。令和 6 年度中途より、常勤の細胞検査士が 3 名体制となり、検査にかかる所要日数の短縮、処理能力の向上、診断技術の研鑽に取り組んでいます。

細胞診検査は、悪性腫瘍（がん）の早期発見・診断・治療において非常に重要であり、その必要性は今後ますます高まることが予想されます。地域の中核医療機関として、引き続きこの体制を維持・強化していくことが期待されます。

病理解剖（剖検）は 4 件実施し、すべての症例で CPC（臨床病理検討会）を開催しました。剖検から得られた知見を医師をはじめとする関係スタッフと共有し、今後の診療の質向上に活かすため、活発なディスカッションを行いました。

常勤医師の赴任により、これまで以上に迅速かつ柔軟な対応が可能となりました。曜日にかかわらず術中迅速診断を実施できる体制が整い、件数の増加にも寄与しています。また、必要に応じて福井大学医学部附属病院と連携し、難解症例や希少症例にも対応することとで、より正確かつ迅速な治療開始を目指しています。

歯科口腔外科

[常勤医師] 土井田 誠 水井 工 片岡 辰明

[歯科衛生士] 5名

【診療状況等】

歯科口腔外科では、消化器・呼吸器の入り口である顎・口腔の形態と機能のより良い保全に向けて医療の提供を行っています。令和 6 年度の外来患者数は 1 日平均 51.6（前年 52.3）人、新規入院患者数は年間 106（前年 89）人、入院手術件数は年間 104（前年 87）件うち全身麻酔手術は 20（前年 22）件、外来手術件数（普通抜歯・難抜歯は除く）は年間 307（前年 309）件、病理検査件数は年間 101（前年 103）件うち生検 9（前年 6）件でした。当科での取扱い疾患（診療内容）は以下の如くです。

< 歯 科 >

- ・ 一般歯科治療（う歯・歯周病の治療、義歯などの補綴治療）
- ・ 有病者歯科治療（※ 1）
- ・ 周術期口腔ケア（※ 2）

< 口腔外科 >

- ・ 埋伏歯（埋伏智歯、埋伏過剰歯）（※ 3）
- ・ 顎関節症および顎関節炎
- ・ 顎口腔領域の嚢胞
- ・ 顎口腔領域の炎症性疾患（頭頸部領域の菌性感染症）
- ・ 口腔顎顔面外傷（軟組織損傷、歯の損傷、顎顔面骨折など）
- ・ 顎口腔領域の良性・悪性腫瘍
- ・ 口腔粘膜疾患（白板症、口腔扁平苔癬など）
- ・ 口腔乾燥症（ドライマウス）・舌痛症（※ 4）

（※ 1） 全身疾患を有する患者さんの治療は、院内関連諸科、かかりつけ医療機関等との連携を密に行っています。たとえば、脳梗塞や心筋梗塞の予防のため血液をサラサラにする薬（抗凝固薬や抗血小板薬）を服用中の患者さんにつきましては、内科・脳外科などと連携の上、休薬の可否を検討しますが、原則として休薬せずに抜歯を行い、局所止血にて対応することが多くなっています。また、骨粗しょう症等でビスフォスフォネート製剤等を使用または使用予定の患者さんで、抜歯等による薬剤関連顎骨壊死のリスクが高いと思われる場合につきましては、事前

に口腔ケアを徹底して顎骨壊死のリスクを低下させるとともに、薬剤使用中に抜歯が必要な場合には、処方医と相談し、必要／可能であれば休薬して抜歯しています。

- (※ 2) 近年、口腔疾患は心疾患・糖尿病・誤嚥性肺炎などの全身疾患に影響を与えることが明らかになってきました。そのため口腔ケア（口腔衛生状態の改善のためのケアや治療）の重要性が高まっています。特に周術期においては、全身麻酔時の気管内挿管で口腔常在菌を気道へ迷入させる恐れがあり、術後の誤嚥性肺炎などを引き起こす可能性があります。また、術後に絶食となる場合は経口摂取時よりも口腔常在菌が増加し、感染症を引き起こしやすくなります。そのため、当科では、全身麻酔手術や化学療法／放射線療法を受けられる患者さんを対象に、口腔に起因する全身的な合併症の軽減を目的として、歯科医師による診察・処置や歯科衛生士による口腔清掃指導・専門的口腔ケア（器械・器具を用いた歯面清掃）を行っています。

具体的な周術期口腔ケアの対象は、当面、①悪性腫瘍に対する全身麻酔手術を予定（または術後概ね 3 か月以内）の患者さん、②化学療法・放射線療法を予定（または実施中）の患者さんとなります。

- (※ 3) 智歯（おやしらず）は 18 歳頃から萌出を開始しますが、現代人の顎の大きさは小さくなっている傾向にあり、これに対して歯の大きさはそれほど小さくなっていませんので、最後に生えて来る智歯（第 3 大臼歯）の萌出スペースが不足して、顎骨に埋まったまま（埋伏智歯または水平埋伏智歯）の患者さんが多く見られます。このような状態では、智歯周囲炎（おやしらずの炎症）を起こし易く、歯肉の腫れ、痛みを繰り返し起こすことになります。

埋伏智歯抜歯術は、当科入院手術の半数以上を占め、外来小手術の中でも 15% 程度を占め、当科にとっては重要な手術のひとつとなっています。智歯周囲炎を繰り返す場合は勿論ですが、智歯周囲炎を起こす可能性の高い埋伏智歯については、発症する以前にでも抜歯しておくのが良いと考えられます。抜歯の容易さから考えますと、下顎埋伏智歯は 10 代後半、上顎埋伏智歯は萌出（の可能性）を待って 20 代前半くらいまでに抜歯しておくのが適切と考えられます。症例によっては外来局麻下での抜歯も可能ですが、抜歯の難易度、予定手術時間、患者さんのご希望などにより、入院下での静脈内鎮静法を併用した局所麻酔下、さらには全身麻酔下での抜歯にも対応しています。

また、通常のオルソパントモ X 線写真で下顎埋伏智歯の根尖が下顎管に近接して下歯槽神経損傷を起こし易いと判断された場合には、CT 撮影を行い、抜歯法を詳細に検討し、場合によっては、歯冠切断法（埋伏歯冠のみを切断除去し歯根は残す方法）や 2 回法（歯冠切断後に歯根が移動して下顎管から離れてから改めて安全に歯根を抜去する方法）にて対応することもあります。

- (※4) 口腔乾燥症に対しては、シェーグレン症候群も考慮した系統的な検査・診断を行い、原因を究明した上で、各種内服薬（塩酸セビメリン製剤等）、含嗽剤、口腔保湿剤、人工唾液、漢方薬等を組み合わせた系統的な治療を行っています。また、舌痛症（近年では末梢痛覚神経障害性慢性疼痛と考えられています）や味覚障害の病因には、口腔乾燥、栄養障害、精神心理的要因、口腔カンジダ症などが複雑に関連していることを念頭に置き、系統的な検査・診断・治療を行っています。

上述の埋伏智歯抜歯の他にも、局所麻酔下での口腔外科的疾患の手術（嚢胞・腫瘍摘出術、顎骨骨髓炎手術等）においては静脈内鎮静法を併用し、患者さんに安全でストレスの少ない手術の遂行に心掛けています。全身麻酔下手術においては麻酔科医師と検討のうえ手術療法を施行しています。また、全身疾患のある患者さんの手術においては、関連各診療科の専門医と協力の上、術前～術後管理を一貫して行い、患者さんの QOL の向上に努めています。当科の手術日は月曜日の午後および金曜日の午後となっています。

口腔外科領域においても病-診連携・病-病連携の推進は重要であり、一次医療機関の先生方と患者さんの共同管理に努めながら、また院内他科との連携等、総合病院歯科口腔外科ならではの特徴を活かした歯科口腔外科診療を通じて、地域住民の方々の口腔の健康の維持・増進に貢献していきたいと考えています。

現在、当科には公益社団法人日本口腔外科学会認定専門医・指導医および卒後臨床研修指導医が常勤しており、地域の総合病院歯科・口腔外科として患者さんのために良質な医療の提供を継続したく考えています。当院は平成 18 年 1 月 18 日付で厚生労働省より歯科医師卒後臨床研修施設指定病院（施設番号：051316）、また、平成 24 年 10 月 1 日付で公益社団法人日本口腔外科学会認定准研修施設（施設番号：准 3029）に認可され、平成 23 年 10 月からは岐阜大学大学院医学系研究科口腔病態学分野より口腔外科医師（研修医）を断続的に受け入れ、歯科医師卒後臨床研修を行っており、当院麻酔科医師の指導の下、麻酔科研修も実施しています。

健診センター

〔担当医師〕 廣瀬 敏士（脳神経外科） 丸山 市郎（放射線科） 荒木 克夫（内科）

〔看護職員〕 1 名 〔事務職員〕 2 名

【診療状況等】

健診センターでは令和 6 年度も従来通り、1 日ドック、2 日ドック、脳ドック、PET 健診、協会けんぽ健診、特定健康診査、各種の健康診断、がん個別検診（胃、大腸）を行いました。

担当は、脳ドックを廣瀬医師（脳外科）、その他の健診を荒木克夫医師（内科、非常勤）と丸山医師（放射線科）が行いました。他には、看護師または看護助手等 1 名が診察介助と身体計測等を行い、常駐する事務職員 2 名が各種の受付業務に対応致しました。

今年度は、廣瀬医師が中心となって認知症のスクリーニング検査（認知機能セルフチェッカー）を開始いたしました。

従来と同様に、消化器センター（胃内視鏡、大腸内視鏡）、循環器科（心電図判定）、外科（マンモグラフィ読影）、婦人科（婦人科診察・細胞診）、眼科（眼底所見の判定・眼圧測定）、耳鼻科（聴力検査）、画像診断センター（腹部超音波検査、遠隔画像診断による胸部単純 X 線写真・PET 検査・胃部 X 線検査の読影、MRI・MRA 検査の読影）、検査科（検体検査、呼吸機能検査、心電図検査、病理検査）等の院内各部署の協力いただき運営いたしました。受診者数は以下のとおりです。

	1 日 ドック	2 日 ドック	P E T	脳ドック	特定 健診	健康 診断	協会 けんぽ	個別 検診
平成 28 年度	715	63	41	131	71	198	304	51
平成 29 年度	739	50	17	142	62	160	394	61
平成 30 年度	731	50	10	162	73	200	502	57
令和元年度	745	50	14	132	65	206	400	35
令和 2 年度	707	51	17	123	60	222	313	64
令和 3 年度	719	51	14	149	76	218	278	67
令和 4 年度	721	34	16	133	74	212	298	63
令和 5 年度	742	48	18	111	87	185	336	84
令和 6 年度	766	34	18	110	107	18	365	94

引き続き、生活習慣病の 1 次・2 次・3 次予防とがんの早期発見を通して、地域医療に貢献したいと思います。

血液浄化センター

[常勤医師] 吉田 治義（内科、センター長代理）

高原 典子（泌尿器科、副センター長） 坂下 紗弓（内科）

酒井 雅人（内科）

[非常勤医師] 荒井 宏之 武呂 幸治 高柳 俊亮 西川 雄大

西川 翔 糟野 健司 西森 一久 森田 紗由

堀口 孝泰

[臨床工学技士] 7 名 [看護師] 12 名 [看護補助員] 1 名

[診療補助員] 1 名

【診療状況等】

令和 6 年 4 月に腎臓内科医の酒井雅人医師が内科医長として復職しました。

当センターでは、医師、看護師、臨床工学技士によるチーム医療体制で、慢性腎不全の透析導入や通院透析、急性腎不全の入院透析、および持続緩徐式血液濾過透析(CHDF)、腹水濾過濃縮再静注療法(CART)などの特殊治療に当たっています。栄養相談室や地域連携室のスタッフの協力でより良い透析生活ができるようサポートしています。センター内での治療では血液濾過透析(HDF)による透析効率の向上を図り、集中治療室での出張透析は計 30 回行い、CHDF などの個別透析治療にも対応しました。新型コロナウイルス感染の血液透析患者には隔離透析を行い、本年度は 21 例に計 81 回実施しました。内シャントの作成と狭窄の診断・治療は、高原 典子医師が中心となって、泌尿器科医師が協力病院と連携して実施しました。透析患者に多い下肢閉塞性動脈硬化症の治療管理には、看護師が毎月 1 回フットチェックを行っており、重症例には循環器内科による血管内治療が福井大学循環器内科と連携して積極的に行われ、好成績を挙げました。

令和 6 年度の血液透析治療の延べ件数は 16,942 件で、昨年度より 1248 件減少しました。

年度末の血液透析患者数は 109 名で、昨年度から 4 名減少、腹膜透析患者数は 3 名で、増減なしでした。特殊血液浄化治療については、血漿交換 (PE) 0 回、CHDF 延べ 38 日、エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) 5 回、CART 10 回、顆粒球吸着療法 12 回、LDL 吸着(LDL-A) 16 回でした。

消化器センター

〔常勤医師〕

(内科) 永谷 菜穂 井上 元気 翠 洋平 齋藤 大雅

竹部 万由(～R6. 9. 30) 稲田 ゆり(R6. 10. 1～) 荒木 克夫

(外科) 菅野 元喜 林 泰生 前田 敏樹 岸 和樹 平山 楓

山岸 和樹 渡辺 倫夫(R7. 1. 1～)

〔非常勤医師〕 塩川 雅広 松森 友昭 栗田 威 西川 義浩 高橋 和人

〔看護職員〕 3 名 〔看護補助員〕 1 名

【診療状況等】

消化器センターとして令和5年度に内科医師の増員があり内視鏡検査・治療件数が大幅に増加しました。今後は地域住民の方に定期的な内視鏡検査を行い疾病の早期発見につなげられるよう、啓蒙活動により一層取り組む必要があります。

早期癌に対する内視鏡治療の適応や外科的治療の内容など術前に内科・外科・画像診断部門が合同カンファレンスを行うことで適切な治療方法をディスカッションし、また術後の結果も同様に共有することでよりよい医療を提供できるよう尽力しています。

《統計》

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
上部消化管検査	2,123	2,358	2272	△86
(粘膜下層剥離術)	6	13	16	3
(内視鏡的胃ろう増設術)	30	18	11	△7
下部消化管検査	899	1,272	1113	△159
(大腸ポリープ切除術)	153	291	297	6
(粘膜下層剥離術)		13	18	5
膵胆管造影検査	140	174	134	△40
小腸内視鏡	6	4	7	3

画像診断センター・診療放射線科

〔常勤医師〕

（放射線科診断）川上 悟司

〔放射線技師〕 12 名 〔看護師〕 6 名

【診療状況等】

画像診断センターでは、CT、MRI、PET-CT、X 線撮影装置、X 線透視装置、超音波装置などを有し、日々検査を行っています。

診療放射線技師は、各診療科の依頼を受け、精度の高い診療のために必要な画像情報の提供を行っています。24 時間 CT、MRI などの検査が行える体制を整え、高精度な画像情報の提供が行えるよう努めています。

今年度は MRI 装置の更新を行いました。新しい MRI 装置は、進化した高速撮像技術や動きに強い機能に加え、ディープラーニング技術も取り入れられており、これまで検査に不安を感じていた患者様や、息止めが難しかった患者様にも対応できるようになりました。その結果、より短時間で、より鮮明な画像の取得が可能となっています。

乳房撮影や乳房超音波検査については、女性の診療放射線技師が担当し、患者様に安心して検査を受けていただける環境づくりを心がけています。

今後も他部署との連携を強化し、安全・安心かつ高精度な画像診断を通じて、質の高い医療の提供に貢献してまいります。

薬 剤 部

〔職員数〕（令和 6 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む）

薬 剤 師 12 名 薬剤助手 4 名（うち派遣 2 名含む）

薬剤部理念

医薬品の適正使用を通して、質の高い薬物治療の提供およびチーム医療に貢献します。

【診療状況等】

令和 6 年度は、前年度に 2 名の薬剤師が退職したことで、7 月以降薬剤助手(派遣)1 名が補充できずその業務を薬剤師がカバーしたことが大きく、7 月に育休から薬剤師 1 名が復職したものの、薬剤管理指導業務件数は前年度より減少した項目がありました。それでも、抗癌剤や TPN の無菌調製件数、院内処方や注射処方の疑義照会件数、持参薬鑑別件数、癌化学療法の使用レジメ件数などは前年度より増加しており、少ない人数ながら薬剤師としての職能を発揮しています。

下記に、薬剤部業務について紹介します。

《調剤》

薬剤部は 1 階と 2 階にわかれており、1 階では主に内服・外用調剤を、2 階では注射調剤を実施しています。休日・夜間問わず、365 日 24 時間薬剤師を配置し調剤業務を行っています。

《注射薬調製》

クリーンベンチ内では清潔操作を心がけながら TPN（Total Parenteral Nutrition）調製を、安全キャビネット内では抗癌剤曝露防止に努めながら抗悪性腫瘍剤調製を実施しています。それぞれ適切に調製することも大切なのですが、その処方内容やレジメの管理・確認には特に重要と考えています。

《薬剤管理指導》

入院患者または家族へ 正しい服用方法を説明し、副作用の防止・早期発見のための服薬説明を実施し、医薬品適正使用を推進しています。入院患者だけでなく、外来患者へはインスリンや成長ホルモンの使用方法や保管方法についても指導しています。

《医薬品情報管理》

採用している医薬品が適正に使用されるよう、厚生労働省や製薬企業から 常に最新の医薬品情報の収集を行っています。得られた情報は、必要に応じて医療スタッフに直接情報提供を行い、毎月 1 回発行の薬剤部だよりに掲載しています。

《チーム医療》

感染対策チーム、栄養サポートチームや術後疼痛管理チームをはじめ、緩和医療チームや褥瘡関連など、他職種と連携を取りながらさまざまな医療チームに参加し、薬の専門家として貢献しています。

《その他》

入院時の持参薬照会・代替薬の処方提案、麻薬・向精神薬・毒薬等の適切な管理、院内製剤の調製、薬学部学生の実習受入のほか、新人看護師や研修医に対する入職時の医薬品に関する研修、麻薬・向精神薬や抗菌薬、抗癌剤などの研修会の講義を行うなど多岐にわたります。

さらに災害医療に対しても積極的にかかわっており、DMAT 隊員として 1 名タスク登録しています。

臨床検査科

[職員数] (令和6年4月1日現在、非常勤職員含む)

臨床検査技師 17名

【診療状況等】

◇ 検査件数

検査件数(外注を含む総件数)は、R3年度1,056,433件、R4年度1,015,978件、R5年度1,132,031件、R6年度1,156,030件(医療行為月報を基に集計)、依頼されています。検査試薬・機材等のコストパフォーマンスにも留意し、効率的かつ正確・安全・確実な業務遂行のため、改善を重ね努力しています。

◇ 精度管理について

内部精度管理については、隔週一回のミーティング時に各分野交替で状況報告と意見交換をしています。試薬・装置・コントロール検体の管理や手技の改良等を行ない、検査精度の向上につなげています。外部精度管理については、日本臨床検査技師会(全国)や福井県臨床検査技師会(県内)のコントロールサーベイ、試薬メーカーのサーベイ等に参加し各分野とも良好な成績を得ています。

◇ 院内感染対策委員会

狭義の院内感染のみならず、感染症に関する情報提供、予防・診療の検討、指針の策定や指導も行なっており、臨床検査技師も重要な任務を担っています。

◇ 糖尿病療養指導

糖尿病療養指導士の資格保有技師が2名おりますが、患者様の期待に少しでも応えられるよう、学会や研修会に参加しスキルアップに努めています。

◇ 心臓超音波検査・心臓カテーテル検査への参画

生理機能検査分野の業務充実として、循環器科医師等の協力・指導を頂き、心臓超音波検査(心エコー)を行っています。今後研鑽に努め、循環器診療の充実・効率化に寄与できるよう努力していきたいと考えています。

心臓カテーテル検査では、ポリグラフの測定・記録に昼夜問わず担当しています。

リハビリテーション科

【職員数】（令和 6 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む）

理学療法士 20 名 作業療法士 16 名 言語聴覚士 7 名（非常勤職員含む）

補助員 5 名（精神保健福祉士 1 名含む）

【基本理念】

患者さまが自分らしく生活できるためのリハビリを提供します。

【令和 6 年度 診療目標】

- 1) 各業務において数値目標を設定し、定期的評価・見直しを行いながら目標達成をめざす。
- 2) 担当部門内外での相互理解・協力を意識して行動し、患者様に信頼され、満足して頂ける医療サービス、リハビリテーションサービスを提供する。

【診療状況等】

I 各療法別の紹介

当院リハビリテーション科では、理学療法、作業療法、言語聴覚療法ともに、入院、外来、小児から高齢者まで、急性期から慢性期までと幅広い分野のリハビリテーションを実施しています。小児療育、精神科リハビリテーションなどの専門領域にも力をいれております。

それぞれの専門分野において、研鑽をつみながらチーム医療の一翼を担っています。

新型コロナウイルス感染症の感染対策から、入院リハビリテーションは病棟実施が主流となりました。徐々に新型コロナウイルス感染症の影響は落ち着いてきましたが、病棟リハビリテーションの実施を継続しています。担当者が病棟に出向き、多職種と協力しながら、早期離床や日常生活動作の改善、在宅支援に取り組んでいます。各診療科とリハビリテーション科の密な連携により、医療の幅を広げ、地域に根差した支援体制の構築を進めています。退院後の生活を見据え、介護保険下のサービス等とのスムーズな連携、地域社会に貢献できるリハビリ体制を目指しています。

理学療法

1. 活動報告

1) 診療内容

理学療法の対象疾患は脳卒中などの中枢神経疾患、骨折や変形性関節症などの整形外科疾患、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患、心不全や心筋梗塞などの心疾患、さらに癌や小児疾患など多種多様です。それらの疾患により当院に受診された入院・外来患者さんに対して理学療法評価に基づいた診療計画を立案し、個々の状態に合わせて病棟や病室、リハビリ室で理学療法を実施します。早期から理学療法を実施することで臥床による廃用を予防・改善し早期退院を目指します。

理学療法の内容は筋力トレーニングや関節可動域練習、神経筋促通などの運動療法や寝返り・起き上がり・座位・立ち上がり・歩行・段差昇降などの動作練習を中心

に行います。その他に、消炎鎮痛目的に物理療法も行っています。また退院前カンファレンスや退院前訪問指導にも積極的に関わり、退院後の生活がより円滑に行われるよう、家族やケアマネージャー、介護事業所スタッフや福祉用具専門員等と連携をとっています。

2) 昨年度との比較

理学療法部門において部門内外・チーム内外で協力し職場内教育を実施し、業務の効率化・質の向上に取り組みました。新人教育プログラムも引き続き継続し、チーム内での状況を情報共有していくことで、より一定した教育を継続することが出来ました。加えて、オンラインでの研修会や学会等にも積極的に参加し、職員それぞれの専門性を高めることや、知識の再学習・再認識を行い自己研鑽に努めたり、院内・外から研修会講師の依頼を受け、リハビリ的知識を伝達・教育しました。また、接遇に関しては、患者さんやその家族の方々に信頼して頂けるよう各診療チームにおいて様々な情報を共有し把握することで接遇向上に努めました。

目標単位数を設定し、職員それぞれが単位取得を意識し達成に向けて努め、リハビリ総合実施計画書や目標設定等支援管理料・診療情報提供書など各種書類を作成し加算算定にも努めました。また、病態に応じた早期からの疾患別リハビリテーション推進のため、令和6年度診療報酬改定において新設された急性期リハビリテーション加算の対象患者さんの評価を科内の各部門が協力し行うことで算定を開始する事が出来ました。

その他、福井県理学療法士会の活動も継続し「若狭で活躍できるセラピストの育成」を目的に、院外の理学療法士とオンラインにて意見交換や研修会を実施しました。

3) 今後の課題

新人教育や職場内教育等の人材育成を継続し、質の高いリハビリテーション医療を提供していきます。病棟稼働率や感染対策などにも柔軟に対応し、最大限のリハビリテーション効果を発揮できるように各疾患チームの編成を検討し、人員配置を行います。院内や地域の課題に対して、リハビリテーション科として積極的に関与し、地域医療推進に努めていきます。

2. 研修会・勉強会参加

セミナー参加 61件 (オンライン 48、現地 13)

学会・研修会参加 37件 (オンライン 29、現地 8)

日本心臓リハビリテーション学会、福井心不全治療研究会、二州・若狭合同ブロック学会、福井県理学療法学会、日本理学療法学会、東北北陸理学療法学会、日本呼吸・循環器理学療法学会、日本神経理学療法学会、福井県心臓リハビリテーション研究会、日本理学療法管理学会、自治体病院協議会研修会、日本栄養・嚥下理学療法研修会、災害リハビリテーション連携研修会、JRAT 研修会、地域包括リハケアシステム推進事業自立支援研修会、日本緩和医療学会学術大会、日本集中治療医学会学術大会

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義
- ・中学校職業紹介
- ・変動する症状により不安障害を呈したパーキンソン症候群の一症例-変動する動作能力の評価を中心に- 神澤直起 第28回福井神経理学療法学会 2024.6.16
- ・多様化するキャリア〈これまで〉と〈これから〉～ブロック活動を運営する

作業療法（身障・発達分野）

1. 活動報告

1) 診療内容

身体領域作業療法では、脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、がん疾患などの患者さんを対象に、日常生活動作がより円滑になるようにリハビリを行っています。内容は、①食事・排泄・更衣等の生活動作練習、②集中・注意・記憶等に関する高次脳機能練習、③家事などの応用動作練習、④生活環境設定、⑤座位・立位などの基本動作練習、⑥関節運動・筋力運動などの機能練習などを行っています。

発達作業療法では、療育が必要なお子さんに支援を行っています。必要に応じ、視覚検査・発達検査等も行っています。また、地域の各機関と連携を取り、包括的支援にも取り組んでいます。

2) 昨年度との比較

- ・処方数・実施数は昨年度と比較して増加しました。
- ・相互協力を意識し、各部門・他職種等チームでの連携の強化に努めました。

3) 今後の課題

- ・業務の質を向上し、患者さんにより効果的なリハビリを提供するよう努めます。
- ・業務の効率化と適正な分担を行い、より円滑にリハビリを提供出来るように努めます。

2. 研修会・勉強会参加

- ・TNT-Rehabilitation 研修会
- ・日本作業療法士協会 認定作業療法士研修会「管理・運営」
- ・医療安全連携セミナー
- ・リハビリテーション部会オンラインセミナー〈中堅・管理職向け〉
- ・リハビリテーション部会オンラインセミナー〈新人職員向け〉
- ・福井県作業療法士会 特別支援教育委員会主催 自助具研修会
- ・脳卒中連携パス

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義
- ・中学校職業紹介
- ・看護フェア
- ・小浜病院出前講座（市民講座）
- ・OT 県士会（JRAT 報告）
- ・日本作業療法士協会 認定作業療法士取得研修 「研究法」

作業療法（精神分野）

1. 活動報告

1) 診療内容

- ①活動性・自主性の向上。②対人関係、人付き合いの練習。③生活リズムの調整。④

認知・身体機能の維持・改善。⑤活動と休息のバランスを身につける。⑥感情の表現と発散、気分転換。⑦自己価値の再発見。⑧日常生活に必要な生活技能の練習。⑨興味の拡大。⑩社会性の向上。⑪自己理解を深めるなどを目的に入院・外来患者さんの症状や回復時期に応じて、集団プログラムや個別プログラムを実施しています。

2) 昨年度との比較

対象患者さんは、思春期から高齢の方までと幅広くなっています。それに伴い、患者様の必要性や目的に合わせて、プログラムの変更を行っています。

3) 今後の課題

患者傾向に適したプログラムの提供、安全管理の徹底、退院促進、地域生活の援助、就労支援に努めます。

2. 研修会、勉強会参加

- ・福井県作業療法士会研修会

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義
- ・若狭つくし会ジョブセミナー講義

精神科デイケア

1. 活動報告

1) 診療内容

①通所者の居場所を提供し、生活圏・対人交流範囲の拡大を図る場。②様々なグループ活動を通じて、円滑な対人交流、社会性、自主性を獲得する場。③生活リズムを維持し、日常生活技術を獲得する場。④個々の通所者の病状、能力に見合った現実的な就労支援をする場。⑤医療的な関わりによって病状の再燃を防止し、病状悪化の際はそれを早期に把握するなど通常の外来診療を補完する治療の場。⑥同居している家族との適切な距離を保つために日中過ごす場。⑦疾患のセルフコントロールの学習・練習の場。これらの役割をベースに、患者さん個々の目的・目標に近づけるように、多職種が連携して日々様々な大小の集団プログラム(月に20弱のプログラム数を実施)を運営しています。

2) 昨年度との比較

患者さんの要望や必要性に合わせて、月毎のプログラムは変更しています。

3) 今後の課題

多様化する通所者の目的や目標の傾向に応じたプログラム運営、安全管理の徹底に努めます。

2. 研修会・勉強会参加

- ・ジョブガイダンス
- ・自立支援協議会主催の各種研修会・勉強会

言語聴覚療法

1 活動報告

1) 診療内容

当病院の外来、急性期病棟、包括病棟、療養病棟、精神科病棟、また介護老人保健施設で言語聴覚士が関わっています。

成人患者では、主に脳疾患や内科的疾患による言語障害、音声障害、高次脳機能障害や摂食・嚥下障害の方に対し、検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行っています。近年、高齢化が進むなかで、摂食・嚥下障害の患者さんが増えてきています。患者さんの安全な食事摂取をめざし、間接的嚥下訓練や直接的嚥下訓練を行っています。

外来では特に小児の患者さんが多く、構音障害や言語発達遅滞、自閉スペクトラム症等の疾患に対し、言語・コミュニケーションリハビリを行っています。また、若狭圏域唯一の小児療育拠点病院としての機能が維持できるよう努めています。

2) 昨年度との比較

成人部門では、新人スタッフの入職があり、例年以上に教育に力を注ぎました。また、小児部門では2人体制となり、さらに多くの患者さんへリハビリが提供できるようになりました。

3) 今後の課題

- ・新人スタッフの教育に力を入れ、各スタッフの技術向上を目指します。
- ・感染対策を心掛けた上でリハビリを行います。
- ・質の高いリハビリを提供します。

2. 研修会・勉強会参加

- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- ・PECS ワークショップ
- ・POTT 研修会
- ・日本老年療法学会

3. 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学院講義
- ・中学校職業紹介

II 各科カンファレンスの実施

- ・各科、各病棟カンファレンスを積極的に実施しています。
- ・内科・脳外科・整形外科・精神神経科・療養科：各科で、医師・看護師・社会福祉士を交え、入院患者さんの現在の様子や情報交換など行い、今後の方針などを検討します。
- ・小児科：医師と患者さんの現在の様子や今後の方針などを話し合います。
- ・リハビリ科：リハビリスタッフ内で情報交換など行い、今後の患者さんの治療方針などを話し合います。
- ・救急総合診療科：医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士を交え、入院中の早期リハビリテーションの適応条件やプロトコル、中止基準などを検討します。

【カンファレンス日程】

カンファレンス名		日程
5F カンファレンス	全員	第 2・4 木曜
6F カンファレンス	全員	随時（第 3 月曜）
整形外科カンファレンス	整形全員	第 3 月曜
7F カンファレンス	ケース	第 1.2.4 水曜
脳外科カンファレンス	全員	毎週木曜
西 3 カンファレンス	ケース	毎日
療養病棟カンファレンス	全員	第 3 金曜
ICU カンファレンス	ケース	月～金曜
小児カンファレンス	ケース	第 2、3 火曜 第 3 金曜
リハビリ科カンファレンス		第 1 水曜
東館カンファレンス		隔週火・木曜
デイケアカンファレンス		不定期
退院前カンファレンス		随時

Ⅲ 福井県地域包括ケアリハ推進事業

今年度は、「BLS 講習会」「災害時対応の勉強会（アクションカード勉強会）」「吸痰講習会」「令和 6 年度診療報酬改定の概要」を、科内外のスタッフを講師として科内研修会を実施しました。

Ⅳ 福井県地域包括ケアリハ推進事業

当事業において広域支援センターの役割を担い、地域包括ケアシステムの実現に向けて、リハビリテーションを提供する基盤を強化し、地域包括支援センターを支援する人材育成に関わっています。

Ⅴ 地域支援体制

- ・障害児通園施設 CokoUta
- ・若狭地区障害児者自立支援協議会
- ・若狭つくし会
- ・嶺南西特別支援学校
- ・健康福祉センター（難病支援）

Ⅵ 実習生の受け入れ

教育研修機能の充実及びリハビリテーション職種の後輩育成のため、当科開設以来、理学療法、身障作業療法、精神作業療法、言語療法において福井県内の養成校、地元出身学生を中心に、評価・臨床実習の受け入れをしています。

医学部、薬学部、看護学部の各学生実習にも関わっています。

VII 職業紹介講演会で講師派遣

小浜中学校、上中中学校、名田庄中学校に理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を派遣し、仕事の内容ややりがいなど、治療道具などを用いて紹介しました。

食事療法科

[職員数] (令和 6 年 4 月 1 日現在、非常勤職員含む)

管理栄養士 6 名 栄養士 3 名 調理師 6 名 調理補助員 4 名

【診療状況等】

・給食管理

医師により入院患者さんの食事内容が指示され、それに基づいた食事の提供を行っています。令和2年4月より院外調理による食事提供になり、調理業者との連携をとりながら、入院患者さんに満足していただけるように年 1 回嗜好調査を実施し、食事の改善等に努力をしています。

・栄養管理

入院時に患者さんの栄養管理計画書を作成し、それに基づいた栄養管理を行い記録します。そして栄養状態は定期的に再評価し、必要に応じた計画書の見直しを行います。

また入院、外来患者さんに栄養指導を行い、病態に応じた食事相談や食事療法を提案させてもらいます。

栄養サポートチームでは、管理栄養士として低栄養患者さんの改善に努めています。令和4年8月より、早期栄養管理加算の算定も実施しています。

・その他

地域ケア会議へ毎月 1 回参加し、地域高齢者の健康支援を推進しています。福井県内の養成校や地元出身学生を中心に、臨床実習の受け入れと、日本病態栄養学会認定教育施設におけるNST臨床実習生、静脈経腸栄養（TNT-D）認定養育施設における臨床実習生の受け入れをしています。

また、地元中学生への職業紹介講演会に講師派遣しました。

臨床工学科

〔職員数〕 令和 6 年 4 月 1 日現在

臨床工学技士 7 名

【診療状況等】

業務内容・勤務体制

1) 血液浄化センター業務

血液浄化センター内で 1 クール最大 40 名の治療に対応する為、透析用精密機械室や治療室で準備や透析液の管理、シャント部への穿刺、機器の操作や片付け清掃及び配管消毒等を主に行なっています。また、治療中における機器トラブルの対応や定期的に透析装置の点検・部品交換も行なっています。透析治療は月・水・金は 3 クール、火・木・土は 2 クールで行っています。早出・遅出・土祝日の変則勤務で対応し、治療中は 1 名以上の技士が担当するよう努めておりますが、他業務と兼務する状況が続いており、迅速な対応が難しい状況となっています。その他、感染病棟への出張透析や救命救急センター 2 階での緊急透析や急性期・重症期における持続緩徐式血液透析濾過透析(CHDF)や各種血液浄化にも対応し、オンコール体制としています。

令和 6 年度 特殊血液浄化実施状況

治 療 名	実 施 数
CART(腹水濾過濃縮再静注法)	10 回
CHDF(持続緩徐式血液透析濾過透析)	延べ日数 38 日
LDL-A (LDL 吸着療法)	16 回
GCAP(顆粒球吸着療法)	12 回
出張(緊急)透析	30 回

2) 手術センター業務

手術内容に応じた医療機器の準備と始業点検・定期点検の実施、手術中は医療機器の設定や接続等の操作補助とトラブル時の対応を行なっています。手術時以外では救命救急センターの生体情報モニターや汎用型輸液・シリンジポンプ等、限定機種ではありますが定期的に点検を行なっています。手術センターでの業務は技士 2 名が担当し、平日日勤帯の手術に対応できるよう 1 名が常駐しています。

3) 心血管カテーテル業務

主にいろいろな生体情報を記録できる装置（ポリグラフ）や血管内部の様子を観察できる装置(IVUS)等の操作を、また必要時には IABP、PCPS 等の準備や清潔操作の補助を行なっています。血液浄化勤務と兼務となりますが技士 2 名が担当し、臨床検査技師と協力体制を取り 24 時間オンコールで対応しています。

4) 医療機器管理業務

限定機種ですが、汎用型輸液・シリンジポンプや AED 等定期点検を昨年度同様、平日日勤帯で臨床業務の合間に行なっています。今年度からは、救命救急センターにある呼吸器の点検も行っています。貸出・返却のデータ入力により、電子カルテ上で院内共有ポンプの在庫数が確認出来るようになっていきます。今後も使用状況、稼働数把握に努めていきたいと思っています。

臨床心理室

【職員数】 令和 6 年 4 月 1 日現在

公認心理師 4 名（常勤 3 名、非常勤 1 名）

臨床心理士 1 名（非常勤）

【診療状況等】

令和 6 年度は、一昨年度と同程度の実施件数となり、前年度と比較して実施件数の低下が認められました。院内人事の影響などさまざまな要因がこれらに反映されていると推測されます。一方で、従来の診療科業務だけでなく緩和ケアなどの患者さまの QOL に関わる業務も増加傾向にあり、チーム医療への参加を通じて地域住民の皆さまの健康の維持に貢献に繋がる働きが出来ていると感じています。

心理検査および心理療法等実施件数の推移

年度別実施件数	小児科	精神科	SC・もの忘れ健診 等	総実施件数
令和 4 年度	944	865	147	1,956
令和 5 年度	956	1,004	165	2,125
令和 6 年度	778	1,001	197	1,976

【業務内容】

- ・小児科での心理検査（新版K式発達検査・田中ビネー・WISCなど）および心理療法
- ・精神科での心理検査（WAISなど）および心理療法
- ・もの忘れ健診での認知症スクリーニング/脳ドックでの認知機能アセスメント
- ・公立若狭高等看護学院へのスクールカウンセラー派遣
- ・嶺南地区スクールカウンセラー交流会の開催（6月・12月の計2回）
- ・外部機関への講師および相談員派遣
- ・緩和医療検討委員会および緩和ラウンドへの参加

【今後の展望】

依然として心理専門職への院内外からのニーズの高さを感じています。それらに応えるべく更なる研鑽を積み重ね、今後も地域住民の方々の心身の健康増進に貢献出来るよう努めます。

【研修会・学会参加】

- ・福井県公認心理師、臨床心理士協会主催研修会
- ・福井子どものこころの臨床研究会
- ・包括システムによる日本ロールシャッハ学会
- ・第 29 回日本緩和医療学会
- ・第 50 回日本認知・行動療法学会

【講師・相談員派遣】

- ・令和 6 年 9 月 7 日 二州健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 林晃平
- ・令和 6 年 9 月 28 日 若狭健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 蒲原健人
- ・令和 6 年 12 月 5 日 仁愛大学大学院 地域支援臨床心理学特論Ⅱ 蒲原健人
- ・令和 7 年 2 月 13 日 美浜町立美浜中学校 福井県若者自殺対策危機対応チーム
林晃平
- ・令和 7 年 3 月 8 日 二州健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 林晃平
- ・令和 7 年 3 月 8 日 若狭健康福祉センター 悩みごと何でも相談会 蒲原健人

看護部

[職員数] 令和 6 年 4 月 1 日現在

看護師 254 名 (32 名) 助産師 13 名 (7 名) 准看護師 5 名 (8 名)

看護補助員 28 名 (15 名) 外来診療補助員 (14 名) () 内 非常勤職員別掲

看護部理念

地域の皆さまのその人らしい生活の実現に向けて、安全・安心な看護を提供します

看護部方針

1. その人らしさを大切にする看護を提供します
2. チーム医療に積極的に参加します
3. 専門職業人としての自覚と誇りを持てる人材を育成します
4. 経済性に配慮した取り組みをします
5. ワークライフバランスを推進します

看護部目標

地域から求められる看護の視点をもった経営参画

1. 暗黙知の看護の言語化・見える化
2. 委員会活動と看護実践の統合による成果
3. 多職種連携・協働
4. 働き続けられる職場づくり

看護部目標 総評

1. 暗黙知の看護の言語化・見える化

各部署の活動支援・指導、リフレクションを取り入れた教育を推進してきた。看護部として、できる限りの支援・指導・コーディネートに努めたが、成果が認められるようになるには継続が必要である。次年度以降も看護職が思考を言語化・可視化できる具体的方法を考え取り組む。

2. 委員会活動と看護実践の統合による成果

診療報酬改定を受け、看護部委員会を再編し新たに認知症サポート委員会を発足した。身体拘束最小化の取り組みについては、今年度中に仮運用、経過措置期間が終了する 2025 年 6 月迄には本運用できるように準備を進めている。

どの委員会も委員会目標達成に向けて PDCA サイクルを意識した活動が行えるようになってきた。このサイクルを絶やすことなく活動できるように指導・支援していく。

3. 多職種連携・協働

多種多様な医療スタッフが各々の専門性を前提に目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状態に対応した医療を行うことが医療サービスの向上に繋がる。さらに地域包括ケアシステムの実現には、医療と介護の連携等、院外多職種との連携も不可欠である。また、多職種相互協力によるタスク・シフト/シェアが進むことは看護職の負担軽減、裁量の活用にも繋がる。以上のことから、チーム活動には積極的に参画し、連携・協働を意識して活動することができた。しかし、大きな看護業務のタスク・シフト/シェアは行えなかった。

昨年度から引き続き算定している加算については、目標値に対して 100%前後の算定実績を残すことができた。加えて、今年度新たに算定を開始した看護補助体制充実加算は増収に繋がり、看護部として経営に寄与することができた。

4. 働き続けられる職場づくり

労務管理に関して、勤務形態や看護体制は各部署の特性をふまえた変革を支援してきたが、変革途中の部署もあり変革理論という再凍結には至っていない。しかし、細かな業務改善の交渉や部署間応援の調整により、超過勤務時間は昨年と比べると約 15%減少した。

看護職確保に関して、就職説明会開催・参加やインターンシップの随時受入れに加え、学生の学力維持・向上への動機づけを目的に修学金貸与生と看護部長との面談を開始した。2025 年度は新卒看護師 12 名、既卒看護師 1 名、看護補助員 2 名、外来診療補助員 1 名が入職予定である。一方で、離職率は年々上昇傾向にあり、2024 年度の離職率は、2023 年度の全国公立病院 8.8%、福井県正規雇用看護職員 9.1%と同程度となる見込みである。看護職の地域偏在や看護学生の大学志向、生産年齢人口減少の影響で、今後は更に看護職確保が困難になると予想されるため、職員確保と離職防止は喫緊の課題である。離職防止には看護業務の負担軽減や働き続けたいと思えるような動機づけが必要だが、負担軽減は自助努力では限界を迎えている。病院全体の相互協力での業務負担を平均化するような取り組みが必要であると考え、ため提言していきたい。

看護部活動

月	日	活動内容
4 月	1 日～4 日	新入職者対象病院オリエンテーション
	5 日～12 日	新入職者（新人看護師）対象看護部オリエンテーション
	15 日	新人看護師ローテーション研修開始（～5 月 31 日）
5 月	11 日	福井県看護協会 2024 看護の日記念大会 参加
	14 日	看護の日記念行事看護展開催 主任会主催 「自分の健康のためにできること ～未来でより自分らしく暮らせるために～」
	31 日	新人看護師ローテーション研修終了
6 月	1 日	新人看護師 部署配属
	6 日～7 日	2024 年度日本看護協会通常総会、全国職能別交流集会 出席 看護部長 中村ひとみ

	26 日 26、27 日	小浜第二中学校 職業体験学習受入れ 5 名 小浜第二中学校 「赤ちゃん抱っこ体験」 参加
7 月	2 日 2 日 3 日 3 日～5 日 25 日 27 日 28 日 30 日	新人看護職員研修（福井県委託事業 看護協会研修） 新人看護職員 13 名参加 公立若狭高等看護学院 3 年生への国家試験アドバイス 新人看護師 5 名参加 敦賀市立看護大学 就活ガイダンス医療施設説明会 参加 就業体験事業（インターンシップ）の受入れ 福井県立若狭東高等学校 2 年生 5 名 福井県看護協会 2024 年度「看護の心」普及事業 「看護職への道」講演会講師 新人看護師 岩佐悠汰 福井県看護協会 看護基礎教育検討委員会主催 「未来（次世代）の看護師の育て方～臨床実習のあり方をともに考える～」 話題提供者 実習指導者 山口ちぐさ 敦賀市立看護大学オープンキャンパス 医療施設説明会 参加 小浜第二中学校 職場体験学習受入れ 10 名
8 月	1 日 7 日 7、13、19、27 日	2024 年度「看護の心」普及事業 一日看護体験 高校生 44 名受入れ 看護学生インターンシップ受入れ 2 名 福井県看護協会 2024 年度看護学生インターンシップ事業受入れ 8 名
9 月	6 日 7 日 11 日 13 日 20 日 28 日	福井県立若狭高等学校 進路相談会「若狭で働く方から学ぶ」2 名参加 第 40 回福井県看護学会 交流セッション発表会 参加 「COVID-19 看護業務効率化に繋がるコメディカル支援」 発表者 呉服かほり 田中友子 「特定行為研修修了者による気管カニューレ交換実施体制の構築」 ～患者・医師・看護師の負担軽減と特定行為研修修了者のやりがい支援をめざして～ 発表者 中村ひとみ 看護学生インターンシップ受入れ 1 名 福井県看護協会 2024 年度看護学生インターンシップ事業受入れ 1 名 新人看護職員研修（福井県委託事業 看護協会研修） 新人看護職員 18 名参加 敦賀市立看護大学オープンキャンパス 医療施設説明会 参加
10 月	18 日 22 日 22 日 26 日 28 日	福井県看護協会主催 専門・認定看護師出前講座 開催 講師：福井大学医学部附属病院 小児看護専門看護師 広瀬知美氏 小浜中学校「医療に携わる方々から学ぶ会」参加 公立若狭高等看護学院 3 年生看護を語ろう会 参加 師長主任合同研修「目標管理 中間評価」 小浜中学校 生命誕生講演会 赤ちゃん抱っこ体験 参加
11 月	24 日 29 日 29 日	小浜市老人クラブ連合会 フレイル予防講演会及び交流会 参加 公立若狭高等看護学院 1 年生看護を語ろう会 参加 福井県看護協会 看護管理能力育成研修（他施設シャドウ研修）2 名参加
12 月	10 日 17 日 20 日	上中中学校「医療の仕事に関する講演会」参加 福井県看護協会福井県ナースセンター 新人看護師等採用強化事業 「先輩看護師と看護学生の交流会」参加 福井県看護協会主催 専門・認定看護師出前講座 開催 講師：公立丹南病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 居関友也氏
1 月	16 日	小浜市立内外海小学校「命の学習」参加

	27 日	公立若狭高等看護学院 2 年生看護を語ろう会 参加
2 月	15 日	師長主任合同研修「目標管理 最終評価」
3 月	1 日	看護職就職説明会 in ふくい 2024 参加
	5 日	新人看護職員研修(福井県委託事業 看護協会研修) 新人看護師 18 名参加
	11 日	公立若狭高等看護学院看護学生対象 就職説明会開催 学生 20 名参加

クリニカルラダー別教育 研修実績

㊦=オンデマンド研修

レベル	日程	内容	担当
レベルⅠ	4 月 5 日	オリエンテーション 新人教育について	看護部
		杉田玄白記念公立小浜病院 看護職員に求められるもの 看護部長 中村ひとみ	看護部
		日常生活援助① 清潔援助・体位交換 等	プリセプター会
	4 月 8 日	医療安全 医療安全管理者 上原慶子	医療安全管理室
		接遇研修 接遇倫理委員長 植村成子	接遇倫理委員会
		日常生活援助② 食事介助・移乗 等	プリセプター会
	4 月 9 日	看護技術① 経管栄養・血糖測定	プリセプター会
		看護技術② 酸素吸入・吸引	プリセプター会
	4 月 10 日	電子カルテ操作 看護記録ガイドライン	記録委員会
		医療ガスについて	総務課
		看護倫理 看護者の倫理綱領 接遇倫理委員長 植村成子	接遇倫理委員
		院内感染予防対策 講義・演習 感染管理認定看護師 刀根正彦 森脇由希江	感染対策委員会
		ローテーション研修オリエンテーション	看護部
	4 月 11 日	看護技術③ インスリン注射・皮下注射・筋肉注射 糖尿病療養指導士 佐藤ひろみ	プリセプター会
		看護技術④ 検体の取り扱い・採血	プリセプター会
		吸入について	プリセプター会
	4 月 12 日	看護技術⑤ 心電図モニター・十二誘導心電図	プリセプター会
		看護技術⑥ 膀胱留置カテーテルの挿入と管理	プリセプター会
	4 月 27 日	看護技術⑦ 静脈注射 輸液ポンプ・シリンジポンプ研修	注射与薬委員会 プリセプター会
	5 月 9 日	㊦転倒・転落予防のためのアセスメントを知ろう	看護部
	6 月 20 日	3 ヶ月フォローアップ研修	プリセプター会
	7 月 4 日	入院時記録に関する研修	記録委員会
	7 月 11 日	㊦バイタルサインは何を示す？ ～患者の現在を見極め、未来を見通す～	看護部
	7 月 22 日	フィジカルアセスメント研修 呼吸・体温・意識障害	プリセプター会 専門認定看護師会
	7 月 23 日	フィジカルアセスメント研修 循環	

	8月8日	㊟患者が見える、ケアが伝わる看護記録	看護部
	8月16日	NANDA-I 看護診断	記録委員会
		モニターアラームの対応	看護部
	8月22日	シミュレーション研修	プリセプター会
	9月12日	㊟多重課題の波を乗り越なせ ～チームワークを円滑にする整理術・連携術～	看護部
	9月26日	多重課題・時間切迫シミュレーション研修	プリセプター会
	10月10日	㊟「わかる」が「できる」になる急変対応 ～新人看護師のあなたにできる第一歩～	看護部
	10月24日	6ヵ月フォローアップ研修	プリセプター会
	11月9日	ICLS 研修 救急総合診療科医師 クリティカルケア認定看護師	専門認定看護師会 プリセプター会
	11月18日	看護技術⑧ 輸血・異型研修	プリセプター会
	11月18日	㊟褥瘡ケアの「いろは」 ～予防・発見・悪化防止の3ステップ～	看護部
	11月28日	看護技術⑧ 輸血・異型研修	プリセプター会
	12月12日	㊟知っておきたい与薬の基本 ～安心・安全と効果的な治療のために～	看護部
	12月14日	ICLS 研修 救急総合診療科医師 クリティカルケア認定看護師	専門認定看護師会 プリセプター会
	1月23日	看護技術⑨ 人工呼吸器研修	プリセプター会
	2月13日	㊟基礎から学ぶ臨死期のケア ～人の最期に立ち会うということ～	看護部
	3月6日	最終研修	プリセプター会
レベルⅡ	6月18日	リーダー業務研修Ⅰ	教育委員会
	6月25日	チームメンバー研修Ⅰ	教育委員会
	7月18日	アナフィラキシーショック研修	注射与薬委員会
	8月19日	接遇研修(患者対応・満足)	接遇倫理委員会
	8月30日	看護研究における倫理的配慮	接遇倫理委員会
	9月3日	薬物療法研修 「抗がん剤曝露対策 麻薬・向精神薬について」	注射与薬委員会
	9月19日	倫理的姿勢について	接遇倫理委員会
	9月27日	KYT 研修(基礎編)	安全対策委員会
	10月3日	事故発生時/急変時の看護記録	記録委員会
	10月29日	KYT 研修(実践編)	安全対策委員会
	11月12日 26日	私の看護観 発表	教育委員会
	12月6日	経路別予防策・針刺し事故防止策	感染対策委員会
	2月18日	チームメンバー研修Ⅱ	教育委員会
	2月21日	リーダー業務研修Ⅱ	教育委員会
レベルⅢ	4月19日	次期プリセプター研修	教育委員会
	7月26日	リーダーシップ研修Ⅰ	教育委員会
	8月23日	プリセプター研修Ⅰ	教育委員会
	10月31日	キャリアアップ研修	教育委員会
	10月15日	時系列分析 RCA 研修	安全対策委員会
	10月17日	倫理原則について	接遇倫理委員

	11月14日	災害発生時の対応	災害対策委員会
	12月9日	看護実践報告会 ・「病状の受け入れができない終末期患者・家族との関わり」 本館7階 芝井琴音 ・「癌性疼痛に対するコントロールとアプローチ方法」 本館7階 高倉宏次郎 ・「不安をもつ家族との関わりの中で看護師としてできること」 西館3階 鯖谷菜月 ・「フィジカルアセスメントの必要性」 救命救急センター1階 塚原里奈 ・「高齢で急変リスクのある患者に対する看護」 救命救急センター1階 畑中里菜 ・「集中治療領域における精神的看護ケア」 救命救急センター2階 久保佑日 ・「術前訪問実施前・実施後の情報収集や関わり方についての検討」 手術センター 吉村有加	教育委員会
	1月24日	リーダーシップ研修Ⅱ 報告会 ・「シリンジポンプを使用した点滴ルートに三方活栓・クランプ付き延長チューブを使用する意義について」 救命救急センター2階 吉村春 ・「ベッドサイドの環境を見直す～ピクトグラムから安全な看護の提供に繋げる～」 本館4階 梶川詩乃 ・「日常生活ケアの習慣化に向けての取り組み」 東館2階 河野亜衣奈 ・「精神科の長期入院に対して退院支援シート活用と今後の課題」 東館2階 上北圭 ・「精神疾患のある患者の清潔面を促すには～スタッフの意識の変容～」 東館3階 北村梓	教育委員会
	1月30日	プリセプター研修Ⅱ	教育委員会
レベルⅣ	9月17日	ナラティブ発表会	教育委員会
	10月11日	指導者対象 輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方	注射与薬委員会
	11月1日	リーダーシップ研修Ⅲ	教育委員会
	3月3日	目標管理研修	教育委員会
レベルⅤ-1	10月26日	目標管理「中間評価」	看護部
	11月1日	ナラティブ発表会 手術センター 藤原慶子 救命救急センター2階 杉谷佑里	主任会
	1月10日	師長代理研修 報告会 本館5階 河原由典 本館8階 田中裕美子	主任会
	2月15日	目標管理「最終研修」	看護部
	2月7日、 3月7日	部署 PDCA 成果発表	主任会
	4月17日	JNA オンデマンド「2024 年度診療報酬改定の概要」 ～看護関連改訂項目を中心に～	看護師長会

		厚生労働省保険局医事課 課長補佐 飯村祥子氏	
	6月19日	医療安全	医療安全管理室
	7月17日	㊤「日常のケアを見つめ直す看護倫理」 京都大学大学院 竹ノ内沙弥香 氏	看護師長会
	8月22日	看護学院合同 マネジメントリフレクション	看護部
	9月18日	JNA オンデマンド 「人材育成や教育支援を行うものを対象とした研修」生涯学習に必要な基礎知識 成人教育に必要な知識 聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授 小山田京子 氏	看護師長会
	10月26日	目標管理「中間評価」	看護部
	11月20日	JNA オンデマンド 「人材育成や教育支援を行うものを対象とした研修」組織における生涯学習支援の実際 教育計画立案と研修による支援の実際 北里大学病院 看護研修・教育センター長 谷口陽子 氏	看護師長会
	12月18日	看護倫理	
	1月15日	㊤「今こそ押さえない医療安全・危機管理 ～看護管理者として組織を守り、人を育てる」	
	2月15日	目標管理「最終評価」	看護部
	2月19日	医療安全	看護師長会
看護補助員	5月31日 6月 6日	看護補助者研修	教育委員会
	11月8日、 12日	感染対策(嘔吐物処理の強化研修)	感染対策委員会
	1月16日、 21日	接遇倫理研修	接遇倫理委員会
外来診療 補助員	12月5日	感染対策研修 「ノロウイルスの PPE 装着と処理 方法」	感染対策委員会
	1月24日	接遇研修	接遇倫理委員会
全職員対象	5月～6月	看護補助体制充実加算算定のための研修	看護部
	9月25日	認知症看護研修 「せん妄のアセスメントによる抑制の解除」 講師 認知症看護認定看護師 徳庄徳嗣	専門認定看護師会 認知症サポート委員会
	9月～10月	’24「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内 指導者研修	看護部
	10月25日	ナラティブ発表会 発表者 救命救急センター1階 塚原里奈 救命救急センター2階 近藤恵美 本館6階 主任看護師 高瀬由紀子 東館2階 看護師長 清水佐江子	主任会
	2月6日	身近な倫理検討で倫理感受性を高めよう	接遇倫理委員会
	2月13日	看護研究発表会	教育委員会

	・「救急外来におけるコンタミネーション減少への取り組み～アルコール消毒と皮膚洗浄後のアルコール消毒との比較」 救命救急センター1階 塚原里奈 ・「開腹・腹腔鏡下における消化管切除における術後の離床～術前パンフレットの見直しによる看護師の早期離床に対する意識調査～」 本館5階 秋長健太 ・「病棟看護師の急変時対応に対する効果的な勉強会の検討～不安軽減への取り組み～」 本館7階 千賀大地 ・「体幹抑制早期解除によるADL確立への効果～BPSDにも焦点をあてて～」 西館3階 鯖谷菜月	
--	--	--

院外実習生受け入れ

学校・施設名	実習内容
公立若狭高等看護学院	基礎看護学実習、基礎初期実習 領域別看護学実習、総合実習
敦賀市立看護大学（助産学専攻科）	助産学実習
敦賀市立看護大学（看護学科）	救急看護学実習

病院見学・インターンシップ受け入れ

	学 校 等	人 数
病 院 見 学	人間環境大学 看護学部 看護学科	1名
	看護師	3名
	看護補助員	1名
	外来診療補助員	1名
インターンシップ	公立若狭高等看護学院	8名
	福井県立大学	1名
	福井大学医学部看護学科	2名
	福井医療大学	1名
	金沢大学	1名
	石川県立大学	1名
	洛和会京都看護学校	1名

研修会講師派遣・地域活動への派遣

主催	内容	派遣者
福井県看護協会	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル統合演習支援	看護部長 中村ひとみ
	医療看護安全委員会 新人看護職員研修	医療安全管理者 上原慶子
	医療安全管理者養成研修	
	福井県看護職員認知症対応力向上 研修	認知症看護認定看護師 徳庄徳嗣
	病院以外の看護師等認知症対応力向上 研修	
	敦賀市訪問看護ステーションハピナス	慢性心不全看護認定看護師 吉田真紀
	救急看護委員会研修 フィジカル アセスメントシリーズ(循環)	クリティカルケア認定看護師 大森史恵
	訪問看護ステーション わかさ	精神科認定看護師 國友博昭
	敦賀市立社会福祉協議会 訪問看護 ステーション「あいあい」	
	ほっとリハビリ訪問看護ステーション	摂食嚥下障害看護認定看護師 宮谷綾
	ふらむはあと訪問看護・リハビリ ねっと小浜	災害看護専門看護師 河原千都
	つるが生協 在宅総合センター 和	
	災害支援ナース養成研修	
	企画指導者研修	
	災害支援ナース養成研修	
	嶺南地区委員会研修会	
認定看護師出前講座	訪問看護ステーション グッとサポート	精神科認定看護師 國友博昭
	小浜市老人クラブ連合会 フレイル予防活動支援事業	
	小浜市高齢・障がい者元気支援課 地域自殺対策強化事業 「ゲートキーパー養成研修」	
	特別養護老人ホーム 松寿苑	皮膚・排泄ケア認定看護師 的場悦子
	小浜美郷小学校 児童対象心肺蘇生について	クリティカルケア認定看護師 大森史恵
	若狭町立鳥羽小学校 AED 救命講習(PUSH コース)	
	小浜市防災士の会 防災士に向けた 研修	災害看護専門看護師 河原千都
	ビーすふるわかさ 防災研修	
	ディサービスセンター パレア若狭	

	嶺南振興局若狭健康福祉センター 地域保健課 難病対策地域研修会	
福井大学医学系部門	2024 年度若狭町瓜生地区における 拡大検診への参加	災害看護専門看護師 河原千都
福井県健康福祉部健康医療 局地域医療課	2024 年度福井県災害医療従事者能力 向上研修	
福井大学大学院医学系研究 附属・地域医療高度化教育 研究センター 看護キャリア アップ部門	2024 年度認定看護師教育課程 感染管理分野非常勤講師	感染管理認定看護師 森脇由希江
日本救急医学会中部地方会 学術集会	第 27 回日本救急医学会中部地方会 学術集会 座長	クリティカルケア認定看護師 千秋美佳
福井県 CAPD ナースセミナー	第 30 回福井県 CAPD ナースセミナー 座長	血液浄化センター看護師長 國友ひろみ
小浜助産師会	うぶごえ活動 授乳育児相談 産後ケア ベビーマッサージ 離乳食キッチン プレパパ&プレママ講座	齋藤美紗子 藤田絵美 石橋春奈 鈴木幸子 北村桂子 桂田理津子 芝田純子 神田幸代
若狭ロータリークラブ後援 小浜市立小浜第二中学校	2 年生と交流会 「ふるさと仕事塾」	片山 花音 今村 夏生 北村眞由美
若狭ロータリークラブ後援 おおい町立名田庄中学校	1・2 年生と交流会 「医療に関する職業を学ぶ会」	小堂侑楽 渡辺優奈 田口潤樹 北村眞由美
若狭ロータリークラブ後援 小浜市立小浜中学校	2 年生との交流会 「医療に携わる人々から学ぶ」	小堂侑楽 渡辺優奈 松山美空 北村眞由美
若狭ロータリークラブ後援 若狭町立上中中学校	2・3 年生との交流会 「医療の仕事に関する講演会」	武田 空 藤田 絵美 北村 眞由美
小浜市立小浜第二中学校	赤ちゃん抱っこ体験	桂田理津子 齋藤美紗子 北村桂子 鈴木幸子
小浜市立小浜中学校	生命誕生講演会 赤ちゃん抱っこ体験	石橋春奈
・ 公立若狭高等看護学院への非常勤講師派遣 ・ 地域への救護班派遣 多数 ・ 地域活動、施設ラウンド、会議への参加・協力 多数 ・ 防災訓練、DMAT 訓練等、随時派遣		

資格取得等

資格	氏名
2024 年度福井県保健師助産師看護師実習指導者講習会	内角久美子 前田春香
2024 年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	清水佐江子
2024 年度認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	岡部直美 小林みゆき
2024 年度医療安全管理者養成研修	宮腰由美子
腎臓病療養指導士	高田順子
腎代替療法専門指導士	高田順子
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 －「認知症ケア加算 2 および 3」該当研修－	仲野優哉 畑中薫 梶川詩乃 向嶋浩樹 大谷菜々美 片山博和 千賀大地 中嶋容子
福井県看護職員認知症対応力向上研修 －「認知症ケア加算 2 および 3」該当研修－ (福井県委託事業)	森口祐次
看護管理能力育成研修(他施設シャドウ研修)	宮川朋子 藤本祐子
‘ 24「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	大橋美幸 川渕久見子 西川幸子 飯田有香 竹村洋恵 宮谷綾 地村美希 岩橋綾
看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 2024 年度改訂版看護補助体制充実加算対応	武岡治代 高本祐三恵 新原徳芳 小林みゆき 森脇由希江
看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	池野みゆき 河原由典
外来における在宅療養支援能力向上のための研修	赤崎亜紀 三久保幸子
がん薬物療法看護認定看護師教育 B 課程	小島銀也
特定行為研修 3 区分 5 行為 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連 動脈血液ガス分析関連	田中友子
福井県緩和ケア研修会	齋藤洋子 堂前貴美
福井県糖尿病療養指導士	杉山千恵子
2024 年度日本精神科看護協会 看護倫理指導者 養成研修会	中村桂子 内角久美子 前田敏江 近藤恵美 八木祥子
2024 年度実地指導者研修	近藤浩文 生田日佳理
2024 年度教育担当者研修	林歩美
2024 年度認知症ケアリーダー研修	西野雅志
2024 年度看護師救急医療業務実地修練	塚原里奈
2024 年度福井県災害医療本部研修	植村成子

院外看護研究発表会

演題名	発表者	大会	会場	日付
集中治療室における早期リハビリテーション導入による結果の検証 ～加算取得ゼロからの取り組み～	近藤恵美	第 20 回日本クリティカルケア看護学会 学術集会	沖縄コンベンションセンター	2024.6.22
精神科病棟での認知症患者へのカンファォータブル・ケアに関する看護師の意識の変化	仲野優哉	第 49 回日本精神科看護学術集会	熊本城ホール	2024.6.29
災害時要配慮者の健康を守る水害用アクションプランの開発に向けた調査(第一報)障がい児をもつ母親へのインタビュー調査より	河原千都	日本災害看護学会第26 回年次大会	茨木市文化・子育て複合施設おにクル	2024.9.1
乳幼児期・学童期の子を持つ女性訪問看護師の仕事に対するやりがいと子育てへのサポート状況との関連	富井節	日本看護研究学会 第 38 回近畿・北陸地方会学術集会	甲南女子大学	2025.3.8

2. 院内委員会 及び 医療チームの 活 動 状 況

倫理委員会

委員長 診療部長

委員構成 副院長、統括診療部長、診療部副部長、医療技術部長、薬剤部長、看護部長、組合事務局長、事務部長、外部委員 2 名（弁護士・一般）、病院長（アドバイザー）
事務局（事務部）

《協議事項・活動状況等》

審査

申請日	申請者	計画名
2024.4.26	外科 林 泰生	切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル＋ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第Ⅲ相試験（研究代表施設：愛知県がんセンター）
2024.8.8	脳神経外科 萩原 峻太	脳室腹腔シャント術後感染と胃瘻造設術との関連
2024.9.2	外科 平山 楓	80 歳以上の高齢鼠径ヘルニア患者に対する至適手術治療の検討（京都大学外科関連多機関共同コホート研究）
2024.10.8	泌尿器科 高原 典子	高齢者尿路感染症の特徴
2024.10.8	泌尿器科 高原 典子	高齢者尿路結石の特徴
2024.12.16	病理診断科 山口 愛奈	病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築
2025.2.5	看護部 宮川 朋子	妊産婦自身が欲する情報とその効果に関する研究
2025.2.6	外科 林 泰生	冠動脈ステント留置後の外科手術周術期におけるアスピリン継続の有用性を検証する多施設ランダム化比較試験

医療安全管理委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、医療安全管理室長（統括診療部長）、医療安全管理者、薬剤部長（医薬品安全管理責任者）、医療技術部長（医療機器安全管理責任者）
看護部長、事務部長、看護部副部長（医療安全担当）、老健施設長、老健総看護師長、総務課員

《協議事項・活動状況等》

（協議事項）

- ・医療安全管理指針の見直し ・インシデント・アクシデント報告への対応等
- ・医療安全研修会の企画・実施・報告 ・各種マニュアルおよび書式等の見直し
- ・ご意見箱の投書内容とその対応の報告 ・その他

(活動内容)

- 1) 毎月第2月曜日 (定例) 委員会
- 2) 毎週木曜日 (定例) 小委員会
- 3) 毎月第4木曜日 小委員会による院内ラウンド
- 4) 研修会

(1) 全職員対象医療安全研修会

①令和6年9月13日 テーマ「患者誤認：前半」

院内WEB配信 9月24日～10月12日 参加率：99.4%

②令和7年1月24日 テーマ「患者誤認：後半」

医薬品安全管理研修：テーマ「医薬品に関する医療安全情報」

院内WEB配信 2月6日～2月28日 参加率：98%

(2) 医療放射線管理研修会：テーマ「診療放射線安全使用のために」

院内WEB配信 11月6日～11月22日 参加率：90%

(3) 医療機器安全管理研修会：テーマ「MRI事故を防ぐために」

院内WEB配信 3月11日～3月30日 参加率：45.2%

(4) 気切チューブ関連 院内認定研修 6月14日

参加者 医師、研修医、看護師 計56名 院内認定者41名

(5) 救急対応BLS・AED研修（コメディカル対象）計4回開催 参加者72名

(6) 院内暴力対応研修 小浜警察署警察官の講義と演習 9月24日 参加者80人

(7) 5S活動報告会 12月13日

院内WEB配信 1月6日～1月24日 参加率：68%

5) 医療安全情報の発信

6) 医療安全地域連携加算に係る連携

加算1 市立敦賀病院 令和6年12月20日 訪問審査

令和7年1月28日 受審

加算2 林病院 令和6年11月27日 訪問審査

〈医療安全研修会〉



〈BLS・AED研修会〉



〈院内暴力対応研修会〉



〈5S 活動報告会表彰式〉



臓器移植普及推進検討委員会

委員長 副院長

委員構成 脳外科医長、臨床検査技師2名、救命救急センター看護師長、救命救急センター主任看護師、血液浄化センター主任看護師、手術センター看護師、総務課職員

〈協議事項・活動状況等〉

(協議事項)

- ・脳死下臓器提供マニュアルの見直し
- ・院内職員へ周知するための啓発活動
- ・シミュレーション実施、実施に向けての研修等

(活動状況)

- ・委員会、イベント等

令和6年4月19日：2024年度活動計画打ち合わせ、第1回委員会

令和6年5月14日：看護の日イベント（臓器移植ブース設置）※画像データあり

令和6年5月24日：第2回委員会

令和6年6月28日：第3回委員会

令和6年7月26日：第4回委員会

令和6年8月30日：第5回委員会

令和6年9月20日：第6回委員会

【10/1～10/31 臓器移植普及推進月間】

→ポスター掲示、リーフレット配布、

電子カルテ内グリーンリボン表示等

令和6年10月25日：第7回委員会

令和6年11月29日：第8回委員会

令和6年12月27日：第9回委員会



〈看護の日 臓器移植ブース〉

令和 7 年 01 月 31 日：第 10 回委員会

・研修会・協議会等

令和 6 年 6 月 21 日：第 1 回福井県院内コーディネーター研修会

令和 6 年 08 月 08 日：第 1 回福井県臓器移植普及推進連絡協議会

第 2 回福井県院内コーディネーター研修会

令和 6 年 9 月 20 日：シミュレーション動画研修

令和 6 年 9 月 27 日：第 3 回福井県院内臓器コーディネーター研修会

令和 6 年 10 月 8 日：委員会主催研修会（院内職員対象）

令和 6 年 10 月 25 日：シミュレーション動画研修

令和 6 年 11 月 15 日：第 4 回福井県院内臓器移植コーディネーター研修会

令和 6 年 12 月 27 日：シミュレーション動画研修

令和 7 年 02 月 10 日：第 2 回福井県臓器移植普及推進連絡協議会

第 5 回福井県院内臓器移植コーディネーター研修会

防災対策委員会

委員長 病院長

委員構成 副院長、老健施設長、統括診療部長、医療技術部長、薬剤部長、
救命救急センター長、救急総合診療科医長、看護部長、副学院長、
老健総師長、事務部長、総務課長補佐、総務課係長

《協議事項・活動状況等》

開催日：9 月 12 日、3 月 26 日

- (1) 令和 6 年度福井県総合防災訓練について
- (2) 令和 7 年度中部ブロック DMAT 実動訓練について
災害対応マニュアル、アクションカードの改訂について
災害時の連絡網（LINE グループ）作成について
DMAT の所属について

医療ガス安全管理委員会

委員長 手術センター長

委員構成 薬剤部長、医療技術部長、看護部長、総務課長、
総務課長補佐

《協議事項、活動内容等》

開催日：令和 7 年 3 月 31 日

- (1) 令和 6 年度医療ガス設備保守点検報告について
- (2) 令和 6 年度医療ガス安全管理講習会の報告について
- (3) 令和 7 年度医療ガス安全管理講習会の開催予定（4 月 14 日）



放射線安全委員会

委員長 画像診断センター長

委員構成 放射線取扱主任者、医療技術部長、看護部長、主任診療放射線技師、総務課員

《協議事項・活動状況等》

6月30日：原子力規制委員会への令和5年度放射線管理状況報告書の提出

8月7日：原子力規制委員会への許可使用に係る氏名等の変更届の提出

院内感染対策委員会 (ICT)

委員長 病院長

委員構成 副院長、感染防止対策室長 (ICD)、統括診療部長、診療部長、診療部副部長、老健施設長、主任医長、医療技術部長、薬剤部長、臨床検査科長、臨床検査技師、薬剤師、看護部長、看護部副部長、感染管理専従看護師、老健看護師、事務部長、事務部次長、事務部課 (室長)

《協議事項・院内活動状況等》

- ・ 毎月第3木曜日 (定例) 委員会
- ・ ICT 環境ラウンド 1回/週
- ・ 抗菌薬適正使用支援 (AST) カンファレンス 1回/毎週
- ・ 厚生労働省院内感染対策サーベイランス (JANIS)
- ・ 感染対策連携共通プラットフォーム (J-SIPHE) サーベイランス
- ・ 日本環境感染学会サーベイランス (JHAIS)
- ・ 感染対策向上加算に係る院内感染対策研修会 (年2回)
- ・ 感染対策向上加算1に係る相互チェック (福井総合病院)
- ・ 外来感染対策向上加算に係る外来医療機関との連携会議 (年2回)
- ・ 院内感染対策マニュアルの整備・改訂について
- ・ 薬剤耐性菌、その他感染症の発生状況について
- ・ 細菌検査室報告について
- ・ 抗菌薬使用状況について
- ・ ICT (インフェクション・コントロールチーム) 活動について
- ・ ICT ニュースレター発行 (毎月)
- ・ アウトブレイク対応
- ・ 新人職員等オリエンテーションの実施

《院内感染対策講演会の開催》

1回目

開催日：令和6年8月23日

演題：『環境面からみた手指衛生の重要性』

2回目

開催日：令和6年9月27日

演 題 : 『抗菌薬の適正使用について』

3 回目

開催日 : 令和 6 年 10 月 22 日

演 題 : 『清拭タオルが由来と考えられた *Bacillus cereus* 院内感染への対応』

4 回目

開催日 : 令和 6 年 11 月 19 日

演 題 : 『新型コロナワクチンの基本』

5 回目

開催日 : 令和 6 年 12 月 11 日

演 題 : 『膀胱留置カテーテルの感染対策について』

《感染管理認定看護師出前講座》

・ 令和 6 年 6 月 6 日～『手指衛生について』 本馬医院

・ 令和 6 年 11 月 13 日～『標準予防策について』

ふらむはあと訪問看護リハビリステーション

・ 令和 7 年 2 月 26 日～『感染経路対策について・个人防护具着脱の注意点』

いきいき訪問看護リハビリステーション

《院外活動状況等》

【会議・派遣】

・ 感染対策向上加算 1 に係る相互チェック会議（勝山総合病院）

・ 感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス（若狭高浜病院／年 4 回）

・ 指導強化加算に係る医療機関に対する施設ラウンド

（にしお内科クリニック、木村医院、本馬医院、若狭高浜病院）

・ 外来感染対策向上加算に係る連携会議（年 2 回）および新興再興感染症の発生に備えた訓練

・ 福井県看護協会・感染管理地域支援委員会（年 6 回）

・ 福井県看護協会・感染管理地リーダー育成研修（企画運営／年 6 回）

・ 福井県感染制御ネットワーク（FICNet）会議

・ 福井県 ICN 交流会（Web 会議）

・ 感染症予防研修会（若狭健康福祉センター）講師

安全衛生委員会

委 員 長 病院長（衛生管理者）

委員構成 放射線科主任医長（産業医）、精神神経科主任医長（衛生管理者）、薬剤部長（衛生管理者）、老健施設長（衛生管理者）、医療技術部長、看護部長、事務部長、職

員代表 8 名（事務局含）

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎月第 4 木曜日

- ・ 定期健康診断（6～7 月）
- ・ 定期健康診断の結果の分析
- ・ 特定業務従事者健康診断（2 月）
- ・ 特定業務従事者健康診断の分析
- ・ ストレスチェック（9 月）
- ・ インフルエンザ、コロナワクチン予防接種（11 月）
- ・ B 型肝炎予防接種（職員対象）
- ・ 化学物質作業環境測定（9 月、2 月）
- ・ 職場巡視・報告（4、6、9 月実施）

情報システム委員会

委員長 診療部長

委員構成 副院長、医療技術部長、薬剤師、臨床検査技師、看護部副部長、看護師長（2 名）、
総務課長、医療サービス課長補佐（2 名）、経営企画課員、医療サービス課員（2 名）

《協議事項・活動状況等》

開催日：5 月 14 日、7 月 11 日、9 月 12 日、11 月 14 日、1 月 9 日、3 月 13 日

- ・ 令和 6 年度診療報酬改定について
- ・ 電子カルテレベルアップについて
- ・ 電子処方箋について
- ・ 救急時医療情報閲覧について
- ・ 健康診断・診療情報等の参照について
- ・ メディカルネットへの公開について
- ・ ICT-BCP 策定と訓練について
- ・ セキュリティ研修について

薬事委員会

委員長 診療部長

構成委員 病院長（アドバイザー）、副院長、主任医長、薬剤部長、看護部副部長、
経営企画課長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎月第 3 木曜日 16 時～

4 月 17 日、5 月 16 日、6 月 20 日、7 月 24 日、8 月 29 日、9 月 19 日

10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日

- ・新規採用薬剤、削除薬剤審議
- ・一般名処方医薬品追加報告
- ・一般名処方加算件数報告
- ・後発医薬品使用割合報告
- ・廃棄薬剤報告
- ・委員会規程改定

診療録管理委員会

委員長 主任医長

委員構成 病院長、副院長、統括診療部長、診療部長4名、診療副部長、医療技術部長、看護副部長、看護師長2名、医療サービス課員2名

《協議事項・活動状況等》

開催日：3月12日

- ・退院サマリについて
- ・診療録チェックについて

DPC（診療内容検討）委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、看護師長、薬剤部長、診療放射線科長、臨床検査科長、リハビリテーション科長、医療サービス課職員、経営強化推進室職員

《協議事項・活動状況等》

開催日：4月24日、5月22日、6月26日、7月24日、8月28日、9月18日

10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日

- ・DPCの適切なコーディングについて
- ・診療報酬査定に関する事について
- ・全職種の職員を対象とした保険診療に関する講習 開催

第1回 令和7年1月8日～28日「保険診療のルール」※WEB開催

第2回 令和7年2月17日～3月14日「最近の査定の傾向について」※WEB開催

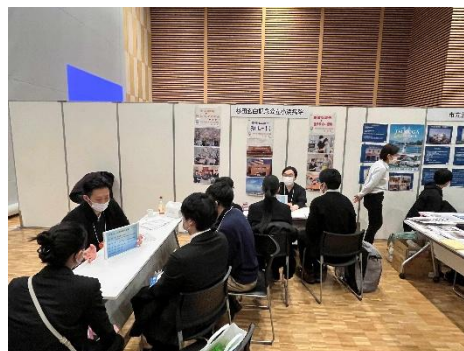
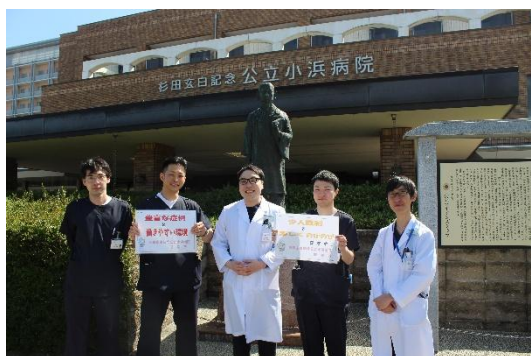
院内研修管理委員会（医師臨床研修）

委員長 施設長（プログラム責任者）

委員構成 病院長、副院長、統括診療部長、診療部長、診療部副部長、救命救急センター長、事務部長、看護部副部長、総務課課長補佐

《協議事項・活動状況等》

- 4月 1日 新人オリエンテーション、電子カルテ講習、保険診療講習、院内感染対策講習、医療安全講習、個人情報保護講習 等
- 4月 2-3日 外部委託（株インソース）による新卒採用研修
- 4月 4日 BLS・AED講習会 等
- 4月 5日 薬剤部、画像診断センター、臨床検査科 研修
- 4月 8日 福井県赤十字血液センター オリエンテーション(2年目研修医対象)
- 4月 17日 第1回 院内研修管理委員会「研修プログラムについて」 他
- 4月 25日 静脈注射講習会（研修医、新人看護師）
- 4月 29日 マイナビRESIDENT FESTIVAL 大阪
- 5月 15日 第2回 院内研修管理委員会「募集要項および試験日について」 他
- 5月 26日 レジナビフェア 2024 大阪
- 6月 11日 レジナビフェア オンライン 2024
- 6月 16日 レジナビフェア 2024 東京
- 6月 19日 第3回 院内研修管理委員会「研修医施設・プログラム評価について」 他
- 6月 29日 福井県専門研修プログラム合同説明会
- 7月 17日 第4回 院内研修管理委員会「採用試験・応募状況について」 他
- 8月 28日 第5回 院内研修管理委員会「マッチング登録について」 他
- 9月 18日 第6回 院内研修管理委員会「基本的臨床能力評価試験について」 他
- 10月 16日 第7回 院内研修管理委員会「2年目研修医の進路について」 他
- 11月 13日 第8回 院内研修管理委員会「マッチング結果について」 他
- 11月 16日 福井レジデントキャンプ 2024
- 11月 19-20日 福井県臨床研修病院見学バスツアー
- 12月 25日 第9回 院内研修管理委員会「令和7年合同説明会の参加について」 他
- 1月 15日 第10回 院内研修管理委員会「臨床実習の受入れについて」 他
- 1月 20日 基本的臨床能力評価試験
- 2月 9日 福井県臨床研修病院合同説明会
- 2月 19日 第11回 院内研修管理委員会「2年目研修医の評価について」 他
- 3月 12日 第12回 院内研修管理委員会「令和6年度実績評価・令和7年度活動目標について」 他
- 3月 19日 研修管理委員会



地域医療連携委員会

委員長 統括診療部長
委員構成 老健施設長、医療技術部長、主任診療放射線技師、主任臨床検査技師、主任理学療法士、看護部副部長、病棟看護師長、外来看護師長、地域連携室長、事務職員 2 名

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・福井脳卒中連携協議会参加
- ・多職種連携研修会参加
- ・近隣病院への訪問、情報交換

接遇委員会

委員長 看護部副部長
委員構成 医師 3 名、薬剤師、臨床検査技師、学院専任教員、言語療法士、放射線技師、栄養士、看護部職員 18 名、事務部職員他 5 名
目的 公立小浜病院全職員の医療人としてのモラルの高揚と医療サービス内容の充実を図る。
業務 (1) 職員接遇の向上に関する事
(2) 病院接遇の調査に関する事
(3) 接遇教育に関する事
(4) 機関紙「せっちゃん」・接遇に関するポスターの発行
(5) その他必要な事項
開催状況 毎月第 3 火曜日に定例開催、またその他必要時に開催
開催日 5 月 21 日・6 月 18 日・7 月 16 日・8 月 20 日・9 月 17 日・10 月 15 日
11 月 19 日・12 月 17 日・1 月 21 日・2 月 18 日・3 月 18 日

《協議事項・活動状況等》

年間スローガン 磨きましょう！信頼を築く接遇の「心」と「形」

年間テーマ 5・6 月「挨拶」7・8 月「笑顔」9・10 月「言葉遣い」
11・12 月「態度」1・2 月「身だしなみ」

職員接遇の向上に関する事

- ・看護部各部署による身だしなみチェック
- ・部署別研修

病院接遇の調査に関する事

- ・入院満足度調査（令和 6 年 9 月 17 日から 11 日間）
- ・外来満足度調査（令和 6 年 9 月 24 日から 3 日間）

接遇教育に関する事

- ・部門別研修

部門 外来診療補助員・医師事務作業補助者・事務職員 計 23 名

日時 令和 7 年 1 月 24 日（金）15 時～16 時

内容 事例をもとにペアで話し合い・発表

- ・全職員研修

動画視聴研修

機関紙「接遇せつちゃん」の発行

令和 6 年 9 月、令和 7 年 2 月、令和 7 年 3 月 年 3 回発行

広報委員会

委員長 診療部長

委員構成 主任医長、看護部副部長、薬剤師、主任診療放射線技師、主任臨床検査技師、言語聴覚士、栄養士、組合事務局課長、地域連携室長、事務職員

《協議事項・活動状況等》

開催日：5 月 22 日、9 月 25 日、2 月 21 日

- ・病院年報 22 号発行
- ・院外広報誌「いきいき」発行（6 月、10 月、3 月）
- ・構成市町広報誌への寄稿

緩和医療検討委員会

委員長 診療部長（外科）

委員構成 医師 5 名（精神科、泌尿器科、麻酔科、外科、内科）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床検査技師、看護部職員 10 名、臨床心理士、地域連携室員、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

- ・開催状況 4 月 22 日、5 月 27 日、6 月 24 日、7 月 22 日、8 月 26 日、9 月 30 日、10 月 28 日、11 月 25 日、12 月 23 日、1 月 27 日、2 月 17 日、3 月 24 日
- ・緩和ケアラウンド（週 1 回（月）16 時～開催、病棟回診）
- ・勉強会開催（7 月 29 日、9 月 30 日、12 月 16 日、3 月 10 日）

救命救急センター運営委員会

委員長 救命救急センター長

委員構成 病院長、外科主任医長、救急総合診療科主任医長、内科医長、脳神経外科医長、看護部副部長、救命救急センター1 階看護師長、救命救急センター2 階看護師長、救命救急センター2 階主任看護師、医療サービス課員、経営強化推進室員、

《協議事項・活動内容等》

開催日：隔月第4月曜日

- ・救命救急センターの利用状況について
- ・令和6年度循環器内科の対応について
- ・令和6年4月以降の血栓回収療法運用について
- ・MRI装置交換期間中の脳卒中对応について
- ・救命救急センター2階における一般病棟への転倒許可マークの変更について
- ・救急総合診療科での被留置者の診療の流れについて
- ・人工呼吸器の点検について
- ・救命救急センター2階の面会について
- ・運動麻痺評価スケールについて
- ・救命救急センター2階入院料について
- ・MRI対応人工呼吸器（パラパック）の更新について
- ・ジャクソンリースの導入について
- ・転院搬送連絡票および患者引継書について
- ・救命救急センターの充実段階評価について

診療材料検討委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、医療技術部長、看護部副部長、経営企画課長
医療サービス課長補佐、経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

- ・10月18日：診療材料新規採用申請について
既採用品の価格交渉結果について
診療材料値上げに対する切替対応についての報告

医療機器選定委員会

委員長 精神科主任医長

委員構成 病院長、副院長、統括診療部長、看護部長、医療技術部長、臨床工学科長、
事務部長、経営企画課長、経営強化推進室長、経営企画課員

《協議事項・活動内容等》

開催日：令和6年9月5日、令和7年1月7日、令和7年1月30日

- ・令和6年度医療機器備品等購入におけるヒアリング
- ・令和7年度予算計上機器の選定について

輸血療法委員会

委員長 産婦人科診療部長

委員構成 内科主任医長、看護師長 2 名、主任看護師 2 名、薬剤師、検査技師、
医療サービス課員

《協議事項・活動内容等》

開催日：令和 6 年 5 月 29 日、令和 6 年 7 月 22 日、令和 6 年 9 月 17 日、
令和 6 年 11 月 28 日、令和 7 年 1 月 21 日、令和 7 年 3 月 19 日

- ・適正使用量の報告
- ・血液製剤の廃棄量について
- ・輸血マニュアルについて
- ・輸血時のインシデントについて
- ・採血管の変更について
- ・血液センターへの副作用報告
- ・血液センターからの輸血情報
- ・症例検討

化学療法室運営委員会

委員長 診療部長（外科）

構成委員 医師 6 名、薬剤部長、薬剤師、看護師長 2 名、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：4 月 24 日、7 月 24 日、10 月 23 日、1 月 22 日

- ・レジメンの整理、審査、承認
- ・化学療法調整件数、外来化学療法加算算定件数の確認

クリニカルパス推進委員会

委員長 診療部長

委員構成 医師（整形外科、小児科、泌尿器科、歯科口腔外科、外科）、
看護部 8 名、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、臨床検査技師、
栄養士、医療サービス課員、経営強化推進室員

《協議事項・活動状況等》

開催日：5 月 29 日、7 月 29 日、3 月 14 日

- ・クリニカルパスの見直し変更について
（検査内容、その他追加項目等について）
- ・新規クリニカルパス運用について

手術センター運営委員会

委員長 手術センター長

構成委員 副院長、診療部長、整形外科主任医長、内科医長、脳神経外科医長、耳鼻咽喉科医長、眼科医員、看護部長、手術センター看護師長、救命救急 2 階看護師長、本館 5 階看護師長、手術センター主任看護師、経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・手術センター運営に関することについて

画像診断運営委員会

委員長 画像診断センター長

構成委員 副院長、放射線科主任医長、診療部副部長、医療技術部長、主任診療放射線技師 4 名、看護部副部長、救命救急 1 階看護師長、経営企画課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・画像診断センターの運営に関することについて

臨床検査適正化委員会

委員長 臨床検査担当医

構成委員 健診センター副センター長、医療技術部長、臨床検査科長、臨床検査技師 2 名、看護師長、主任看護師、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：3 月 15 日

- ・業務量等について
- ・日本臨床検査技師会精度管理調査について
- ・次年度購入要望機器について
- ・マグネシウム（Mg）に関して
- ・検体検査管理加算Ⅳの算定について

院内保育所運営委員会

委員長 総務課長

構成委員 看護部長、総務課長補佐、保育士、総務課員、看護学院事務職員、老健総看護師長

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・院内保育所ふくろうの運営について

栄養治療食委員会

委員長 食事療法科長

構成委員 診療部副部長、医療技術部長、栄養士 2 名、調理師 2 名、看護師長、
主任看護師 2 名、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・食事提供に関することについて

図書委員会

委員長 診療部長

構成委員 看護部副部長、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、言語聴覚士、臨床工学技士、
主任診療放射線技師、経営企画科員

《協議事項・活動内容等》

開催日：令和 6 年 11 月 20 日

- ・次年度購入雑誌の選定について
- ・一部外国語雑誌 紙媒体から電子媒体への移行について

血液浄化センター運営委員会

委員長 血液浄化センター長代理

委員構成 病院長、副院長、副センター長、看護部長、臨床工学科長、
血液浄化センター看護師長、医療サービス課長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：10 月 10 日、3 月 6 日

- ・透析室ベッド稼働状況について
- ・HD、HDF への治療変更による収益増加・経費削減
- ・導入期加算について

患者サポート委員会

委員長 事務部長

委員構成 副院長、統括診療部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部副部長、
医療安全管理者、看護師、地域連携室長、事務職員

《協議事項・活動内容等》

- ・患者サポート会議（委員会）の開催（毎週金曜日）

患者相談窓口での相談事項について

意見箱へ寄せられた意見への対応について
その他 各部からの相談事項について

行動制限最小化委員会

委員長 精神科主任医長

委員構成 診療部長、診療部副部長、整形外科主任医長、脳外科医長、医療安全管理者、
看護師 15 名、精神保健福祉士 2 名

《協議事項・活動内容等》

- ・行動制限患者に対する病状改善について
- ・行動制限の状況の適切性について
- ・行動制限最小化に向けた取り組みについて

(活動内容等)

開催日：毎月第 4 火曜日（定例）委員会 （主に精神科病棟）

研修会：令和 7 年 2 月 10 日「行動制限最小化について」

令和 7 年 2 月 12 日「精神保健福祉法について」

褥瘡対策委員会

委員長 副院長

委員構成 皮膚科医師、看護師長、皮膚排泄ケア認定看護師、看護師18名、看護補助員2名、
管理栄養士、作業療法士、薬剤師、医療サービス課員

目的 入院生活における褥瘡を防止、治療し、QOLを改善する。

《協議事項・活動内容等》

開催日：4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日、11月15日、
12月20日、1月17日、2月21日、3月21日

- ・褥瘡回診：毎週火曜日15時から
第1、3、5週火曜日：本館・新規依頼患者
第2、4週火曜日：西館・東館・新規依頼患者
- ・ポジショニングラウンド

毎月の委員会開催後にポジショニングラウンドグループが、予め決めた病棟に訪問。体幹抑制中の方、栄養状態が不良の方など褥瘡発生リスクの高い方を対象にラウンドを実施。フィードバックラウンド先へ評価の報告を行った。

- ・入院患者褥瘡発生率・有病率調査
- ・エアマット管理強化状況調査

エアマット管理表を作成し、院内所有分とレンタル分の稼働率や所在が分かるようになった。

- ・院内研修会の実施

第1回 令和7年4月3日～24日「褥瘡回診で介入した患者の症例経過について」※WEB開催

第2回 令和7年4月3日～24日「DESIGH-Rについて」※WEB開催

医療機器安全管理委員会

委員長 医療技術部長（医療機器安全管理責任者）

委員構成 手術センター長、臨床工学科長、臨床工学科主任

臨床検査科長、看護師長 6 名、経営企画課

《協議事項・活動内容等》

開催日：令和 6 年 4 月 2 日、令和 6 年 4 月 25 日、令和 6 年 5 月 23 日

・救命救急センターにおける人工呼吸器の管理・運用体制について

・研修会の開催

研修会：令和 6 年 4 月 1 日医療機器安全管理講習（新人オリエンテーション）

虐待防止委員会

委員長 統括診療部長

顧問 病院長

委員構成 救総科主任医長、精神科主任医長、整形外科主任医長、脳神経外科医長

看護部副部長、看護師長 2 名、医療安全管理者、地域連携室長、地域連携

室長補佐

《協議事項・活動内容等》

開催日：適時開催

・個別の虐待疑い事例（児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者からの暴力等）に対し、院内の関係職種と協同し診療方針を決定

・外部の機関と連携が必要な際には情報提供、情報共有を実施

ハラスメント防止対策委員会

委員長 看護部長

構成委員 副院長、事務部長、事務部次長、看護部副部長、食事療法科長、経営企画課長、

学院副学院長、老健総看護師長

《協議事項・活動状況等》

開催日：5 月 10 日、7 月 23 日、9 月 12 日、11 月 28 日

・委員会規程、相談員規程の見直し

・ハラスメント予防・対応マニュアルの改定

・相談案件についての検討・報告（随時）

・令和 6 年度研修会開催について（研修内容・研修期間の検討、評価）

・研修会の開催

内 容：ハラスメント防止 ～それぞれの立場で考え取り組む～

開催日：令和 6 年 10 月 4 日

講 師：社会保険労務士 医療労務管理アドバイザー 國久弘敏氏

リハビリテーション運営委員会

委 員 長 副院長

委員構成 副院長、統括診療部長、精神科主任医長、整形外科主任医長、内科医長、泌尿器科医長、耳鼻科医長、医療技術部長、リハビリテーション科長、理学療法士 2 名、作業療法士 2 名、言語聴覚士、看護部長、看護部副部長、看護師長 3 名、医療サービス課員

《協議事項・活動内容等》

開催日：令和 6 年 8 月 28 日、令和 6 年 10 月 23 日

・リハビリテーション料の加算算定について

医療放射線管理委員会

委 員 長 画像診断センター長

委員構成 病院長、放射線取扱主任者、医療技術部長、主任診療放射線技師、看護部長、総務課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

・診療放射線の安全利用に係る管理について

職員の負担軽減および処遇の改善委員会

委 員 長 統括診療部長

委員構成 副院長、診療部副部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部長、事務部長、総務課長
病院長(オブザーバー)

《協議事項・活動状況等》

開催日：毎月第 4 金曜日

・委員会での超過勤務実績の報告
・超過勤務短縮に関する検討

健診センター運営委員会

委員長 健診副センター長

委員構成 副院長、診療部長 2 名、主任医長、医長、嘱託医、看護師長 2 名、主任放射線技師、主任検査技師、病院長、医療サービス課長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：令和 7 年 2 月 27 日

- ・次年度内視鏡ドックの開始について
- ・特定健診について

透析機器安全管理委員会

委員長 血液浄化センター長（代理）

委員構成 副センター長、臨床工学科長、血液浄化センター看護師長、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：10 月 10 日、3 月 6 日

- ・透析液水質検査結果報告について
- ・次年度透析液水質検査計画について
- ・当年度の機器更新について

人事評価制度運営委員会

委員長 老健施設長

委員構成 統括診療部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部長、事務部次長、看護部副部長、リハビリテーション科長、看護学院副学院長、看護学院事務長、老健総看護師長、老健事務職員、美方病院総看護師長、美方病院事務職員、総務課課長補佐

《協議事項・活動状況等》

開催日：4 月 25 日、9 月 9 日、10 月 28 日、11 月 14 日、1 月 15 日、3 月 4 日、3 月 24 日

- ・委員会規程および目標について
- ・人事評価年間スケジュールについて
- ・人事評価制度マニュアルの改定について
- ・多面評価者の選定および多面評価の実施
- ・令和 5 年度人事評価の集計結果について
- ・人事評価システムの導入および運用について

薬草園運営委員会

委員長 病院長

構成委員 小西名誉院長、薬剤部長、総務科長、総務課長補佐

外部委員 アドバイザー 渡辺 斉 氏（日本植物園協会名誉会員）

すみれの会 桑原会長、網本元会長、村山委員

《協議事項・活動状況等》

開催日：6月4日、10月19日

- ・令和6年度外部委員への委嘱状交付
- ・すみれの会ボランティア活動について
若い人が加入・参加できる活動にしていく
- ・令和6年度の薬草園行事について
秋に薬草園見学会と講演会を開催（10月19日）

(1) 薬草に親しむ会～見て触って楽しもう～

開催日：令和6年10月19日（土）

内 容：①薬草アドバイザー渡辺斉先生の薬草解説

②体験「挿し木の実技指導」

※当日は園芸ボランティア「すみれの会」、共催する「小浜市の歴史と文化を守る市民の会」およびNPO法人杉田玄白プロジェクト」の会員のほか、一般の方や病院関係者など約40人が参加した。



療養病棟運営委員会

委員長 老健施設長

委員構成 副院長、診療部副部長、外科医長、療養科医、看護部副部長、
看護師長、地域連携室長、地域連携室長補佐

《協議事項・活動状況等》

開催日：7月29日、10月30日

- ・委員会規程改定
- ・療養病棟の入退院状況の確認
- ・主治医不在時の対応について
- ・算定可能な診療報酬について

排尿ケアチーム

リーダー 泌尿器科医長

チーム構成 看護師長、看護師 8 名、理学療法士 2 名、作業療法士 2 名、事務職員

《活動状況等》

- ・週 1 回（水曜日）排尿ケア回診実施（排尿ケア回診：年間 49 回）
- ・包括的排尿ケアの計画策定及び評価（評価件数 202 件）
- ・排尿ケアチーム、病棟看護師等による患者への指導・援助
- ・病棟看護師へ専門的ケアの教育
- ・「カテーテル関連尿路感染症の感染予防策」講習会開催（2024.12.11）

栄養サポートチーム（NST）

リーダー 救急総合診療科医長

チーム構成 医師 4 名、管理栄養士 2 名、薬剤師 3 名、臨床検査技師、言語聴覚士、看護師 2 名、リンクナース 5 名、医療サービス課員

《協議事項、活動状況等》

開催日：毎月第 1 水曜日

- ・栄養アセスメント（栄養評価）、疾患に応じた適切な栄養投与計画作成・提案
- ・チームメンバー（医師、看護師、管理栄養士、薬剤師）による回診・カンファレンスの実施（週 2 回）
- ・栄養治療実施計画書兼報告書作成件数 1006 件
- ・退院時、転院先・かかりつけ医宛て栄養情報提供書の作成
- ・適切な栄養ルートの検討と主治医への提言
- ・ミールワウンドの実施、摂食嚥下状況の確認・評価・再計画
- ・NST 終了時退院前栄養指導の実施
- ・臨床栄養に関する勉強会などの研究活動
- ・早期栄養介入管理加算算定件数 1379 件
- ・NST 介入基準の見直し
- ・診療報酬改定に伴う、GLIM 基準導入に向けての取り組み

《講演・研修》

- 11 月 12 日 救命救急センター 2 階 勉強会 「重症患者の栄養療法について」
看護師・リハビリ技士対象 24 名参加
- 3 月 14 日 救命救急センター 2 階 勉強会 「重症患者の栄養療法について」
看護師・リハビリ技士対象 8 名参加
- 3 月 28 日 日本病態栄養学会教育認定施設 NST 臨床研修
「当院の NST 組織、運営状況（介入流れ）、帳票類の把握、
施設基準、必要栄養量算出方法、経腸栄養剤等について」
実習生 管理栄養士 1 名参加

術後疼痛管理チーム

委員長 診療部長

委員構成 薬剤師、手術看護認定看護師、手術センター看護師、医療サービス課員

《協議事項・活動状況等》

開催日：適時開催

- ・全身麻酔を受けた患者で手術後に継続した硬膜外麻酔後における局所麻酔剤の持続的注入、麻薬を静脈内注射により投与している方に対し、術後疼痛管理、術後悪心嘔吐(PONV)対策を行い評価した。

3. 学 術 活 動 等

【学会発表】

- ・ C 型慢性肝疾患における腸管粘膜関連細菌叢の Dysbiosis と予測機能性解析の検討 翠洋平 第 21 回日本免疫治療学会学術集会 福島市 2024.5.18
- ・ ESA 製剤から HIF-PH 阻害薬への切り替えにより輸血依存を脱した C 型肝硬変、胃前庭部毛細血管拡張症 (GAVE) 合併の維持透析患者の 1 例 木下真希、増田貴博、三澤響平、奥山博仁、土井秀悟、酒井雅人、神永洋彰、岡健太郎、今井利美、里中弘志、秋元哲、長田太助、朝倉伸司 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会 パシフィコ横浜 2024.6.7-9
- ・ 心タンポナーデを呈した急性化膿性心外膜炎に対して心膜開窓を行った 1 例 藤田朝陽、山口順也、長谷川奏恵、池田裕之、玉直人、石田健太郎、宇隨弘泰、多田浩 第 253 回日本内科学会北陸地方会 金沢市 2024.6.9
- ・ C 型肝炎 SVR 後食道静脈瘤合併例における腸管粘膜関連 *Blautia* 属の検討 翠洋平 第 60 回日本肝臓学会総会 熊本市 2024.6.13-14
- ・ 内視鏡的粘膜下層剥離術後 10 年目に多発脊椎転移をきたした直腸 NET の 1 例 翠洋平、竹部万由、齋藤大雅、山口愛奈、井上元気、永谷菜穂 第 137 回日本消化器病学会北陸支部例会 福井大学医学部附属病院 2024.6.16
- ・ CRBSI をきっかけに ALI を発症した PAH の 1 症例 馬場大輔、安原梅夫、山地杏平、木下秀之、井上智之、塩見紘樹、中川靖章、桑原宏一郎、尾野亘 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 久留米シティプラザ 2024.8.9-10
- ・ 高度の肝障害を呈した SGLT2 阻害薬関連正常血糖ケトアシドーシスの 1 例 猪飼敬吾、翠洋平、竹部万由、酒井雅人、齋藤大雅、藤井裕也、井上元気、永谷菜穂 第 254 回日本内科学会北陸地方会 永平寺町 2024.9.8
- ・ ゲムシタピン (GEM) による血栓性微小血管症 (TMA) の臨床経過評価に血清シンドカン-1 が活用できた 1 例 酒井雅人、増田貴博、三澤響平、神永洋彰、木下真希、岡健太郎、菱田英里華、秋元哲、長田太助 第 54 回日本腎臓学会東部学術学会 ライトキューブ宇都宮 2024.9.28-29
- ・ 不随意運動を主訴に発症した脳梗塞の 1 例 川瀬雅人、堀内裕介、眞田采也加、遠藤芳徳、多崎俊樹、永谷菜穂、榎本崇一、上野亜佐子、山村修、濱野忠則 第 255 回日本内科学会北陸地方会 金沢市 2025.3.9

- ・ 4p 欠失症候群に合併し頻回にブコラムを使用した難治性てんかんの 1 例 齋藤志織 日本小児神経学会北陸地方会夏季セミナー（第 14 回白山セミナー） 白山市 2024.8.3-4
- ・ Growth Retardation and Adult Height in Children with Chronic Myeloid Leukemia Treated with Tyrosine Kinase Inhibitors Haruko Shima, Chikako Tono, Akihiko Tanizawa, Masaki Ito, Akihiro Watanabe, Yuki Yuza, Kazuko Hamamoto, Hideki Muramatsu, Masahiko Okada, Shoji Saito, Hiroaki Goto, Masaru Imamura, Akiko M Saito, Souichi Adachi, Eiichi Ishii, Hiroyuki Shimada the 66th ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego(米国) 2024.12.7-10
- ・ 経膈分娩後の子宮出血に対して OB-balloon の経膈的使用が有用であった 2 例 中森あかり、横田貴子、加藤じゅん、服部由香、田中政彰 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 パシフィコ横浜ノース 2024.4.19-21
- ・ オンコロジーエマージェンシーで発症した直腸癌 2 症例の栄養管理 林泰生 第 16 回静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会 敦賀市 2024.9
- ・ 当院における脂肪乳剤の使用状況について 佐野匠、山下典之、片山千聡、林千賀、岸和樹、和田亨、林泰生 第 16 回静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会 敦賀市 2024.9
- ・ 全体講義Ⅲ PEG カテーテル管理ワンポイント 林泰生 北陸 PEG 在宅栄養研究会 第 18 回福井 PEG ワークショップ 福井市 2024.9
- ・ 内視鏡的胃瘻造設術困難症例に対する当院の試み 林泰生、山岸和樹、平山楓、岸和樹、前田敏樹、菅野元喜 第 48 回福井 NST 研究会 福井市 2024.11
- ・ 高 CA19-9 血症を呈した巨大脾嚢胞に対して腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した 1 例 林泰生、山岸和樹、平山楓、岸和樹、前田敏樹、菅野元喜 第 86 回日本臨床外科学会総会 宇都宮市 2024.11
- ・ 地域病院における小児の腹腔鏡下経皮的腹膜外ヘルニア閉鎖術（LPEC）の現状と課題 岸和樹、山岸和樹、平山楓、前田敏樹、林泰生、菅野元喜 第 86 回日本臨床外科学会総会 宇都宮市 2024.11
- ・ 地方市中病院にて診断に苦慮し胸腔鏡下縦隔腫瘍切除生検を行った神経内分泌癌の 1 例 山岸和樹、平山楓、岸和樹、前田敏樹、林泰生、菅野元喜 第 86 回日本臨床外科学会総会 宇都宮市 2024.11

- ・化学放射線治療開始前に PEG を施行し、栄養管理を行った高齢者胸部食道癌の 1 例 林泰生、山岸和樹、平山楓、岸和樹、渡辺倫夫、前田敏樹、菅野元喜 第 17 回静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会 横浜市 2025.3
- ・繰り返し大腸穿孔を来したリベド血管炎の 1 例 平山楓、林泰生、山岸和樹、渡辺倫夫、岸和樹、前田敏樹、菅野元喜 第 61 回日本腹部救急医学会総会 名古屋市 2025.3
- ・脳底動脈に微小瘤状変化を認め、自然消失したくも膜下出血の 2 例 萩原峻太 第 105 回日本脳神経外科学会中部支部会 福井県民ホール（福井県福井市） 2024.4.13
- ・動脈瘤コイル塞栓術中に急激な脳血管攣縮をきたしたくも膜下出血の 1 例 萩原峻太 第 60 回日本脳神経血管内治療学会中部地方会 金沢市文化ホール（石川県金沢市） 2024.8.3
- ・脳室腹腔シャント術後に脳室炎をきたした 1 例 萩原峻太 第 83 回日本脳神経外科学会学術総会 パシフィコ横浜（神奈川県横浜市） 2024.10.16
- ・Ewing 肉腫進展による脳静脈洞血栓症に対して機械的血栓回収療法を施行した 1 例 萩原峻太 第 1 回福井・金沢・京都脳神経外科研究会 福井赤十字病院（福井県福井市） 2024.10.26
- ・頭蓋骨転移性 Ewing 肉腫治療後に生じた脳静脈洞血栓症の 1 例 萩原峻太 第 16 回福井脳神経外科歳末研究会 2024.12.14
- ・Ewing 肉腫進展による脳静脈洞血栓症に対して機械的血栓回収療法を施行した 1 例 萩原峻太 第 50 回日本脳卒中学会 グランキューブ大阪（大阪府大阪市） 2025.3.8
- ・閉塞性腎盂腎炎から髄膜炎を生じた 1 例 高原典子、勝木舞結、小森真衣子、鈴木裕志 第 64 回福井泌尿器科フォーラム 福井市 2024.6.27
- ・多発血管炎性肉芽腫症治療後に発症した尿路結核の 1 例 小森真衣子、勝木舞結、高原典子、鈴木裕志、内木宏延 第 478 回日本泌尿器科学会北陸地方会 金沢市 2024.7.20
- ・G-CSF 産生を認めた膀胱肉腫様型尿路上皮癌の 1 例 高原典子、小森真衣子、嶋田彩保子、山口愛奈、鈴木裕志 第 479 回日本泌尿器科学会北陸地方会 金沢市 2024.11.16

- ・尿管がん十二指腸転移の1例 高原典子、小森真衣子、鈴木裕志、山口愛奈、勝木舞結 第65回福井泌尿器科フォーラム 福井市 2025.1.23
- ・当院における脂肪乳剤の使用状況について 佐野匠 第16回静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会 プラザ萬象 2024.9.21-22
- ・当院における脂肪乳剤の使用状況について 佐野匠 第48回福井県NST研究会 福井県立病院 3階講堂 2024.11.15
- ・病院チームから在宅チームで支える緩和ケアーPCAポンプ導入をきっかけに緩和薬物療法に関与したケースについてー 佐野匠、北野拓真、須田英揮、山下典之、中島大輔、中島佳枝、芝崎幸樹、白波瀬正樹、林泰生 第34回日本病院薬剤師会北陸ブロック学術大会 福井県県民ホール（アオッサ 8F） 2024.12.1
- ・S. flexneri と誤同定した inactive E. coli を経験して 内田達弥、宮谷恵理佳、森谷祐司 第34回福井県医学検査学会 福井市 2024.4.21
- ・血液培養陰性サブカルチャーにより検出し得た Haemophilus parainfluenzae の1症例 内田達弥、森谷祐司 第73回日本医学検査学会 金沢市 2024.5.11
- ・福井県若狭地区の連携強化加算データ集計と評価 内田達弥、刀根正彦、中島佳枝、森脇由希江、井上元気、高原典子、宗石啓和、高鳥裕史、鈴木裕志 第62回全国自治体病院学会 新潟市 2024.10.31

【論文】

- ・ Prolonged Depletion of Renal Tubular Thioredoxin Following Severe Acute Kidney Injury is Associated with Transition to Chronic Kidney Disease via G2/M Cell Cycle Arrest.
Biochem Biophys Res Commun 2025 Mar 25;754:151425. doi: 10.1016/j.bbrc.2025.151425. Epub 2025 Feb 3.
Sho Nishikawa, Kenji Kasuno, Kazuhisa Nishimori, Yuki Shimamoto, Yudai Nishikawa, Mamiko Kobayashi, Seiji Yokoi, Naoki Takahashi, Hideki Kimura, Takahiko Ono, Eri Muso, Haruyoshi Yoshida, Kaikobad Irani, Junji Yodoi, Fumihiko Namba, Masayuki Iwano, Tadashi Toyama.
- ・ Does the Number of Turns during Sleep Have Utility in the Early Detection of Parkinson's Disease and Its Related Disorders?
Tokuharu Tanaka, Hidenori Onishi, Masaki Kiyono, Yuki Miyazaki, Azusa Tanaka, Akihiko Tanizawa, Tadanori Hamano, Hiroyuki Hayashi, Koji

Kobayashi, Osamu Yamamura JMA J 2024 Oct 15;7(4):553-561

- Growth retardation and adult height in pediatric patients with chronic-phase chronic myeloid leukemia treated with tyrosine kinase inhibitors
Haruko Shima, Chikako Tono, Akihiko Tanizawa, Masaki Ito, Akihiro Watanabe, Yuki Yuza, Kazuko Hamamoto, Hideki Muramatsu, Masahiko Okada, Shoji Saito, Hiroaki Goto, Masaru Imamura, Akiko Saito, Souichi Adachi, Eiichi Ishii, and Hiroyuki Shimada Leukemia 2025 Feb;39(2):508-511
- MCT フォーミュラ投与が診断の一助となったシトリン欠損症の 1 例 亀川昌平、杉原啓一、酒井武彦、畑郁江 特殊ミルク情報 60 号 2025.2
- Two Cases of Subarachnoid Hemorrhage with Microaneurysmal Changes and Spontaneous Disappearance in the Basilar Artery. Ryota Hagihara. NMC Case Report Journal 11, 213-219, 2024
- Mechanical Thrombectomy for Cerebral Venous Sinus Occlusion Due to Ewing Sarcoma: A Case Report. Ryota Hagihara. Journal of Neuroendovascular Therapy 2025; 19: 2024-0119
- A rare case of other iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorders with multiple oral mucosal lesions during methotrexate therapy Itsuki HAYASHI, Makoto TOIDA Cureus Journal of Medical Science 16(4): e58995, April 25, 2024, doi: 10.7759/cureus.58995
- Oral elastofibromatous lesion on the tip of the tongue: a case report and a literature review Makoto TOIDA, Itsuki HAYASHI, Aina Yamaguchi, Hironobu Naiki Cureus Journal of Medical Science 16(7): e65430, July 26, 2024, doi: 10.7759/cureus.65430
- 下唇に発生した類上皮血管内皮腫の1例 林 樹, 土井田 誠, 水井 工, 阿部幸二郎, 山下知己, 牧田浩樹 日本口腔外科学会雑誌70巻2号: 49-53, 2024
- 鼻腔から切歯管にかけて認められた上顎正中過剰埋伏歯の1例 石丸純一, 土井田 誠, 石丸京子 日本口腔外科学会雑誌 70 巻 5 号: 188-191, 2024

【講演会】

- ・「CokoUta かふえ」父親のつどい 講師 原慶和 高島晋介 蒲原健人 於：
cokouta（小浜市後瀬町）2024.7.20
- ・「小浜市を取り巻く療育環境の変化」 講師 原慶和 サンサンホーム小浜
2024.9.7
- ・「子どもの病気について～医療と福祉の連携～」 講師 原慶和 中郷公民館
2024.11.15
- ・「CokoUta かふえ」きょうだい支援 講師 原慶和 於：cokouta（小浜市後瀬町）
2024.12.7
- ・「おくすりってなあに？」 講師 白波瀬正樹 今富第3児童クラブ（旧今富公民館）
2024.7.31 今富第1児童クラブ（旧小浜市子育て支援センター） 2024.8.7
- ・「求められるMR像とは」 講師 白波瀬正樹 福井商工会議所会議室 小会議室
2025.3.6

<小浜病院健康講座>

- ・「フレイルと排尿障害」～元気で快適におしっこしよう～ 高原典子 小浜働く婦人の家（小浜市）2024.7.7
- ・「フレイル予防のために！」～転倒予防の観点から～ 澤田真男 小浜働く婦人の家（小浜市）2024.7.7
- ・睡眠時無呼吸症候群 冨田かおり 小浜働く婦人の家（小浜市）2024.7.7
- ・「検診で肝臓の数値が高いと言われたら？」 井上元気 小浜働く婦人の家（小浜市）
2024.11.24
- ・「放射線科の紹介」 川上悟司 小浜働く婦人の家（小浜市）2024.11.24
- ・脳神経内科医からみた認知症 堀内裕介 小浜働く婦人の家（小浜市）2024.11.24

【著書・報告・その他】

- ・「地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院をめざして」 佐野匠、
須田英樹、白波瀬正樹 日本病院薬剤師会雑誌 Vol.60.No.8 2024 p924-925

【院内活動】

<京大連携「わかさセミナー」>

平成 26 年 4 月に京都大学医学部に開設された公立小浜病院組合寄付講座「地域医療システム学講座」(代表 木下 秀之 特定准教授)の地域活動の一環として、小浜医師会及び関連製薬会社との共催で毎月開催し好評を得ている。院内外の医療従事者を対象に京都大学および関連病院の若手医師が臨床トピックスを講演している。

令和 6 年度は昨年度に引き続き、ハイブリッド形式(オンライン併用)で開催を行った。

第 103 回 2024.6.13 「周術期に用いる漢方処方」

近畿大学医学部 下部消化管外科 医学部講師 和田 聡朗 先生

第 104 回 2024.7.12 「COVID-19 との共存時代を迎えて」

京都大学大学院 医学研究科 呼吸器内科学 准教授 伊藤 功朗 先生

第 105 回 2024.10.3 「脳梗塞慢性期、後遺症マネジメント～脳卒中後疼痛を中心に～」

京都大学大学院 医学研究科 臨床神経学 講師 眞木 崇州 先生

第 106 回 2024.12.16 「膠原病診療の最近の動向」

京都大学大学院 医学研究科 内科学講座臨床免疫学 助教 秋月 修治 先生

<医局カンファレンス>

4 月 17 日 『術中迅速病理組織診断～肺癌を中心に～』 外科 菅野 元喜

5 月 15 日 『白内障手術について』 眼科 小森 涼平

6 月 19 日 『福井県における重症熱性血小板減少症候群の検討』

麻酔科 宗石 啓和

7 月 17 日 『冠動脈疾患患者における抗血栓薬 LDL 管理について』

内科 宮原 孝輔

9 月 18 日 『熱中症診療 update』 救急総合診療科 階戸 尊

10 月 16 日 『せん妄について』 精神科 鶴戸 逸友

11 月 20 日 『NIPRO IP エコーを用いた上腕 PICC 挿入経験』

外科 林 泰生

1 月 15 日 『体組成計の臨床活用～栄養 サルコペニア 体液管理の観点から～』

内科 酒井 雅人

2 月 19 日 『当院における心肺停止搬送の現状、アドバンス・ケア・プランニングについて』

救急総合診療科 大森 啓子

3 月 19 日 『間質性膀胱炎について』 泌尿器科 高原 典子

<院内感染対策講演会・抗菌薬適正使用支援研修会>

1 回目 開催日：令和 6 年 8 月 23 日

演題：『環境面からみた手指衛生の重要性』

感染防止対策室 ICN 刀根正彦 看護師

2 回目 開催日：令和 6 年 9 月 27 日

『抗菌薬の適正使用について』

主任薬剤師 中島佳枝

3 回目 開催日：令和 6 年 10 月 22 日

『清拭タオルが由来と考えられた *Bacillus cereus* 院内感染への対応』

臨床検査技師 内田達弥

4 回目 開催日：令和 6 年 11 月 19 日

『新型コロナワクチンの基本』

泌尿器科 ICD 鈴木裕志 医師

5 回目 開催日：令和 6 年 12 月 11 日

演 題：『膀胱留置カテーテルの感染対策について』

本館 8 階 ICN 森脇由希江 看護師

<医薬品の安全使用のための研修>

開催日：令和 7 年 2 月（院内 WEB 配信）

演 題：『医薬品に関する医療安全情報』

<医療安全研修会>

1 回目 開催日：令和 6 年 9 月 13 日

演 題：『患者誤認：前半』

2 回目 開催日：令和 7 年 1 月 24 日

演 題：『患者誤認：後半』

<臨床研修医研究発表会>

第 26 回 令和 6 年 9 月 24 日 18 時～

I 子宮体がんの腸間膜播種として紹介された小腸がんの 1 例

研修医 2 年目 伊藤 皓亮

II 不随意運動を主訴に発症した脳梗塞の 1 例

研修医 2 年目 川瀬 雅人

第 27 回 令和 7 年 3 月 7 日 18 時～

- I 高度の肝障害を呈した SGLT2 阻害薬関連正常血糖値ケトアシドーシスの
1 例

研修医 1 年目 猪飼 敬吾

- II 装置の入れ替えに伴い MRI を撮像できなかった期間の、救急外来における
脳卒中診療

研修医 1 年目 宇貞 歩

- III 原発性硬化性胆管炎疑いの反復する胆管炎患者において胆管癌を発症した
1 例

研修医 1 年目 芝 奎太郎

- IV 繰り返し再発した深頸部膿瘍の 1 例

研修医 2 年目 伊藤 皓亮

- V 急性緑内障発作の 1 例

研修医 2 年目 川瀬 雅人

<看護研究発表会>

令和 7 年 2 月 13 日 本館 9 階大会議室

- I 救急外来におけるコンタミネーション減少への取り組み
～アルコール消毒と皮膚洗浄後のアルコール消毒との比較～

救命救急センター1 階 塚原里奈

- II 開腹・腹腔鏡下における消化管切除における術後の離床
～術前パンフレットの見直しによる看護師の早期離床に対する意識調査～

本館 5 階 秋長健太

- III 体幹抑制早期解除による ADL 確立への効果
～BPSD にも焦点をあてて～

西館 3 階 鯖谷菜月

Ⅲ. 各種統計

延べ外来患者数 診療科別 () は診療実日数

診療科	令和4年度 (242日)	令和5年度 (242日)	令和6年度 (242日)	前年度比
内科・循環器内科	52,336	51,402	50,539	△863
外科・消化器外科	7,867	8,395	8,291	△104
整形外科	18,495	18,859	18,159	△700
脳神経外科	5,192	5,217	5,173	△44
小児科	12,278	11,730	11,578	△152
産婦人科	8,571	8,828	8,637	△191
精神科	12,322	12,698	11,315	△1,383
耳鼻いんこう科	6,437	7,722	8,405	683
眼科	11,604	11,901	12,424	523
皮膚科	6,082	7,267	8,292	1,025
泌尿器科	9,329	9,279	9,998	719
麻酔科	0	0	0	0
放射線科	1,195	1,199	767	△432
歯科口腔外科	13,179	12,651	12,476	△175
心臓血管外科	192	205	244	39
形成外科	793	791	888	97
救急総合診療科	8,447	9,477	9,957	480
合 計	174,319	177,621	177,143	△478

() は診療実日数

1日平均外来患者数 診療科別

診療科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
内科・循環器内科	216.3	212.4	208.8	△3.6
外科・消化器外科	32.5	34.7	34.3	△0.4
整形外科	76.4	77.9	75.0	△2.9
脳神経外科	21.5	21.6	21.4	△0.2
小児科	50.7	48.5	47.8	△0.7
産婦人科	35.4	36.5	35.7	△0.8
精神科	50.9	52.5	46.8	△5.7
耳鼻いんこう科	26.6	31.9	34.7	2.8
眼科	48.0	49.2	51.3	2.1
皮膚科	25.1	30.0	34.3	4.3
泌尿器科	38.5	38.3	41.3	3.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	4.9	5.0	3.2	△1.8
歯科口腔外科	54.5	52.3	51.6	△0.7
心臓血管外科	0.8	0.8	1.0	0.2
形成外科	3.3	3.3	3.7	0.4
救急総合診療科	34.9	39.2	41.1	1.9
合 計	720.3	734.0	732.0	△2

※小数点第2四捨五入

延べ外来患者数 市町別 () は診療実日数

市 町 名		令和 4 年度 (242 日)	令和 5 年度 (242 日)	令和 6 年度 (242 日)	構成比
小 浜 市		118,206	120,440	119,217	67.3%
若狭町	旧上中町	17,515	17,690	17,976	10.1%
	旧三方町	5,865	6,085	6,111	3.4%
おおい町	旧名田庄村	6,794	6,924	6,876	3.9%
	旧大飯町	10,803	10,781	11,376	6.4%
美 浜 町		1,254	1,343	1,301	0.7%
高 浜 町		9,882	10,518	10,399	5.9%
その他地域 (県内)		1,542	1,581	1,622	0.9%
その他地域 (県外)		2,458	2,259	2,265	1.3%
合 計		174,319	177,621	177,143	100%

() は診療実日数

1 日平均外来患者数 市町別

市 町 名		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
小 浜 市		488.5	497.7	492.6	△5.1
若狭町	旧上中町	72.4	73.1	74.3	1.2
	旧三方町	24.2	25.1	25.3	0.2
おおい町	旧名田庄村	28.1	28.6	28.4	△0.2
	旧大飯町	44.6	44.5	47.0	2.5
美 浜 町		5.2	5.5	5.4	△0.1
高 浜 町		40.8	43.5	43.0	△0.5
その他地域 (県内)		6.4	6.5	6.7	0.2
その他地域 (県外)		10.2	9.3	9.4	0.1
合 計		720.3	734.0	732.0	△2

※小数点第 2 位四捨五入

延べ入院患者数 診療科別

診療科	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
内科・循環器内科	30,532	35,649	37,713	2,064
外科・消化器外科	10,461	11,633	10,242	△1,391
整形外科	14,166	12,701	14,196	1,495
脳神経外科	10,694	11,354	8,163	△3,191
小 児 科	1,603	1,584	1,501	△83
産婦人科	3,330	3,535	2,700	△835
精神科	27,164	28,483	21,806	△6,677
耳鼻いんこう科	1,190	1,313	1,586	273
眼 科	618	660	687	27
泌尿器科	4,056	3,771	4,444	673
歯科口腔外科	183	276	230	△46
救急総合診療科	3,264	2,922	3,339	417
療養病床	11,493	13,799	15,378	1,579
合 計	118,754	127,680	121,985	△5,695

1 日平均入院患者数 診療科別

診療科	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
内科・循環器内科	83.6	97.4	103.3	5.9
外科・消化器外科	28.7	31.8	28.1	△3.7
整形外科	38.8	34.7	38.9	4.2
脳神経外科	29.3	31.0	22.4	△8.6
小 児 科	4.4	4.3	4.1	△0.2
産婦人科	9.1	9.7	7.4	△2.3
精神科	74.4	77.8	59.7	△18.1
耳鼻いんこう科	3.3	3.6	4.3	0.7
眼 科	1.7	1.8	1.9	0.1
泌尿器科	11.1	10.3	12.2	1.9
歯科口腔外科	0.5	0.8	0.6	△0.2
救急総合診療科	8.9	8.0	9.1	1.1
療養病床	31.5	37.7	42.1	4.4
合 計	325.4	348.9	334.2	△14.7

※小数点第 2 位四捨五入

延べ入院患者数 近隣市町別

市 町 名		令和 4 年度 (365 日)	令和 5 年度 (366 日)	令和 6 年度 (日)	構成比
小 浜 市		71,556	78,321	76,946	63.1%
若狭町	旧上中町	13,365	14,826	13,321	10.9%
	旧三方町	3,684	3,773	3,713	3.0%
おおい町	旧名田庄村	5,947	5,508	5,752	4.7%
	旧大飯町	7,825	9,096	8,191	6.7%
美 浜 町		2,114	1,729	1,174	1.0%
高 浜 町		8,918	9,086	8,713	7.1%
その他地域（県内）		1,977	2,597	1,874	1.5%
その他地域（県外）		3,368	2,744	2,301	1.9%
合 計		118,754	127,680	121,985	100.0%

() は診療実日数

1 日平均入院患者数 近隣市町別

市 町 名		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
小 浜 市		196.0	214.0	210.8	△3.2
若狭町	旧上中町	36.6	40.5	36.5	△4.0
	旧三方町	10.1	10.3	10.2	△0.1
おおい町	旧名田庄村	16.3	15.0	15.8	0.8
	旧大飯町	21.4	24.9	22.4	△2.5
美 浜 町		5.8	4.7	3.2	△1.5
高 浜 町		24.4	24.8	23.9	△0.9
その他地域（県内）		5.4	7.1	5.1	△2
その他地域（県外）		9.2	7.5	6.3	△1.2
合 計		325.4	348.9	334.2	△14.7

※小数点第 2 位四捨五入

平均在院日数

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
一般病床合計	15.9	16.4	16.4

病床利用率（実稼動病床数による）

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
一 般 （250 床）	70.9%	78.1%	77.8%
療 養 （50 床）	63.0%	75.4%	84.3%
結 核 （8 床）	4.8%	9.2%	2.1%
精 神 （100 床）	73.4%	77.1%	59.7%
感染症 （2 床）※	※ 1	※ 2	0%
合 計 （450 床）	71.3%	76.5%	73.3%

※1 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 3,725 人受入れております。

※2 " 89 人受入れております(5/8～5 類移行)

休日および時間外患者数

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
延べ患者数	9,803	10,302	9,711
一日平均	26.8	28.1	26.6

救急車搬送患者数

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
平日日勤帯	674	696	634
休日・時間外	1,177	1,128	1,125
合 計	1,851	1,824	1,759
一日平均	5.1	5.0	4.8

へき地巡回診療患者数

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
延べ患者数	420	361	370
一回平均	5.0	4.3	4.4

〔へき地巡回診療地区〕

〔小浜市〕 堅海、根来、宮川（休止）

〔若狭町〕 西浦、奥杉山（休止）

〔高浜町〕 日引、音海（休止）、上瀬（休止）

年間診療回数：計 84 回

手術件数（中央手術室における件数）

診療科	令和４年度	令和５年度	令和６年度	前年度比
内科（循環器科含）	53	29	45	16
外科	404	422	449	27
整形外科	351	287	289	2
産婦人科	116	70	87	17
耳鼻いんこう科	72	90	80	△10
泌尿器科	119	146	165	19
脳神経外科	42	64	44	△20
眼科	537	517	499	△18
歯科口腔外科	77	87	104	17
形成外科	86	91	115	24
合 計	1,857	1,803	1,877	74

分娩（出産）件数

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	前年度比
分娩件数	295	238	212	△26

内視鏡検査件数 ※健診・ドックの検査件数を含む

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	前年度比
上部消化管検査	2,123	2,358	2,272	△86
（粘膜切除術）	6	13	16	3
（内視鏡的胃ろう増設術）	30	18	11	△7
下部消化管検査	899	1,272	1,113	△159
（大腸ポリープ切除術）	153	291	297	6
（粘膜下層剥離術）		13	18	5
膵胆管造影検査	140	174	134	△40
小腸内視鏡	6	4	7	3

薬剤部 統計

処方箋枚数		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
外 来	院内処方	8,904	8,216	7,799	△ 417
	院外処方	79,646	83,911	84,400	489
入 院		42,108	45,767	45,549	△ 218
注 射		40,042	45,446	40,892	△ 4,554
期限切れ院外処方箋枚数		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
枚数(割合)		306(0.38%)	150(0.18%)	141(0.17%)	△9
無菌製剤処理加算件数		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
抗がん剤	外 来	1,050	1,187	1,277	90
	入 院	441	445	490	45
TPN	入 院	751	881	1,331	450
薬剤管理指導件数		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
ハイリスク※ ¹		326	388	362	△ 26
そ の 他※ ²		101	168	115	△ 53
退院時服薬指導加算		64	142	160	18
麻薬管理指導加算		14	19	8	△ 11
※ ¹ 特に安全管理が必要な医薬品の使用患者への指導件数					※ ² 1以外
持参薬鑑別件数		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
鑑別件数		2,612	2,803	2,910	107
1日平均件数		7.1	7.7	8.0	0.3
疑義照会件数		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
院外処方		3,775	4,310	4,445	135
院 内	内用・外用	750	689	788	99
	注射	139	134	163	29
一般名処方加算		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
一般名処方加算1		794	842	1,400	558
一般名処方加算2		11127	12683	14943	2260
対象医薬品品目数*		193	224	283	59
		*：各年度末の一般名処方可能医薬品品目数			
インシデントレポート		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
レポート登録数		101	92	52	△ 40
院内製剤		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
調製品目数		15	19	17	△ 2
調製件数		108	128	120	△ 8
トレーシングレポート (服薬情報提供書)		令和4年度	令和5年度	令和6年度	前年度比
レポート報告数		未調査	336	612	276

画像診断センター 統計

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
X線一般撮影	26,775	28,911	29,054	143
C T	11,356	11,962	11,799	△163
M R I	3,628	3,603	3,390	△213
核医学検査（R I 検査）	318	279	243	△36
血管造影	419	308	198	△110
骨塩定量検査	516	588	654	66
超音波検査	5,100	5,365	5,264	△101
P E T／C T 検査	322	405	360	△45
治療計画件数	48	54	42	△12
放射線治療体外照射件数	1,113	1,391	787	△604

リハビリテーション科 統計

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
理 学 療 法	32,218	33,053	33,444	391
作 業 療 法	18,554	18,216	19,052	836
言 語 療 法	3,325	3,763	4,848	1,085
摂食機能療法	8,788	9,241	10,022	781

（上記各項目には、物理療法、心理検査等の件数を含む）

食事療法科 統計

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
常 食	50,021	53,692	51,425	△2,267
軟 菜 食	150,782	148,649	152,312	3,663
流 動 食	1,523	1,850	1,744	△106
特 別 食	106,297	120,703	109,377	△11,326
栄養指導件数（集団）	0	0	0	0
栄養指導件数（入院）	119	185	105	△80
栄養指導件数（外来）	336	336	321	△15
栄養管理件数	5,095	5,393	5,172	△221
栄養治療実施計画作成件数 （栄養サポートチーム）	1,017	1,194	1,006	△188

臨床検査科 統計（主要なものを掲載）

血液生化学検査	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	前年度比
A S T	43,636	46,950	46,395	△555
A L T	43,572	46,885	46,371	△514
γ-G T	29,130	32,346	31,168	△1,178
総コレステロール	16,415	17,230	16,172	△1,058
H D L コレステロール	11,689	12,400	11,997	△403
尿酸	20,273	20,865	20,346	△519
血糖	31,964	37,568	34,601	△2,967
ヘモグロビンA 1 C	10,449	10,769	10,478	△291
一般検査				
尿検査定性(糖・蛋白・潜血他)	24,564	24,658	24,678	20
便潜血検査	2,643	2,946	3,020	74
血液学的検査				
一般血液検査(血球数等測定)	46,985	49,987	49,305	△682
血液細胞像/白血球分類検査	31,426	34,166	33,358	△808
プロトロンビン時間	8,116	8,899	7,117	△1,782
Dダイマー	4,070	3,744	3,593	△151
免疫・血清学的検査				
B型肝炎ウイルス抗原	4,433	4,696	4,382	△314
C型肝炎ウイルス抗体	4,262	4,495	4,190	△305
C E A	5,095	5,409	5,216	△193
C A 19-9	3,590	3,786	3,579	△207
B N P	3,824	3,903	3,886	△17
生理機能検査				
心電図	6,601	7,383	7,048	△335
ホルター心電図	190	168	170	2
脳波	167	201	170	△31
A B I	371	357	307	△50
神経伝導速度	83	105	112	7
微生物学的検査				
一般細菌培養検査	7,303	7,554	7,801	247
結核菌培養検査	477	629	674	45
細胞診検査				
細胞診検査	2,065	2,307	2,355	48
病理組織検査				
病理組織検査	1,590	1,814	2,037	223
術中迅速病理検査	14	17	40	23
病理解剖件数	2	0	4	4

地域連携・医療福祉相談件数

紹介および逆紹介の状況

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
紹介件数	5,116	5,275	5,159	5,128
紹介率	31.1%	25.6%	22.9%	23.1%
逆紹介件数	3,876	4,766	4,693	4,371
逆紹介率	35.7%	30.2%	26.9%	29.2%

ふくいメディカルネット運用件数

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件 数	165	140	145	124

新規相談件数

	入 院	外 来	他院等より	計
件 数	457	36	0	493

新規相談の主訴別分類（重複あり）

転院、退院（在宅医療）等の調整	402 件
各種制度紹介、活用援助	323 件
医療費等の経済的問題に関すること	5 件
そ の 他	59 件

新規相談の受診科別分類（重複あり）

内 科	外 科	整形外科	脳神経外科	小児科
200	35	111	67	1
産婦人科	精神科	耳鼻いんこう科	眼 科	皮膚科
1	19	3	0	0
泌尿器科	循環器科	歯科口腔外科	救急総合診療科	他院等より
22	0	0	34	0

退院支援の状況

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
総 件 数	802	834	850	861
転院支援	179	181	161	153
特養老健	102	212	113	231
養 護	5	4	6	6
高齢者賃貸	39	47	51	44
障害福祉施設	26	17	24	31
生保指定施設	2	0	0	0
自 宅	347	366	395	383
その他	6	7	16	13

退院支援加算

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件 数	85	417	796	963

多職種カンファレンス（介護支援連携加算）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件 数	89	105	106	94

療養病棟転棟支援

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件 数	26	26	49	34

精神科訪問看護実施回数（往診同行含む）

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
件 数	2	0	0	0

IV. 決算概要

経営・財務指標

項 目		単位	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
年延患者数	入院	人	118,754	127,680	121,985
	外来	人	174,319	177,621	177,143
1 日平均患者数	入院	人	325	349	334
	外来	人	720	734	732
平均在院日数	一般	日	15.9	16.4	16.4
患者 1 人 1 日 当たり診療収入	入院	円	39,521	38,941	40,057
	外来	円	12,668	13,200	12,907
病床利用率 (実稼動病床数)	一般	%	70.9%	78.1%	77.8%
	療養	%	63.0%	75.4%	84.3%
	結核	%	4.8%	9.2%	2.1%
	精神	%	73.4%	77.1%	59.7%
	合計	%	71.3%	76.5%	73.3%
	感染症	%	※ 1	※ 2	0%
職員 1 人 1 日 当たり診療収入	医師	円	311,728	298,363	302,684
	看護師	円	52,234	55,309	55,681
病院事業収益		千円	9,239,056	8,986,195	8,784,109
医業収益		千円	7,165,288	7,577,683	7,424,434
病院事業費用		千円	8,828,361	8,906,014	9,256,037
医業費用		千円	8,176,631	8,299,871	8,663,167
損益		千円	410,695	80,181	△471,928
給与費		千円	4,819,169	4,934,690	5,201,568
給与費対医業収益比率		%	67.3%	65.1%	70.1%
材料費		千円	1,639,649	1,699,356	1,721,701
材料費対医業収益比率		%	22.9%	22.4%	23.2%
薬品費		千円	1,001,640	1,033,474	1,068,382
薬品費対医業収益比率		%	14.0%	13.6%	14.4%
経費		千円	895,026	933,051	998,722
経費対医業収益比率		%	12.5%	12.3%	13.5%
委託費		千円	478,975	496,778	516,760
委託費対医業収益比率		%	6.7%	6.6%	7.0%
光熱水費		千円	153,198	136,939	144,180
光熱水費対医業収益比率		%	2.1%	1.8%	1.9%
燃料費		千円	28,755	35,672	37,786
燃料費対医業収益比率		%	0.4%	0.5%	0.5%
減価償却費		千円	687,250	608,039	620,965
減価償却費対医業収益比率		%	9.6%	8.0%	8.4%

※1 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 3,725 人受入れております。

※2 新型コロナウイルス感染症患者を年間延べ 89 人受入れております(5/8～5 類移行)

令和 6 年度公立小浜病院組合事業会計決算報告

1 令和 6 年度公立小浜病院組合病院事業報告書（抜粋）

〔杉田玄白記念公立小浜病院事業〕

（ア）患者数

外来患者数は、年間延べ 177,143 人(1 日平均 732 人)で、前年度に比較し 478 人(1 日あたり 2 人)減少し、入院患者数は、年間延べ 121,985 人(1 日平均 334 人)で、前年度に比較し 5,695 人(1 日平均 15 人)減少しました。

（イ）収益的収支

収入総額は、8,784,108,880 円で、前年度に比較し 202,085,883 円(2.2%)減少しました。また、支出総額は、9,256,037,079 円で、前年度に比較し 350,022,921 円(3.9%)の増加となり、471,928,199 円の損失を生じる結果となりました。損益は前年度に比較し、552,108,804 円悪化しました。

（ウ）資本的収支

収入は、補助金 134,527,000 円、市町負担金 1,683,000 円、企業債 220,400,000 円、修学資金貸付金返還金 10,950,000 円の合計 367,560,000 円。支出は、建設改良費 339,200,393 円、企業債償還金 743,547,409 円、修学資金貸付金 19,550,000 円の合計 1,102,297,802 円となりました。収入不足額 734,737,802 円については、損益勘定留保資金 494,408,161 円及び当年度分資本費繰入収益 240,329,641 円にて補てんしました。

建設改良費は病院建築費で、本館電気室非常用電気設備更新工事など 54,340,000 円、資産購入費では 透析監視装置他 15 品 103,309,393 円を購入しました。また看護学院 ICT コンピュータシステムの今年度分をリース資産購入費として計上しました。

2 事業収入に関する事項

区 分	令和5年度		令和6年度		対前年比 (R6-R5)	
	金 額 (円)	構成比率 (%)	金 額 (円)	構成比率 (%)	増減額 (円)	伸 率 (%)
医業収益	7,577,682,641	84.33	7,424,434,028	84.52	△ 153,248,613	△ 2.00
外来収益	2,344,534,893	26.09	2,286,361,673	26.03	△ 58,173,220	△ 2.50
入院収益	4,971,926,092	55.33	4,886,329,346	55.63	△ 85,596,746	△ 1.70
その他医業収益	261,221,656	2.91	251,743,009	2.87	△ 9,478,647	△ 3.60
医業外収益	1,266,999,879	14.10	1,213,896,730	13.82	△ 53,103,149	△ 4.20
財産収益	61,234,359	0.68	59,265,746	0.67	△ 1,968,613	△ 3.20
患者外給食収益	275,080	0.00	771,459	0.01	496,379	180.40
付添寝具料	61,159	0.00	51,214	0.00	△ 9,945	△ 16.30
他会計補助金	720,686,409	8.02	692,700,636	7.89	△ 27,985,773	△ 3.90
市町補助金	10,371,840	0.12	10,229,760	0.12	△ 142,080	△ 1.40
県助成金	60,120,645	0.67	22,373,679	0.25	△ 37,746,966	△ 62.80
国庫補助金	5,020,000	0.06	3,590,000	0.04	△ 1,430,000	△ 28.50
地域療育拠点運営事業受託料	6,172,752	0.07	6,172,752	0.07	0	0.00
長期前受金戻入	141,356,919	1.57	159,811,574	1.82	18,454,655	13.10
資本費繰入収益	247,036,388	2.75	240,329,641	2.74	△ 6,706,747	△ 2.70
その他医業外収益	14,664,328	0.16	18,600,269	0.21	3,935,941	26.80
へき地医療拠点病院事業収益	9,144,400	0.10	9,350,610	0.11	206,210	2.30
へき地巡回診療収益	1,721,400	0.02	1,830,610	0.02	109,210	6.30
補助金	7,423,000	0.08	7,520,000	0.09	97,000	1.30
高等看護学院収益	132,367,843	1.47	136,427,512	1.55	4,059,669	3.10
負担金	18,497,000	0.21	16,095,000	0.18	△ 2,402,000	△ 13.00
助成金	113,870,843	1.27	120,332,512	1.37	6,461,669	5.70
事業収益 計	8,986,194,763	100.00	8,784,108,880	100.00	△ 202,085,883	△ 2.20

3 事業費に関する事項

区 分	令和5年度		令和6年度		対前年比(R6-R5)	
	金 額 (円)	構成比率 (%)	金 額 (円)	構成比率 (%)	増減額 (円)	伸 率 (%)
医業費用	8,299,871,073	93.19	8,663,167,360	93.59	363,296,287	4.40
給与費	4,934,689,608	55.41	5,201,568,058	56.20	266,878,450	5.40
材料費	1,699,356,195	19.08	1,721,700,995	18.60	22,344,800	1.30
経費	933,050,967	10.48	998,721,564	10.79	65,670,597	7.00
減価償却費	608,038,685	6.83	620,964,654	6.71	12,925,969	2.10
資産減耗費	23,602,000	0.27	16,671,100	0.18	△ 6,930,900	△ 29.40
研究研修費	101,133,618	1.14	103,540,989	1.12	2,407,371	2.40
統轄管理費	42,278,893	0.47	38,019,570	0.41	△ 4,259,323	△ 10.10
給与費	40,761,294	0.46	36,386,617	0.39	△ 4,374,677	△ 10.70
経費	1,517,599	0.02	1,632,953	0.02	115,354	7.60
医業外費用	424,489,419	4.77	411,487,325	4.45	△ 13,002,094	△ 3.10
支払利息及び企業債取扱諸費	105,548,001	1.19	97,972,872	1.06	△ 7,575,129	△ 7.20
患者外給食材料費	433,629	0.00	849,500	0.01	415,871	95.90
患者外寝具委託費	298,656	0.00	297,840	0.00	△ 816	△ 0.30
消費税	17,614,600	0.20	17,403,500	0.19	△ 211,100	△ 1.20
その他医業外費用	300,594,533	3.38	294,963,613	3.19	△ 5,630,920	△ 1.90
へき地医療拠点病院費	8,908,861	0.10	9,102,191	0.10	193,330	2.20
へき地巡回診療事業費	8,908,861	0.10	9,102,191	0.10	193,330	2.20
高等看護学院費	130,465,912	1.46	134,260,633	1.45	3,794,721	2.90
給与費	112,262,439	1.26	113,244,769	1.22	982,330	0.90
教材費	1,174,430	0.01	1,779,549	0.02	605,119	51.50
研究研修費	399,188	0.00	927,756	0.01	528,568	132.40
経費	16,629,855	0.19	18,308,559	0.20	1,678,704	10.10
事業費用 計	8,906,014,158	100.00	9,256,037,079	100.00	350,022,921	3.90